

平成25年度業務実績報告書

平成26年6月
独立行政法人国立美術館

目 次

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上	
1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開	
(1) 多様な鑑賞機会の提供	3
① 所蔵作品展	3
② 企画展	4
③ 東京国立近代美術館フィルムセンター映画上映等	8
④ 巡回展	10
(2) 美術創造活動の活性化の推進	10
① 公募団体等への展覧会会場の提供（国立新美術館）	10
② 新しい芸術表現への取組み	11
(3) 美術に関する情報の拠点としての機能の向上	13
① 情報通信技術（ICT）を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等	13
② 美術情報の収集、記録の作成・蓄積、デジタル化、レファレンス機能の充実	15
(4) 国民の美的感性の育成	17
① 幅広い学習機会の提供	17
② ボランティアや支援団体の育成等による教育普及事業	20
③ 映画フィルム・資料を活用した教育普及活動	23
(5) 調査研究成果の美術館活動への反映	24
① 調査研究一覧	24
② 展覧会カタログの執筆	30
③ 研究紀要の執筆	34
④ 館ニュース等の執筆	35
(6) 快適な観覧環境の提供	39
① 高齢者、身体障害者、外国人等への対応	39
② 展示、解説の工夫と音声ガイドの導入	40
③ 入場料金、開館時間等の弾力化	41
④ キャンパスメンバーズ制度の実施	42
⑤ ミュージアムショップ、レストラン等の充実	43
2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承	
(1) 美術作品の収集	44
(2) 収蔵庫等保存施設の狭隘・老朽化への対応と適切な保存環境の整備等	47
① 収蔵庫等の狭隘・老朽化への対応	47
② 保存環境の整備等と防災対策の推進・充実	48
(3) 所蔵作品の修理・修復	48
(4) 美術作品の保管・修理等に関する調査研究	50
3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与	
(1) 所蔵作品等に関する調査研究成果の発信	53
① 研究紀要、学術雑誌、展覧会刊行物、学会等での発信	53
② 所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催	74
(2) 国内外の美術館等との連携	77
① シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築	77
② 我が国の作家、美術作品による展覧会開催のための海外の美術館との連携・協力	81
③ その他海外の美術館との連携・協力	82
(3) 国内外の美術館及びフィルム・アーカイブ等との保存・修復に関する情報交換	82
(4) 所蔵作品の貸与等	83
① 作品の貸与	83
② 映画フィルムの等の貸与	83
(5) 美術教育の一翼を担うナショナルセンターとしての活動	84
① 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修の実施	84

② 先駆的・実験的な教材やプログラムの開発	85
(6) 美術館活動を担う中核的人材の育成	85
(7) 全国の美術館等との連携・人的ネットワークの構築	85
① 企画展・上映会等の共同主催と共同研究	85
② キュレーター研修	87
(8) 我が国の映画文化振興の中核的機関としてのフィルムセンターの活動	87
① 国際フィルム・アーカイブ連盟（F I A F）の正会員としての活動	87
② 日本映画情報システムの運営	87
③ 所蔵映画フィルム検索システムの拡充	87
④ 映画関係団体等との連携	88
⑤ フィルムセンターの東京国立近代美術館からの独立の検討	88
II 業務運営の効率化	
1 業務の効率化のための取り組み	89
(1) 各美術館の共通的な事務の一元化	89
(2) 使用資源の削減	89
(3) 美術館施設の利用推進	92
(4) 民間委託の推進	92
(5) 競争入札の推進	93
2 事業評価及び職員の研修等	94
3 管理情報の安全性向上	94
4 人件費の抑制，給与体系の見直し	94
III 予算（人件費の見積もりを含む），収支計画及び資金計画	
1 予算	96
2 収支計画	97
3 資金計画	98
4 貸借対照表	98
5 短期借入金	99
6 重要な財産の処分等	99
7 剰余金	99
8 人事に関する計画	100
9 施設整備に関する計画	101
10 関連公益法人	101

(別紙1) 公益調達の適正化(財計第2017号)等に即した実施状況
(別紙2) 独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上

1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開

(1) 多様な鑑賞機会の提供

① 所蔵作品展

館名	開催日数	展示替回数	入館者数	目標数
東京国立近代美術館（本館）	293	4	190,074	150,000
東京国立近代美術館（工芸館）【注1】	108	2	20,888	25,000
京都国立近代美術館【注2】	209	5	132,174	180,000
国立西洋美術館【注3】	285	6	417,326	237,000
国立国際美術館	274	4	137,106	98,000
計	1,169	21	897,568	690,000

【注1】 展示ケースの改修工事が当初計画より長期にわたったため、開催日数が当初予定の119日から変更となった。

【注2】 特別警報発令により臨時休館した（9月16日）。また、企画展「皇室の名品—近代日本美術の粋—」開催中、展示替えのため臨時休館した（12月10日）。さらに、入館者数を伸ばすべく、年末年始の休館期間中、特別開館を実施した（12月28日、12月29日、1月3日）。そのため、開催日数が当初予定の208日から変更となった。

【注3】 桜の開花時に試行的に臨時開館した（3月31日）ため、開催日数が当初予定の284日から変更となった。

各館の特徴

ア 東京国立近代美術館

(本館)

平成24年度に実施した10年ぶりのリニューアルの成果を踏まえ、コレクションの特徴を活かしつつ、新収蔵品の活用や研究成果のいち早い公開を積極的に行うとともに、特集展示を積極的に展開した。特に、日露戦争、関東大震災、日中戦争、太平洋戦争といった大きな時代の出来事に即して美術の動向を紹介した「何かがおこってる：1907-1945の軌跡」は、4-3階すべてを用いた初の大規模特集となった。

(工芸館)

春季に開催した「花咲く工芸」展や「花」展では、花を主題とした作品に焦点をあて、工芸家たちが生み出した個性豊かな作品を紹介した。「ボディ³」展では、人形や身体のパーツなどを表した「ヒトガタ」、人体のスケールを基準として大きさと機能が検証された器や着物を「カラダサイズ」、そして叩く力や呼吸など身体の活動によって成形された作品を「カラダエネルギー」として分類し、視覚的に分かりやすく展示した。

イ 京都国立近代美術館

引き続き企画展に連動させた関連展示を実施しながらコレクションを紹介するとともに、開館50周年を記念する小企画展も実施した。特に、開館した年に開催した展覧会「村上華岳展」に因んで企画した「開館50周年記念 村上華岳特集」は、50年前には同一組織であった東京国立近代美術館と連携する形で開催し、開館50周年の記念に相応しい展示となった。

ウ 国立西洋美術館

所蔵作品展会場内においても特別展及び小企画展を開催した。「ル・コルビュジエと20世紀美術」では、パリのル・コルビュジエ財団等から借用した作品など150点により、芸術家としてのル・コルビュジエの活動を彼が設計した本館展示室において紹介した。日本スペイン交流400周年事業の一環として開催した「ソフィア王妃芸術センター所蔵 内と外—スペイン・アンフォルメル絵画の二つの『顔』」では、20世紀美術史における最も重要な運動の

一つとなったアンフォルメル（不定形）絵画のスペインにおける展開を、同国を代表する現代美術館であるマドリードのソフィア王妃芸術センターの所蔵品 14 点により紹介した。

エ 国立国際美術館

同時開催の企画展に合わせて展示内容を見直し、企画展に関連する作家及び作品や、近年収蔵された作品による展示構成とした。企画展「あなたの肖像—工藤哲巳回顧展」と同時期に開催した所蔵作品展においては、1960年代の「反芸術」の動向から、工藤哲巳と同時に活躍した作家たち、さらに工藤哲巳に以前から関心を示してきたアメリカ西海岸のアーティストの作品を紹介した。平成 25 年度に購入したアルベルト・ジャコメッティの《男》については、他の所蔵作品とともに、現代美術を先導してきた西洋美術 100 年の歩みを紹介する形で展示した。

② 企画展

企画展は、来館者のニーズに応え、以下の観点に留意して実施した。

- イ 国際的視野に立ち、アジア諸地域を含め海外の主要美術館と連携し、確固たる評価を得ている世界の美術を紹介するとともに、我が国の作家や芸術的動向を海外に紹介する展覧会等に積極的に取り組む。
- ロ 展覧会テーマの設定や他の芸術文化との連携による展示方法等について方向性を提示することに取り組む。
- ハ メディアアート、アニメ、建築など我が国が世界から注目される新しい領域の芸術表現を積極的に取り上げ、最先端の現代美術への関心を促す。
- ニ 過去の埋もれていた作家・作品・動向の発見や再評価に取り組む。
- ホ その他

※以下の表の（ ）内は会期全体の数値、（継続）は平成 26 年度に継続開催する展覧会

館名	展覧会名	開催日数	入館者数	目標数	企画趣旨	共催者
東京国立近代美術館（本館）	①フランシス・ベーコン展	51 (73)	96,168 (124,720)	75,000 (120,000)	イ, ロ	日本経済新聞社
	②プレイバック・アーティスト・トーク	45	7,306	13,000	ロ	
	③竹内栖鳳展 近代日本画の巨人	37	109,589	70,000	ロ, ニ	日本経済新聞社, NHK, NHKプロモーション
	④ジョセフ・クーデルカ展	56	23,457	34,000	イ	マグナム・フォト東京支社
	⑤あなたの肖像—工藤哲巳回顧展	49	8,975	15,000	ニ	国立国際美術館, 青森県立美術館
	計	238	245,495	207,000		
東京国立近代美術館（工芸館）	①東京オリンピック 1964 デザインプロジェクト	51 (93)	40,995 (56,739)	23,000 (41,000)	ニ	
	②クローズアップ工芸	74	8,707	13,000	ニ	

館名	展覧会名	開催日数	入館者数	目標数	企画趣旨	共催者
)	③現代のプロダクトデザイン －Made in Japan を生む	60	21,456	16,000	ニ	
	④日本伝統工芸展 60 回記念 工芸から KŌGEI へ	52	10,098	12,000	ニ	公益社団法人日本 工芸会
	計	237	81,256	64,000		
京 都 国 立 近 代 美 術 館	①開館 50 周年記念特別展 交差する表現 工芸／デザイン／総合芸術	32 (46)	10,636 (13,477)	23,000 (33,000)	ロ	京都新聞社
	②芝川照吉コレクション展 ～青木繁・岸田劉生らを支えたコレクター	38	17,462	26,000	ニ	朝日新聞社
	③泥象 鈴木治の世界 －「使う陶」から「観る陶」、そして「詠 む陶」へ－	39	10,723	12,000	ロ	日本経済新聞社, 京 都新聞社
	④映画をめぐる美術 －マルセル・ブローターズから始める【注 1】	43	9,500	15,000	ロ, ハ	東京国立近代美術 館, 京都新聞社
	⑤皇室の名品－近代日本美術の粋－【注 2】	53	93,527	200,000	ホ	宮内庁, 日本経済 新聞社
	⑥Future Beauty 日本ファッション： 不連続の連続	9 (45)	3,365 (継続)	5,000 (26,000)	ハ	公益財団法人京 都服飾文化研究 財団
	⑦チェコの映画ポスター テリー・ポスタ ー・コレクションより【注 3】	9 (45)	3,603 (継続)	5,000 (25,000)	ロ	東京国立近代美 術館フィルムセ ンター
	計	214	145,213	281,000		
国 立 西 洋 美 術 館	①ラファエロ【注 4】	56 (82)	365,635 (505,246)	220,000 (317,000)	イ	フィレンツェ文 化財・美術館特別 監督局, 読売新聞 社, 日本テレビ放 送網
	②システーナ礼拝堂 500 年祭記念 ミケランジェロ展－天才の軌跡	63	220,144	202,000	イ	TBS, 朝日新聞社
	③国立西洋美術館×ポーラ美術館 モネ, 風景をみる眼－19 世紀フランス風景 画の革新【注 5】	77	313,737	206,000	イ	公益財団法人ポ ーラ美術振興財 団 ポーラ美術館 , TBS, 読売新聞 社
	計	196	899,516	628,000		
国 立 国 際 美 術 館	①美の響演 関西コレクションズ	88	50,293	47,000	ロ	朝日新聞社
	②フランス国立クリュニー中世美術館所蔵 貴婦人と一角獣展	75	116,173	80,000	ホ	フランス国立クリ ュニー中世美術 館, NHK大阪放送局, N

館名	展覧会名	開催日数	入館者数	目標数	企画趣旨	共催者
						HKプラネット近畿総支社, 朝日新聞社
	③あなたの肖像－工藤哲巳回顧展	61	11,669	15,000	ニ	東京国立近代美術館, 青森県立美術館
	④アンドレアス・グルスキー展	50 (88)	32,897 (継続)	15,000 (27,000)	イ	読売新聞大阪本社, 読売テレビ, 読売新聞東京本社
	計	274	211,032	157,000		
国立新美術館	①アーティスト・ファイル 2013 －現代の作家たち	1 (60)	785 (30,914)	1,000 (32,000)	ハ, ホ	
	②カリフォルニア・デザイン 1930-1965 －モダン・リビングの起源－	56 (67)	49,490 (65,160)	34,000 (40,000)	イ, ロ, ハ	ロザンゼルス・カウンティ美術館
	③フランス国立クリュニー中世美術館所蔵 貴婦人と一角獣展	73	213,512	189,000	イ	フランス国立新美術館クリュニー中世美術館, NHK, NHKプロモーション, 朝日新聞社
	④アンドレアス・グルスキー展	66	119,467	54,000	ホ	読売新聞社, TBS, TOKYO FM
	⑤アメリカン・ポップ・アート展	66	187,627	163,000	イ	TBS, 読売新聞社
	⑥クレラー＝ミュラー美術館所蔵作品を中心に 印象派を超えて一点描の画家たち ゴッホ, スーラからモンドリアンまで	70	180,769	239,000	イ	東京新聞, NHK, NHKプロモーション
	⑦未来を担う美術家たち 16th DOMANI・明日展 文化庁芸術家在外研修の成果【注6】	26	15,050	10,000	ハ	文化庁, 読売新聞社, アート・ベンチャー・オフィス・ショウ
	⑧第17回文化庁メディア芸術祭	11	38,938	45,000	ハ	文化庁メディア芸術祭実行委員会(文化庁, 国立新美術館)
	⑨イメージのカー国立民族学博物館コレクションにさぐる【注7】	36 (97)	14,711 (継続)	12,000 (32,000)	ロ	国立民族学博物館
	⑩中村一美展【注8】	12 (55)	2,466 (継続)	3,000 (13,000)	ロ	
計	417	822,815	750,000			
合計	1,576	2,405,327	2,087,000			

- 【注 1】 特別警報発令により臨時休館した（9月16日）ため、開催日数が当初予定の44日から変更となった。
- 【注 2】 展示替えのため臨時休館した（12月10日）。さらに、入館者数を伸ばすべく、年末年始の休館期間中に特別開館を実施した（12月28日、12月29日、1月3日）。そのため、開催日数が当初予定の51日から変更となった。
- 【注 3】 コレクション・ギャラリーの一部を使って開催した展覧会のため、開催日数、入館者数及び目標数はそれぞれの合計に含めない。
- 【注 4】 休館日に団体特別鑑賞会を実施した（4月15日）ため、開催日数（通期の開催日数）が当初予定の55日（81日）から変更となった。
- 【注 5】 休館日に団体特別鑑賞会を実施した（1月20日）ため、開催日数が当初予定の76日から変更となった。
- 【注 6】 開催日数が当初予定の27日から変更となった。
- 【注 7】 高さ6メートルを超える作品が出品リストに加わったことから会場を変更したため、開催日数（通期の開催日数）が当初予定の41日（84日）から変更となった。また、会期が大幅にのびたことにより、改めて目標入館者数を算出した結果、当初予定の17,000人（34,000人）から変更となった。
- 【注 8】 「イメージの力ー国立民族学博物館コレクションにさぐる」の会場変更に伴い会場を変更したため、通期の開催日数が当初予定の67日から変更となった。また、会期変更に伴い、通期の目標入館者数が当初予定の16,000人から変更となった。

各館の特徴

ア 東京国立近代美術館

（本館）

「フランシス・ベーコン展」は、20世紀美術史の最重要画家の一人であるベーコンの、没後ではアジア初となる回顧展。ベーコンに影響を受けた振付家による作品（映像）をあわせて展示することで、身体表現がなぜ芸術において根幹的であり続けているかについての理解を深められる工夫をした。本展により、担当者保坂健二郎は第8回西洋美術振興財団賞学術賞を受賞した。

「竹内栖鳳展 近代日本画の巨人」では、これまで本画と下絵、写生帖による紹介にとどまっていた竹内栖鳳の画業について、最新の研究を踏まえ、染織作品や書簡などの資料をあわせて展示することで、作家の画業の意義を多角的に検討した。

（工芸館）

「クローズアップ工芸」では、作品の高精細デジタル画像をモニターに映し出し、実物以上に細部が見えるよう工夫し、新たな鑑賞方法の提案を示した。

「東京オリンピック 1964 デザインプロジェクト」では、1964年に行われた東京オリンピックのための一連のデザインワークを振り返り、その全貌を明らかにするとともに、オリンピックというイベントにおいてデザイナーが果たした役割を初めて紹介した。

イ 京都国立近代美術館

「映画をめぐる美術ーマルセル・ブロータースから始める」では、ブロータースの創作活動及び戦後美術における重要性を日本で紹介することと、ブロータースを歴史的参照項と設定して、現在の多様な映像表現を読み解く工夫を行った。

「皇室の名品ー近代日本美術の粹ー」では、これまで大々的に公開されることのなかった代々皇室に受け継がれてきた近代日本美術の粹とも言うべき作品群を、初めて大きな会場で一堂に見ることができる機会とした。

ウ 国立西洋美術館

「ラファエロ」は、西洋美術史上もっとも重要な画家の一人であるラファエロに焦点を当てた日本で最初の展覧会。西洋美術の最高峰に接する機会を広く国民に提供するとともに、展覧会カタログや講演会を通じてラファエロ研究の最新の成果を十分に紹介することができた。

「システイーナ礼拝堂 500 年祭記念 ミケランジェロ展－天才の軌跡」は、ルネサンスを代表する芸術家であるミケランジェロについて、日本における史上最大数の作品類を一堂に会して紹介した展覧会。物理的に持ち運びが不可能なシステイーナ礼拝堂大天井画・壁画について、現地で新たに撮影した高精細 4K 映像等を用いて紹介するなどの工夫を行った。

エ 国立国際美術館

「美の饗宴 関西コレクションズ」は、関西にある国公立美術館 6 館の所蔵品を一堂に集めるといふ、全国的にも例のないユニークな展覧会。地域性を持たせた名品展という、新しい方向性を打ち出す企画となった。

「あなたの肖像－工藤哲巳回顧展」では、東京国立近代美術館本館とともに、近年、国際的に再評価が進んでいる工藤哲巳の作品を、国内に所蔵される作品をほとんど網羅するとともに、海外の主要美術館の所蔵作品も加え、工藤哲巳の業績を包括的に展望する機会とした（東京国立近代美術館本館においても開催）。

オ 国立新美術館

「アンドレアス・グルスキー展」は、ドイツの現代写真をリードし、また世界各地でも個展開催が相次ぐなど、確固たる評価を得ているグルスキーの、日本初の個展。出品作品の選定に加え、会場構成もグルスキー自らが手がけ、展示室全体をグルスキー自身の一つの作品のように見せるよう工夫を行った（国立国際美術館においても開催）。

「フランス国立クリュニー中世美術館所蔵 貴婦人と一角獣展」は、フランス国立クリュニー美術館のコレクションを《貴婦人と一角獣》を中心に紹介する展覧会。様々な知識を得た後に再び《貴婦人と一角獣》の部屋に戻ることができるよう会場を構成する工夫を行った（国立国際美術館においても開催）。

「イメージの力－国立民族学博物館コレクションにさぐる」は、国立民族学博物館の収蔵品が持っているアートとしての側面に着目し、これを美術館の展示室で展示するという新しい試みの展覧会。世界中の資料や器具を収集する博物館の美術史学や芸術学の分野ではない専門家との共同作業を通じて美術館の営みを捉え直す機会となった。

③ 東京国立近代美術館フィルムセンターの映画上映会・展覧会

【上映会】

タイトル	会場	上映回数	日数	入館者数	目標数	企画趣旨	共催者
①特集・逝ける映画人を偲んで 2011-2012	大ホール	96	48	14,344	16,000	ニ	
②生誕 110 年 映画監督 清水宏	大ホール	98	49	17,684	15,000	ニ	
③よみがえる日本映画 vol.6[東宝篇] －映画保存のための特別事業費による	大ホール	40	20	8,137	7,000	ニ	

タイトル	会場	上映回数	日数	入館者数	目標数	企画趣旨	共催者
④シネマの冒険 闇と音楽 2013 ロイス・ウェバー監督選集	大ホール	12	6	1,438	1,500	ニ	
⑤映画監督 山田洋次	大ホール	108	36	12,538	16,000	ニ	
⑥テクニカラー・プリントでみる NFC 所蔵外国映画選集	大ホール	36	18	5,645	4,500	ロ	
⑦自選シリーズ 現代日本の映画監督 2 大森一樹	大ホール	24	12	3,576	3,500	ロ, ニ	
⑧京橋映画小劇場 No.26 アンコール特集：2012 年度上映作品より	小ホール	18	9	2,010	1,500	ホ	
⑨京橋映画小劇場 No.27 映画の教室 2013	小ホール	18	9	1,365	2,000	ホ	
⑩よみがえる日本映画 vol.7[松竹篇] —映画保存のための特別事業費による【注 1】	小ホール	69	23	8,133	8,000	ニ	
計		519	230	74,870	75,000		

【注 1】大ホールの改修工事のため会場を小ホールに変更した際に、客席数の減少分を上映回数の増加で対応したが、回数を増加できなかった作品の分だけ日程が 1 日減り、開催日数が当初予定の 24 日から変更となった。

【展覧会】

展覧会名	日数	入館者数	目標数	企画趣旨	共催者
①映画より映画的！日本映画 スチル写真の美学	85	4,845	4,000	ロ	
②チェコの映画ポスター テリー・ポスター・コレクションより	74	6,470	4,000	ロ, ニ	京都国立近代美術館
③小津安二郎の図像学	86	7,876	3,500	ロ	
計	245	19,191	11,500		

特徴

「生誕 110 年 映画監督 清水宏」は、日本映画を代表する巨匠でありながらこれまでそれほど特集が組まれてこなかった清水宏監督の回顧上映である。部分のみ現存する作品や近年発見された記録映画など現存作品を可能な限り集めた史上最大規模の回顧上映とした。

「よみがえる日本映画」シリーズは、平成 21 年度補正予算から映画保存のための特別事業費を得てフィルムセンターが取り組んできた原版素材の整備の成果をまとめて紹介するシリーズ企画であり、最終回となる平成 25 年度は東宝篇と松竹篇を上映した。

「小津安二郎の図像学」では、巨匠小津安二郎の作品を、絵画やデザインなど美術の諸分野とのかかわりにおいて捉え直すという過去にない試みを行った。ますます世界的評価の高まるその作品と生涯に対して、美術という新しいアプローチで臨み、「図像」という新視点を提示した。

④ 巡回展

企画館	展覧会名	開催館	開催日数	入館者数
京都国立近代美術館	平成25年度国立美術館巡回展 西洋への憧れ 個のめざめ 日本 近代洋画の東西	川越市立美術館	32	4,192
	平成25年度国立美術館巡回展 〔第一部〕 西洋への憧れ 個のめざめ 日本 近代洋画の東西 〔第二部〕 浅井忠と京都の弟子たち	佐倉市立美術館	32	2,559
東京国立近代美術館（工芸館）	東京国立近代美術館工芸館所蔵名品展 近代工芸の巨匠たち	田辺市立美術館【注1】	57	1,912
		南丹市立文化博物館 【注2】	32	849
計			153	9,512

【注1】会場館が、できる限り長く開催するために見直しを行ったため、開催日数が当初予定の38日から変更となった。

【注2】会場館が、できる限り長く開催するために見直しを行ったため、開催日数が当初予定の26日から変更となった。

企画館	タイトル	会場数	開催日数	入館者数
東京国立近代美術館（フィルムセンター）	①平成25年度優秀映画鑑賞推進事業	198	363	81,490
	②日本が声を上げる！ パート2:歌手とサムライ	1	8	1,112
	③蘇ったフィルムたち 東京国立近代美術館フィルムセンター復元作品特集	2	15	1,371
	④NFC所蔵作品選集 MoMAK Films	1	10	555
	⑤第7回中之島映像劇場 日本の漫画映画の誕生と発展 草創期～1946年～東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品を中心に～	1	3	807
計		203	399	85,335

(2) 美術創造活動の活性化の推進

① 公募団体等への展覧会会場の提供（国立新美術館）

公募展団体数：69団体

年間利用室数：延べ3,500室/年

稼働率：100%

入館者数：1,205,249人

- 1 公募団体等から寄せられた意見・要望も参考としつつ、公募展の効率的な開催準備と円滑な運営を図るため、以下のような取組を行った。

- ・作品搬入出時の車両の入退館時間の指定や駐車場の割振りを団体ごとに実施

- ・作品用エレベータの使用時間割振りや使用備品の事前配置等の徹底
 - ・審査，展示等に必要な備品の充実
 - ・展示作品の素材や陳列方法等について，施設の管理運営上問題の生じる可能性のある公募団体等との事前協議の徹底
 - ・公募展運営サポートセンターにおいて，使用公募団体等に関する電話（国立新美術館公募展案内ダイヤル）への問い合わせ対応の実施
 - ・公募展のポスター掲示や公募展開催案内チラシの作成及び配布による広報の実施
 - ・館ホームページの公募展紹介ページに，文字情報に加えポスター等の画像情報を掲載することにより広報を充実
 - ・国立新美術館ニュースへ公募団体からの寄稿を掲載することにより，広報の支援を実施
 - ・公募展と企画展の観覧料の相互割引について，実施団体の情報を館内で周知
- 2 公募団体等が行う教育普及活動
- 館を使用する公募団体等が実施する教育普及活動に対し，講堂及び研修室の提供や運営管理上必要な助言，参加者の動線の確保等のサポートを行った。また，館ホームページへ情報を掲載し普及・広報の支援を実施した。
- 3 平成 27 年度に展示室（公募展用）を使用する 69 団体（野外展示場のみ使用団体を含む。）を決定した。
- 4 平成 29 年度に展示室（公募展用）を使用する美術団体等の募集について，館内に検討ワーキングを設置し，情報収集及び検討課題の整理を開始した。

② 新しい芸術表現への取組み

【東京国立近代美術館本館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
MOMAT コレクション	293	ビデオ・アート	190,074	150,000	—
フランス・ベーコン展	51	ビデオ・アート	96,168	75,000	日本経済新聞社

・「フランス・ベーコン展」では，ベーコンに影響を受けた振付家による作品（映像）をあわせて展示することで，身体表現がなぜ芸術において根幹的であり続けているかについての理解を深められる工夫をした。

【東京国立近代美術館フィルムセンター】

イタリア・ローマの現代アート美術館における上映会に日本初期アニメーション映画 6 本を貸与したほか，国内ではカナザワ映画祭 2013「ゼロ歳からの映画館」に対し戦前の日本アニメーション映画 5 本の貸与を行うなど，アニメの原点といえる初期アニメーション映画の豊かな創造性と卓抜な技術を広く紹介した。また，デジタル復元版特別上映会においては，デジタル復元した政岡憲三・大藤信郎アニメーション作品 3 本を上映した。

【京都国立近代美術館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
映画をめぐる美術—マルセル・ブロータースから始める	43	フィルム，写真，ビデオ，インスタレーション等	9,500	15,000	東京国立近代美術館，京都新聞社

・映画という古典的な映像表現から，写真，ビデオプロジェクションや最新のビデオインスタレーションまでを用いた展覧会において，映画という手法から，現在までの多様な技術を用いて表現される美術を検証した。

【国立西洋美術館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
ル・コルビュジエと 20 世紀美術 【注】	79	建築・近代絵画	126,406	—	—

【注】常設展と併設の展覧会のため、会期中の常設展入館者数を展覧会入館者数として記載。

- ・ル・コルビュジエが設計した本館展示室で、芸術家としてのル・コルビュジエの活動をたどった展覧会。
- ・国立西洋美術館では、平成 23 年 6 月にパリのユネスコ本部で開催された第 35 回世界遺産委員会において国立西洋美術館を含む「ル・コルビュジエの建築作品－近代建築運動への顕著な貢献」の推薦案件が「記載延期」と決定されて以降、平成 27 年 2 月の改訂推薦書の提出を目指して登録推進事業を継続している。
- ・世界遺産登録を目指した活動に関連し、平成 19 年度に作成した「重要文化財国立西洋美術館本館保存活用計画」について、重要文化財（建造物）である本館の保存の方針をより具体的かつ詳細に示すとともに、登録記念物（名勝地関係）である敷地との一体的な保存の必要性を盛り込むため、株式会社文化財保存計画協会の協力も得て改訂作業にあっていたが、外部有識者を含めた国立西洋美術館修理検討委員会での検討を踏まえ、「重要文化財（建造物）国立西洋美術館本館及び登録記念物（名勝地関係）国立西洋美術館園地 保存活用計画」として平成 25 年 9 月に改訂を行った。
- ・地元自治体との連携世界遺産登録推進活動の一環として、引き続き台東区等と連携し、「世界遺産区民講座 国立西洋美術館・東京文化会館両館施設見学会」、「大茶会」等のイベントを実施した。

【国立国際美術館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
アンドレアス・グルスキー展	50	CG を活用した写真	32,897	15,000	読売新聞社、 読売テレビ

- ・ドイツの現代写真をリードし、また世界各地でも個展開催が相次ぐなど、確固たる評価を得ているグルスキーの個展。展示作品の選択から展示順に至るまでが作家自身の手によってなされ、撮影の年代順ではなく、時にはシリーズ作品さえバラバラに配置された作品を、広いスペースを使ってゆったり展示し、一点一点の作品鑑賞とともに、展覧会全体を新たなインスタレーションとして捉えられるような工夫をした。

【国立新美術館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
カリフォルニア・デザイン 1930-1965－モダン・リビングの 起源－	56	建築、デザイン、映像	49,490	34,000	ロサンゼルス・カウンティ美術館
アンドレアス・グルスキー展	66	CG を活用した写真	119,467	54,000	読売新聞社、TBS、 TOKYO FM
第 17 回文化庁メディア芸術祭	11	ビデオ・アート、インタラクティブ・アート、アニメーション、マンガ、ゲーム等	38,938	45,000	文化庁
イメージのカー国立民族学博物館 コレクションにさぐる	36	博物館資料に基づく美術展示	14,711	12,000	国立民族学博物館
中村一美展	12	ウォール・ペインティング	2,466	3,000	

- ・アニメーション表現などの新しい視覚表現を紹介するための試みとして、(A)「インターカレッジアニメーションフェスティバル(ICAF)2013」への特別協力を行い、(B)「TOKYO ANIMA!2013 秋」への共催を実施した。(A)の ICAF2013 では国内の学生によるアニメーション作品に加え、韓国の映像作品を4日間に渡り講堂と研修室 A・B にて上映し、日本のアニメーション表現のこれからの可能性を紹介する機会となった。4日間の会期中、来場者は1,634名であった。(B)の「TOKYO ANIMA! 2013 秋」は、約30名の若手映像作家の近作・新作を中心に2日間に渡り上映し、延べ945名の来場者があった。

(3) 美術に関する情報の拠点としての機能の向上

① 情報通信技術 (ICT) を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等

ア ホームページアクセス件数

館名	アクセス件数 (ページビュー)	目標数 (第2期平均)
本部	45,217,325	9,076,555
東京国立近代美術館 (本館・工芸館・フィルムセンター含む)	12,658,565	10,500,075
京都国立近代美術館	2,332,653	2,244,585
国立西洋美術館	12,423,130	6,313,881
国立国際美術館	2,514,145	2,266,576
国立新美術館	9,660,555	9,372,754
計	84,806,373	39,774,426

イ 各館の ICT 活用の特徴

(ア) 本部

平成20年度にリニューアルした法人ホームページにおいては、引き続き5館の展覧会及び各種催事等トピックスの一覧を維持した。

「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」については、平成23度より「指導者研修 Web 報告」のページを充実させて、平成25年度も継続してその記録公開に努めた。

(イ) 東京国立近代美術館

平成19年度より稼働のコンテンツ・マネジメント・システム (CMS) を用いて、ホームページ・コンテンツの追加更新を迅速化しているが、サイト構成及びデザイン等において一層の改良を図るべく大規模リニューアルを実施するため、ホームページ全体の刷新へ向けて全館的に見直し、全面改修へ向けての仕様書を策定した (改修は平成26年度に実施予定)。

独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムに新収蔵作品の文字画像データを追加するとともに、同システムへの著作権のある作品画像掲載を進めるため、許諾を得た工芸 [陶磁] の作品611点について画像を新規登録した。また、工芸についての著作権者情報の整備を引き続き行い、工芸 [漆工・染織] の著作権許諾申請手続を開始した。

平成23年度に着手した東京国立近代美術館所蔵作品管理システムならびに独立行政法人国立美術館総合目録のデータ登録更新のためのインターフェースの改良を、他国立美術館と連携して実装させ、平成25年度は各館ローカルシステムと総合目録とのデータ連携を改善した。

平成23年度に欧米主要美術図書館横断検索システムである artlibraries.net ([http://](http://artlibraries.net)

artlibraries.net/index_en.php)と国立美術館の図書検索システム(東京国立近代美術館及び国立西洋美術館)の連携可能性について、国立情報学研究所と連携して始めた受託研究の成果により、artlibraries.netへの参加を実現させ、全国美術館会議の会報などにおいて国内広報に尽くした。

フィルムセンターでは、初めてのウェブ上での所蔵資料公開事業である「NFC デジタル展示室」を開設し、5回の特集展示を行った。事業関連の情報を提供する「NFC メールマガジン」は着実に登録者が増えている。また、NFCD(ナショナル・フィルムセンター・データベース)については、人物情報の統合を進めるとともに、所蔵映画フィルムの運用をNFCD上で行えるよう重要な改善を加えた。さらに、映画関連資料へのアクセス希望に対しては、図版提供をすみやかに行うため、また、識別を容易にするため適宜デジタル・データへのスキャンや簡易撮影を行い、データの蓄積を進めた。

(ウ) 京都国立近代美術館

ホームページにおいて、各展覧会の基本情報や講演会、教育普及関連のイベントの案内・報告、美術館ニュースや研究論集の内容紹介、さらには「友の会」の行事報告などを行った。特にコレクション・ギャラリー(常設展示)については、展示替えごとに出品リストや解説を掲載するだけでなく、平成25年度から著作権に支障のない範囲で出品作品の画像を掲載し、情報のさらなる充実に努めた。また、レストランのページをリニューアルし、料理の特色やメニューを掲載して、より具体的で親しみやすい内容にした。

(エ) 国立西洋美術館

ホームページやフェイスブック・ページを通じて展覧会や教育普及プログラム、所蔵作品に関する情報等を和英2か国語で提供し、活動状況を広く社会に紹介した。

所蔵作品データベースについては、科学研究費補助金(研究成果公開促進費)の交付を受けて内容の充実に取り組んだ。平成25年度は作品購入に関する法人文書などアーカイブズ(資料)の調査を重点的に行い、各作品の来歴データの追加入力を実施した。また、個々の作品の「展示中」情報ステータスの更新を例年通り実施し、利用者のニーズに応えた。さらに、『研究紀要』などの調査研究成果の公開のため、国立情報学研究所が提供する機関リポジトリ共用サービスの利用について検討を進め、平成26年度導入に向けて具体的な準備に着手した。科学研究費助成事業「海外における松方コレクション関連資料の収集と公開」の成果の一部として、展覧会リストである「松方コレクションに関する展覧会:1922-1960年」をホームページ上で公開した。所蔵作品に関する情報資産の安全な運用のため、所蔵作品情報管理システムのバックアップ・コピーの遠隔地での保管を例年どおり実施した。

(オ) 国立国際美術館

老朽化に伴いウェブサーバをリプレースし、ハードウェアとOSの入替を行った。また、工藤哲巳回顧展においては、共同開催の東京国立近代美術館、青森県立美術館とともに新設ウェブサイトを開設し、最新情報を日々更新した。

(カ) 国立新美術館

引き続き展覧会情報検索サービス「アートコモンズ」において日本国内の美術館、画廊、美術団体が開催する展覧会の情報を収集し、検索可能とすることに努めた。平成25年度は3,018件の展覧会情報を1,170の美術館・美術団体・画廊の協力により収集・公開した。

ホームページを通じて、国立新美術館の活動を紹介すると共に、これまでのメールマガジンの発行に加え、ソーシャルネットワークサービス（SNS）の活用により、昨今のインターネットの利用形態の変化に対応した幅広い情報発信の道筋について実践的に試行・検証した。

② 美術情報の収集、記録の作成・蓄積、デジタル化、レファレンス機能の充実

ア 図書資料等の収集

館名		収集件数	累計件数	利用者数	目標利用者数 (第2期平均)
東京国立近代美術館	本館	3,388	127,781	2,372	2,921
	工芸館	929	23,814	298	356
	フィルムセンター	3,236	42,610	3,562	3,273
京都国立近代美術館		1,449	23,902	—	—
国立西洋美術館		1,031	47,262	363	399
国立国際美術館		1,488	38,467	—	—
国立新美術館		3,876	130,187	21,941	44,365*
計		15,397	434,023	28,536	51,314**

注 東京国立近代美術館は本館4階、京都国立近代美術館は4階、国立西洋美術館は1階、国立国際美術館は地下1階に図録等が閲覧できる情報コーナーを設け、入館者が自由に閲覧できるようにしており、その場所については、利用者数の把握はしていない。

注 東京国立近代美術館本館の平成24年度累計件数は124,367件であったが、平成25年度に雑誌から図書への移管が26件あったため、26件増となっている。

注 東京国立近代美術館工芸館の平成24年度累計件数は22,888件であったが、平成25年度に図書から雑誌への移管が3件あったため、3件減となっている。

※ 新規開館により利用者が著しく増加した年度の実績を除く

イ 特記事項

(ア) 東京国立近代美術館

本館では、平成24年度からの60周年事業の一環である60年史のデータ集成及び編集作業を進めて、ミュージアム・アーカイブの整備をあわせて進めた。『60年史』の附属CD-ROMにPDFファイルで収めた「企画展出品作家総索引(和・欧)」をデータベース化し、検索システムとしてホームページに公開した。「海外日本美術資料専門家(司書)の招へい・研修・交流事業」を立案して、平成26年度に実施するための準備を推進した。

工芸館では、購入及び資料交換・寄贈によって、平成25年度も順調に収集件数が増加した。購入については、企画展やテーマ展示の関連資料の収集に努めているが、平成26年度開催予定の「大阪万博 デザインプロジェクト1970」にあわせて、万博当時刊行された会報やデザインガイドなどを収集した。

フィルムセンターでは、一定の網羅性を目指して、映画関連の新刊書と雑誌の収集を行うとともに、未所蔵の古書や一般の書籍流通ルートには乗らない刊行物の収集にも努めている。貴重な映画文献の購入にも努め、平成25年度は日本で映画を扱った最初期の文献「実地応用 近世新奇術」を収集した。図書公開への準備としては、今後のデータベース登録を見越して図書室内の映画雑誌などのリスト化を進めた。映画パンフレットについては、OPACデータベースへの登録が進み、外国映画パンフレットの登録が終了している。

(イ) 京都国立近代美術館

開催予定の展覧会に関係する書籍を購入するとともに、研究分担者として外部の研究者と連携して研究をすすめている科学研究補助金によっても図書を収集した。

(ウ) 国立西洋美術館

中世末期から 20 世紀前半までの西洋美術に関する専門書・学術雑誌を収集・整理し、展覧会事業等、館の事業活動の推進に役立てた。学術情報資源を研究資料センターにおいて全国の美術館学芸員や大学院生等にも提供し、西洋美術分野における質の高い情報を提供するよう努めた。欧米の美術図書館横断検索システム「artlibraries.net」にアジア圏の美術館として初めて東京国立近代美術館と共に参加し、欧米諸国の美術図書館との国際連携協力のもと、図書情報の検索環境の充実に取り組んだ。また、所蔵作品に関する研究資料（一過性資料を含む）の収集・整理を行い、美術作品・作家研究基盤の充実を図った。

(エ) 国立国際美術館

国内外の現代美術に関連する図書資料等を中心に収集を継続した。

(オ) 国立新美術館

引き続き日本の展覧会カタログを中心に網羅的・遡及的収集に努め、国内約 400、海外約 100 の美術館・博物館と展覧会カタログの相互寄贈関係を維持している。

平成 25 年 8 月に、別館 1 階に「アトライブラリー別館閲覧室」を開室した。これまで予約制だった所蔵資料が当日出納（脆弱な資料等一部を除く）できるようになったほか、「アーティスト・ファイル」展資料などを提供している。また、平成 24 年度までに寄贈された複数の個人からの大口寄贈資料についての整理作業を進め、一部を別館閲覧室において公開した。さらに所蔵資料のうち脆弱なものの一部についてデジタル化を行い、画像データを通じた資料閲覧の実現に向けて実証的な検討を開始した。

ウ 所蔵作品データ等のデジタル化

館名		画像データ				テキストデータ			
		デジタル化件数	デジタル化累計	累積公開件数 (公開率)	目標公開率	デジタル化件数	デジタル化累計	累積公開件数 (公開率)	目標公開率
東京国立近代美術館	本館	80	10,639	6,959 (55.8%)	33.0%	255	11,287	10,594 (84.9%)	97.3%
	工芸館	37	4,074	1,136 (34.3%)	5.5%	29	4,382	3,376 (101.8%)	99.5%
	フィルムセンター (映画関連資料)	—	—	—	—	8,337	159,095	—	—
京都国立近代美術館		54	7,519	2,082 (18.1%)	11.4%	399	13,600	12,296 (107.0%)	85.8%
国立西洋美術館		300	5,927	205 (3.7%)	4.4%	825	5,792	4,600 (83.2%)	94.7%
国立国際美術館		387	7,149	3,657 (51.3%)	19.0%	374	8,065	7,180 (100.8%)	97.6%

計	858	35,308	14,039 (35.1%)	17.8%	10,219	202,221	38,046 (95.3%)	93.9%
---	-----	--------	-------------------	-------	--------	---------	-------------------	-------

注 「累計公開件数」は、所蔵作品総合目録における画像及びテキストデータの公開件数である。東京国立近代美術館工芸館、京都国立近代美術館、国立国際美術館では、複数で一揃いの作品を個別に掲載しているため、テキストデータの公開率が高くなっている。国立西洋美術館は「国立西洋美術館所蔵作品データベース」で画像データ 5,630 点を公開している。フィルムセンターについては、映画フィルムを除いた映画の関連資料についての件数を掲載している。

エ インフォメーションデータセンター（IDC）の確立

引き続き国立美術館 5 館全体において VPN（暗号化された通信網）を採用し、情報ネットワークの安定かつ高速化を実現し、VPN を用いたグループウェア及びテレビ会議システムを継続して稼働させている。

独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムに新収蔵作品の文字・画像データを追加するとともに、同システムへの著作権のある作品画像掲載を進めるため、許諾を得た工芸〔陶磁〕の作品 700 点について画像を新規登録した。また、工芸についての著作権者情報の整備を引き続き行い、工芸〔漆工・染織〕の著作権許諾申請手続を開始した。

平成 23 年度に着手した東京国立近代美術館所蔵作品管理システムならびに独立行政法人国立美術館総合目録のデータ登録更新のためのインターフェースの改良を、他国立美術館と連携して実装させ、平成 25 年度は各館ローカルシステムと総合目録とのデータ連携を改善した。

平成 23 年度に欧米主要美術図書館横断検索システムである [artlibraries.net \(http://artlibraries.net/index_en.php\)](http://artlibraries.net/index_en.php) と国立美術館の図書検索システム（東京国立近代美術館及び国立西洋美術館）の連携の可能性について、国立情報学研究所と連携して始めた受託研究の成果により、artlibraries.net への参加を実現させ、全国美術館会議の会報などにおいて国内広報に尽くした。

（４）国民の美的感性の育成

① 幅広い学習機会の提供（講演会、ギャラリートーク、アーティスト・トーク等）

館名	実施回数	参加者数	目標数	
東京国立近代美術館	本館	406	7,525	5,509
	工芸館	142	2,640	1,616
	フィルムセンター	183	11,836	9,733
京都国立近代美術館	70	3,060	3,724	
国立西洋美術館	324	15,566	10,261	
国立国際美術館	64	3,076	3,486	
国立新美術館	111	17,571	10,518	
計	1,300	61,274	44,847	

ア 各館の特徴

（ア）東京国立近代美術館

（本館）

幅広い層への解説プログラム（所蔵品ガイド、ハイライトツアー、キュレータートーク、音声ガイド、子ども用セルフガイドやイベント等）や来館者サービス（ライブラリ、ショップ、レストラン、休憩室、バリアフリー情報、夜間開館、無料観覧日、MOMAT パスポート等）を一覧できるリーフレット「活用ガイド」を引き続き活用した。

所蔵作品展では、リニューアル工事休館が終わり、開催日数が戻ったため、ガイド等の実施回数や参加者数が回復した。また、6月から7月にかけて東京都図画工作研究会（都図研）との連携授業を行い、7月には休館日を使って研修会を開催してその成果を発表した。

企画展「あなたの肖像－工藤哲巳回顧展」では、主催3館の担当者の共同研究の成果を報告するとともに、展覧会開催に向けて人々の期待感を高めるため、展覧会開催の約半年前にプレ・イベントを行った。

夏の小学生向けプログラム「もうすぐ夏休み！こども美術館」では、異学年児童の同グループ配置、鑑賞活動とギャラリーでの活動を交互に行う構成など新たなプログラム開発に取り組んだ。「竹内栖鳳展 近代日本画の巨人」では、小中学生向けワークシート「こどもセルフガイド」を制作した。

(工芸館)

一定以上の高度で専門的な内容を提供し、近現代工芸及びデザインに関する情報発信、あるいは情報交換を行う場としての工芸館の役割を想定して、ギャラリートーク、アーティスト・トーク、コロキウム、座談会、シンポジウムなどさまざまな手法で教育普及事業を実施した。その一方で、工芸の知識をそれほど持たない来館者でも気軽に参加できるボランティアによるガイドプログラム「タッチ&トーク」においては、単なる情報提供にとどまらない、鑑賞者の自発的な姿勢を促す工芸鑑賞のあり方を検討しながら事業を進めた。

子ども向けプログラムとしては、所蔵作品展「ボディ3」を通して小中学生の工芸への関心を促進させるセルフガイド及びワークシートを制作、また子ども向けのギャラリートークを一般対象とは別途に実施した。また、作家によるワークショップを開催し、素材と技法の体験から工芸の理解を深める様子を検証した。

(フィルムセンター)

大ホールの5企画及び展示室の3企画で、計46回のトークイベントを行った。これらに加え、教育普及を目的とする上映イベントでは、小中学生を対象とする「こども映画館」と、ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント（「伝説の映画コレクション 早稲田大学演劇博物館所蔵フィルム特別上映会」といった恒例行事に加え、研究員による講演解説付きの特別イベント「政岡憲三・大藤信郎アニメーション作品デジタル復元版特別上映会」「小津安二郎作品デジタル復元版特別上映会」などを開催した。

国立美術館キャンパスメンバーズの加盟校（東京国立近代美術館利用校）が、フィルムセンターの所蔵映画フィルムと施設を利用して講義等を行う東京国立近代美術館フィルムセンター・大学等連携事業及び大学等の学生がフィルムセンターで映画の上映会または展覧会を観覧したことを証明する「鑑賞証明カード」の配付は2年目を迎え、大学等連携事業では、8回（5校）の講義が実施された。

12年目を迎えた「こども映画館」では、映画上映に施設見学や弁士・伴奏付きの無声映画上映などを組み合わせるスタイルを踏襲しつつ、子どもたちが日常のテレビやDVDなどでは接する機会を持ちにくい映画遺産に触れる機会を作るとともに、写真画像や手作りの動画等も用いて、わかりやすい解説を行うよう心がけた。相模原分館では、相模原市及び独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）と締結した文化事業等協力協定により、相模原市内の小・中学生並びに相模原市及びJAXAとの共催事業の参加者を対象に、無料で映画鑑賞と保存施設の案内を実施した。映画フィルムの受入・検査・収納までの工程を解説し、映画フィルムの保存についても普及することができた。

(イ) 京都国立近代美術館

引き続き企画展ごとに講演会等を実施した。「映画をめぐる美術—マルセル・ブロータースから始める」では、出品作家3名による連続アーティスト・トークを開催するとともに、夜間開館の時間を利用して「金曜夜の上映プログラム」を3度にわたり開催した。「皇室の名品—近代日本美術の粹—」では、天皇陛下の傘寿祝賀記念として「雅楽演奏会」を開催した。

また、引き続き展覧会に即した内容でワークショップを企画した。「開館50周年記念特別展 交差する表現 工芸／デザイン／総合芸術」では、再現展示された《スターバー》を利用したワークショップ「カンパイ・かざる・グラス」を開催した。「芝川照吉コレクション展～青木繁・岸田劉生らを支えたコレクター」では、ご親族の協力を得ながらワークショップ「私の蔵書印を作ろう」を開催した。「泥象 鈴木治の世界—「使う陶」から「観る陶」、そして「詠む陶」へ—」では、「鑑賞」に重点を置いたワークショップを二つ開催し、未就学児に向けた美術鑑賞の機会を積極的に提示した。

学校との連携では、平成24年度に引き続き、京都市教育委員会、京都市図画工作教育研究会との共催で、小学校教員を対象に鑑賞教育の指導力向上に向けた講座「京都市図画工作科指導講座」を開催した。教員と美術館の距離が縮まるよう、ワールドカフェなどの意見交換のメソッドを取り入れ、内容面でも改善を加えた。

また、大阪教育大学附属池田小中学校と連携をはかり、約160名の子どもたちがギャラリートークを体験した。ギャラリートーク体験は作品に対する理解を深めるとともに、子どもたち自身が後日学校で行うギャラリートークにおいて、話すテーマや内容を構成する時にヒントとなるよう実践した。

(ウ) 国立西洋美術館

年に1回、土日の2日間に館を無料開放する「ファン・デー」は、従来は常設展を中心としたプログラムを組んでいたが、平成25年度は企画展「ル・コルビュジエと20世紀美術」を活用し、同展のギャラリートークや建築ツアーを実施した。常設展を活用した恒例のプログラムが利用者の中に定着している中で、平成25年度には常設展示室内での企画展開催や施設改修のための一部閉室により常設展示の入れ替えが頻繁にあり、教育普及プログラムの内容や実施回数にも影響を及ぼした。安定した常設展の必要性和重要性が改めて認識された一年であった。

(エ) 国立国際美術館

引き続き企画展ごとに講演会、対談、ギャラリートークなどを実施するとともに、コレクション1 特集展示「塩見允枝子とフルクサス」の関連イベントとしてのコンサート

「Music Today on Fluxus 蓮沼執太 vs 塩見允枝子」や、支援団体との協力によるミュージアムコンサート等を開催した。また、「あなたの肖像—工藤哲巳回顧展」に関連した国際シンポジウムや、英国のテートから専門家を招いた保存・修復に関する国際シンポジウム等も開催した。

また、引き続き小中学生を対象とした鑑賞ツアー「こどもびじゅつあー」に加えて、参加者が比較的参加しやすい長期休暇期間中（夏休み、冬休み、春休みなど）に、集中的に親子で展覧会に親しむ手だてとなる鑑賞教育プログラム「なつやすみびじゅつあー」、「びじゅつあーすぺしゃる」を実施した。「なつやすみびじゅつあー」、「びじゅつあーすぺしゃる」では、同時期に開催中の企画展と関連したテーマを選び、タピスリーを展示した「貴婦人と一角獣展」の開催中には、織り物づくり体験、「アンドレアス・グルスキー展」

開催中には、参加者が自分で撮影した写真を使った作品制作等、実際に作品を制作することにより、企画展をより深く鑑賞できるよう工夫した。

(オ) 国立新美術館

講演会や作品解説会、シンポジウムなど、展覧会の内容をより深く検証するための従来のイベントに積極的に取り組んだほか、平成 25 年度の新規事業として、「アンドレアス・グルスキー」展において展示室内での学芸員によるギャラリートークを実施した。開館以来の特徴的な試みである「アーティスト・ワークショップ」では、初めて外部機関と協力し、21_21 DESIGN SIGHT との共催で「“ハウス・オブ・カード”をつかったワークショップ」を開催した。また、自主展に合わせた鑑賞ガイドシリーズ『アートのとびら 国立新美術館ガイドブック』に加え、共催展「アメリカン・ポップ・アート展」でも鑑賞ガイドを作成・無料配布した。

このほか、美術館の設計者である建築家黒川紀章氏の七回忌を機に、日本デザインフォーラムとの共催で 3 日間にわたる大型イベントを開催したほか、「イメージの力」展では全館協力のもと、同展と美術館の普及を目的に、講演会やワークショップ、コンサート、スタンプラリー等で構成されたプロジェクト「みる、きく、あそぶ イメージの力 ウィークエンド」を 2 日にわたって開催するなど、多彩なプログラムの実施に努めた。

平成 24 年度に初めて取り組んだ未就学児を対象にしたワークショップを、引き続き企画・実施した。未就学児（2～6 歳）親子を対象に、大森靖枝氏（劇団風の子東京・演出家）を講師に招いた「はじめてのアート 一つくって遊ぶ、劇ごっこー」は、応募者も多く、参加者の満足度も非常に高かった。また、「イメージの力」展に合わせて開催したワークショップ「わたし みんな めぐる イメージー世界のものと向き合おうー」では、同じ内容を初日は中学生以上向け、2 日目は子供（小学校 4 年～6 年生）向けのプログラムとして企画した。一方、21_21 DESIGN SIGHT との共催による「“ハウス・オブ・カード”をつかったワークショップ」と、「みる、きく、あそぶ イメージの力 ウィークエンド」に合わせて開催したワークショップ「折りジナルフェイスをつくろう！」は、事前申込不要の自由参加型ワークショップであったが、小さな子供でも楽しめる内容としたことから未就学児を含む家族や親子の参加が非常に多かった。

② ボランティアや支援団体の育成等による教育普及事業

ア ボランティアによる教育普及事業

館 名		ボランティア 登録者数	ボランティア 参加者数	事業参加者数
東京国立近代美術館	本館	40	545	4,873
	工芸館	30	244	1,479
京都国立近代美術館		32	—	—
国立西洋美術館		45	542	10,356
国立国際美術館		25	31	561
国立新美術館		80	106	4,070
計		252	1,468	21,339

イ 各館の特徴

(ア) 東京国立近代美術館

本館では、ガイドスタッフのフォローアップ研修において、5月に一條彰子（主任研究員）が「ドイツと北米，美術教育の現場から」，1月に大高幸氏（放送大学講師）が「米国の美術館でのギャラリートークについて」の講演を行い，海外の教育普及事業について理解を深めた。また1月の研修は，ガイドスタッフ有志による研修会を反映し講師とガイドスタッフとの協議の時間を設けた。夏の小中学生向けプログラム **KIDS★MOMAT2013** では，ガイドスタッフが「もうすぐ夏休み！こども美術館」，「夏休みトークラリー」のスタッフを担当した。

工芸館では，長期休館に伴い，ボランティアによる事業回数は減少した。一方，学校等団体対応の機会の増加にあわせ，平日午前中の活動可能な人を中心に新規募集を行い，6名の養成研修を実施した。平成26年度からの正規採用に向けて，養成研修は14日間約70時間にわたり，工芸の素材，技法，歴史，また作品の扱い方や接遇等の内容で構成した。工芸の素材・技法は多様かつ複雑であるが，プログラム参加者の反応に即して適切な情報を提供し，作品への関心を深めていくか，ディスカッションを重ねながら研修を進めた。また，この養成研修を通して得た新たな気づきは登録中のメンバーとも共有し，フォローアップ研修のテーマにおいて検討を重ねた。夏の **KIDS★MOMAT2013** では，ガイドスタッフが「こどもタッチ&トーク」，「親子でタッチ&トーク」を企画，実施した。

(イ) 京都国立近代美術館

京都市内博物館施設連絡協議会及び京都市教育委員会が主催する「京都市博物館ふれあいボランティア養成講座」の受講・修了者が所属する京都市博物館ふれあいボランティア「虹の会」からボランティアを受け入れ，来館者へのアンケート調査回収，集計に携わってもらうことで，ボランティアの経験，知識の向上等に協力した。また，京都市博物館ふれあいボランティア「虹の会」の研修会実施に協力し，研究員による解説等を行った。

(ウ) 国立西洋美術館

年々利用者が増加してきたスクール・ギャラリートークに対応するためにボランティア・スタッフの募集を行い，学校と家族向けプログラム担当者8名，週末の建築ツアー担当者5名を新たに採用し，1年をかけてプログラムに必要な技術・知識の研修を実施した。平成25年度は，スクール・ギャラリートークの数こそ減少したが，それ以外のプログラムは例年通り充実した活動を実施した。現スタッフと共に，新規スタッフはファン・デー，どうぶじゅつ，ウィンター・プログラムなどのサポートに入ることで実践に向けての準備も行った。

(エ) 国立国際美術館

学生ボランティアを広く募り，教育普及事業の準備補助，実施補助，図書資料等の整理，「国立国際美術館友の会」発送業務補助等，美術館運営の補助業務を実施することを通じて，美術館活動に接する機会を提供した。

(オ) 国立新美術館

学生ボランティアである「サポートスタッフ」として，80名の大学生・大学院生が登録した。美術や美術史だけでなく，幅広い分野の専攻の学生が，講演会やシンポジウム，ワークショップの運営補助，広報事業の補助などの活動に参加した。館内の職員にサポー

トスタッフ事業への協力を積極的に呼びかけ、その結果、サポートスタッフの活動回数は大幅に増加した。

ウ 支援団体等の育成と相互協力による事業

(ア) コンサート等の実施

京都国立近代美術館では、京都市立芸術大学との共催によるコンサート「京都国立近代美術館ホワイエコンサート」を開催した。(計2件, 2回)

国立西洋美術館では、「ウィンター・プログラム」クリスマスキャロル・コンサート、NPO法人ジャパンアカデミーフィルハーモニックとの連携による「ファン・デー2013」前庭コンサートを開催した。(計2件, 10回)

国立国際美術館では、コレクション1 特集展示「塩見允枝子とフルクスス」の関連イベントとして「Music Today onFluxus 蓮沼執太 vs 塩見允枝子」、公益財団法人ダイキン工業現代美術振興財団との連携によって「国立国際美術館ミュージアムコンサート」を開催した。また、電子音響芸術研究会の主催で開催された「Japan Electroacoustic Music Concert 日本の若き電子音楽作曲家による、アコースモニウム空間音響芸術演奏会」に協力し、当館客員研究員がアフタートークに参加した。(計3件, 3回)

国立新美術館では、企業協賛金を活用した館主催のロビーコンサート「国立新美術館サマー・ジャズコンサート」及び「国立新美術館音楽の楽しみ『弦楽四重奏の魅力』」を開催した。(計2件, 2回)

(イ) ぐるっとパスへの参加

東京の美術館・博物館等 77 施設が参加する共通入館券事業「東京・ミュージアムぐるっとパス 2013」及び関西の美術館・博物館等 59 施設が参加する「ミュージアムぐるっとパス・関西 2013」に参加し、所蔵作品展観覧料の無料化または割引や、企画展観覧料の割引などを実施した。

(ウ) NPO 法人との連携

国立西洋美術館では、NPO 法人ジャパンアカデミーフィルハーモニックとの連携による「ファン・デー2013」前庭コンサートを開催した。(8月10日,11日 計6回)

国立国際美術館では、NPO 法人大阪美術市民会議との共催により、「現代美術シンポジウム：アートにブレイクはあるのか？ 私が垣間見た世界」を開催した。

(エ) 企業との連携

東京国立近代美術館及び国立西洋美術館では、三菱商事株式会社と共同で行っている障がい者のための鑑賞プログラムを実施した。

①東京国立近代美術館では、「ジョセフ・クーデルカ展」(11月30日)の閉館後に障がい者特別内覧会を実施し、参加者は50名であった。

②国立西洋美術館では、「ラファエロ」(4月27日)、「モネ、風景を見る眼」(2月1日)を対象に障がい者特別内覧会を実施し、参加者は674名であった。

東京国立近代美術館工芸館では、「工芸から KŌGEI へ」展の会期中(平成26年2月10日実施)、公益財団法人ポーラ伝統文化財団と協力して「MOVIE + TOUCH & TALK PART 6 -映画上映 + 作品鑑賞-」を、工芸館の展示室を使って開催した。これは工芸館の鑑賞プログラム「タッチ&トーク」とポーラ伝統文化財団が所有している工芸技術記録映画の鑑賞をドッキングしたもので、人間国宝の技を伝える記録映画を鑑賞した後、関

連する作品や資料を実際に手にとって鑑賞する「さわってみようコーナー」の体験と、開催中の展覧会を研究員のギャラリートークによって鑑賞した。参加者は50名であった。

国立国際美術館では、企業とのタイアップによる前売券の発券、企業等が発行する印刷物・ホームページへの展覧会情報の掲載等、企業との連携を進めた。

- ①朝日新聞グループ 朝日友の会、(株)阪急阪神カード、(株)京阪カード及び大阪市交通局の情報誌・ホームページに展覧会情報を掲載するとともに割引を実施した。
- ②近隣ホテルと連携し、広報誌への情報掲載及びホームページのリンク等を実施した。
- ③「Osaka メセナカード」と連携し、カードの普及広報を行った。
- ④中之島地区にある企業等からなる「中之島まちみらい協議会」にオブザーバーとして協力するとともに、同協議会メンバーである京阪電鉄の広報誌において、展覧会及びイベントの広報を行った。

国立新美術館では、外部協力者(参与)と連携し、外部資金の募金活動を行い、コンサート事業等の支援を目的に、企業から協賛金を受け入れた。企業協賛金を活用した事業として、託児サービスの提供(36回)、JAC(Japan Art Catalog)プロジェクトとして海外の日本美術の研究拠点4箇所へ国内で開催された展覧会図録の寄贈、教育普及事業としてワークショップ開催、講演会及びシンポジウム開催、鑑賞ガイドの作成を行った。

(オ) その他

京都国立近代美術館では、京都ミュージアムズ・フォーの連携講座として講演会「鈴木治の陶芸」(講師:中尾優衣研究員)を実施した。また、京都岡崎魅力づくり推進協議会に協力し、「美術館学芸員さんと巡る、展覧会の楽しみ方」を開催した。

国立西洋美術館では、国立西洋美術館世界遺産登録上野地区推進委員会との共催により「国立西洋美術館 大茶会」(10月28日,1回)、「ル・コルビュジエと20世紀美術」展無料観覧を実施した。また、一般社団法人アーツアライブが実施した認知症鑑賞プログラムに協力した(6月20日,10月23日,12月18日,1月22日,計4回)。

国立新美術館では、政策研究大学院大学学生向けガイダンスを実施した(2回)。また、絵画鑑賞を通じて障害者への理解を深めることを目的に、港区内の障害者施設で制作された作品を展示する「地域で共に生きる障害児・障害者アート展」(主催:港区,共催:国立新美術館)を実施した。

③ 映画フィルム・資料を活用した教育普及活動

京都国立近代美術館では、東京国立近代美術館フィルムセンターとの共同主催による映画上映「NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films」を5回にわたり実施した。監督映画上映記念として松本俊夫氏によるアフタートークを実施し、内容を充実させた。また、上映作品プログラムのデザインを一新するとともに、展覧会広報物にも「NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films」の情報を載せるなど、広報に力を入れた。

国立国際美術館では、映画上映「中之島映像劇場」の第6回,第7回を開催した。第7回は、東京国立近代美術館フィルムセンターとの共催により、1920年代から1946年までの貴重な映像フィルムにより日本の漫画映画の誕生と発展をたどるプログラムを企画し、3日間でのべ1,000人を超える来場者があった。

これらの共催事業は、関西におけるフィルムセンター所蔵作品の定期的な上映拠点の形成に、堅実な成果を上げている。

(5) 調査研究成果の美術館活動への反映

① 調査研究一覧

ア 東京国立近代美術館

(本館)

調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
フランシス・ベーコン	「フランシス・ベーコン展」を開催しカタログを発行	豊田市美術館
竹内栖鳳	「近代日本画の巨人 竹内栖鳳展」を開催しカタログを発行	京都市美術館
ジョセフ・クーデルカ	「ジョセフ・クーデルカ展」を開催しカタログを発行	
工藤哲巳	「あなたの肖像—工藤哲巳回顧展」を開催しカタログを発行	国立国際美術館, 青森県立美術館
コレクションを中心とした小企画 都市の無意識	小冊子を発行, ギャラリートーク開催	
コレクションを中心とした小企画 泥とジェリー	小冊子を発行, ギャラリートーク開催	
MOMATコレクション特集「何かがおこってる:1907-1945の軌跡」	MOMATコレクション特集「何かがおこってる:1907-1945の軌跡」の開催及び章パネル, 解説キャプション執筆, ギャラリートーク開催	
菱田春草作品の科学調査	平成26年度に「菱田春草展」を開催し, カタログを発行	東京文化財研究所, 東京藝術大学, 福井県立美術館, 日本経済新聞社
鑑賞教育に関する美術館と学校の連携や, 鑑賞と表現の授業の連続性	教員研究・研修会の実施	東京都図画工作研究会
美術館の教育普及事業(ワークショップ, 鑑賞ガイド等)	ワークショップの実施, セルフガイドの制作	
国立美術館の情報資源と国立情報学研究所によるWebcatPlus, 文化庁文化遺産オンライン等に掲載の文化情報資源を, 国立美術館「想—IMAGINE」において連携して検索・閲覧できるシステムの公開	国立美術館「想—IMAGINE」の公開	国立情報学研究所, 国立国会図書館
国立情報学研究所との共同による海外主要美術図書館横断検索システム(artlibraries.net)と国立美術館図書館OPACとの連携可能インターフェース	artlibraries.netへの参加による美術書誌情報の発信	国立情報学研究所, artlibraries.net, カールスルーエ工科大学
1960-70年代の概念芸術:作品の所在調査とデータ・ベース構築(科研費 基盤B 研究代表者:中林和雄, 平成24年度~26年度)	データ・ベース「1960-70年代の概念芸術」を構築	
美術館の所蔵作品を活用した鑑賞教育プログラムの開発(科研費 基盤B 研究代表者:一條彰子, 平成24年~平成26年)	所蔵作品を活用した鑑賞教育への反映	
1900-30年代フランスの美術と建築における軸測投影に関する総合的研究(科研費 若手B 研究代表者:米田尚輝, 平成24~26年度)	論文「モンドリアンとファン・ドゥースブルフのグラフィック・イメージ」の執筆	国立新美術館

(工芸館)

調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
児童を対象とする工芸作品の鑑賞教育	タッチ&トークの構成	東京都図画工作研究会
児童・生徒を対象とする工芸素材と技法の体験及び鑑賞教育	セルフガイドの作成	多摩美術大学
一般鑑賞者を対象とする工芸技法の鑑賞教育の推進に関する調査研究	「工芸からKŌGEIへ」展カタログ	日本工芸会
現代のプロダクトデザインに関する調査研究	企画展「現代のプロダクトデザイン—Made in Japanを生む」	日本デザインコミッティー
工芸の現代的表現に関する調査研究	米・モリカミ博物館「現代の日本工芸」展	文化庁、外務省、在マイアミ総領事館、モリカミ博物館
東京オリンピックと社会システムに関する調査研究（科研費「社会システム<芸術>とその変容」）	公開コロキウム「社会システムのなかのオリンピックとデザイン」（東近美）2013年4月21日	科研費
東アジア地域のデザインに見る交流に関する歴史的研究：中国、台湾、韓国、日本（科研費 挑戦的萌芽研究 研究代表者：木田拓也、23年 - 25年）	企画展「越境する日本人展」（平成24年度）	

(フィルムセンター)

調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
国際フィルム・アーカイブ連盟（FIAF）会員、その他同種機関、現像所等からの情報に基づく、未発見の日本映画フィルムについて	右記諸機関からの情報に基づき、フィルムの収集、保存・復元の検討を行った。	UCLAフィルム・アンド・テレビジョン・アーカイブ、ジョージ・イーストマン・ハウス、福岡市総合図書館（以上FIAF機関）、現像所
文化庁との共同事業による「近代歴史資料調査」の結果に基づき、新たに残存が確認された映画フィルムについて	『日本南極探検』（1912年）について、所有者からフィルムを借用し、内容確認及び今後の保存・復元に向けて、現物調査を開始した。	
可燃性フィルムを含む映画フィルム及びデジタルメディアの登録・長期保管・保存・変換、アナログ及びデジタル技術を活用した復元、及び映写について	・所蔵ドイツ映画の可燃性フィルムより不燃化作業を行った。 ・平成15年にデジタル復元を行った『斬人斬馬剣』（1929年）の保存用デジタルテープのメディア及びフォーマット変換を行った。 ・小津安二郎監督カラー作品4作品のデジタル復元を初め、多くのフィルムの購入・複製化を行った。	日本映画製作者連盟、コミュニティシネマセンター、映画製作会社、現像所、映画映像機器メーカー
清水宏監督に関する調査研究	上映会「生誕110年 映画監督 清水宏」	
東宝の歴史と作品に関する調査研究	上映会「よみがえる日本映画 vol.6 [東宝篇] —映画保存のための特別事業費による」	
無声映画に関する調査研究	上映会「シネマの冒険 闇と音楽 2013 ロイス・ウェバー監督選集」	
山田洋次監督に関する調査研究	上映会「映画監督 山田洋次」	
所蔵外国映画に関する調査研究	上映会「テクニカラー・プリントでみる NFC所蔵外国映画選集」	

松竹の歴史と作品に関する調査研究	上映会「よみがえる日本映画 vol.7 [松竹篇] -映画保存のための特別事業費による」	
現代日本映画に関する調査研究	上映会「自選シリーズ 現代日本の映画監督2 大森一樹」	
新収蔵作品とその作者や時代背景に関する調査研究	上映会「よみがえる日本映画 vol.6 [東宝篇] -映画保存のための特別事業費による」並びに「よみがえる日本映画 vol.7 [松竹篇] -映画保存のための特別事業費による」	
新たに復元された映画とその作者、技術フォーマットや時代背景に関する調査研究	教育普及事業「小津安二郎作品デジタル復元版特別上映会」並びに「政岡憲三・大藤信郎アニメーション作品デジタル復元版特別上映会」	
日本映画におけるスチル写真	展覧会「映画より映画的！ 日本映画 スチル写真の美学」の企画構成	
チェコの映画ポスター	展覧会「チェコの映画ポスター」の企画構成	京都国立近代美術館
小津安二郎作品における図像	展覧会「小津安二郎の図像学」の企画構成	
映画美術資料を調査及び整理するとともに、その画像をデジタル化し、若手美術監督等の育成及び映画美術の研究に活用することを目的とする「日本映画美術遺産プロジェクト」	映画資料のアーカイビング	協同組合日本映画・テレビ美術監督協会
無声映画の音-帝政期ロシアにおける初期映画興行研究（科研費 若手B 研究代表者：大傍正規，平成23年度～26年度）	その他の美術館活動推進のための調査研究	

イ 京都国立近代美術館

調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
近代「工芸」概念	展覧会「開館50周年記念特別展」の開催	
近代におけるコレクターと美術とのかわり	展覧会「芝川照吉コレクション展」の開催、所蔵作品目録の刊行	
陶芸家・鈴木治	展覧会「泥象 鈴木治の世界」の開催	
映画をめぐる美術	展覧会「映画をめぐる美術」の開催	東京国立近代美術館
皇室ゆかりの近代洋画・日本画・工芸	展覧会「皇室の名品」の開催	宮内庁三の丸尚蔵館
ファッション	展覧会「Future Beauty」の開催	京都服飾文化研究財団
チェコの映画ポスター	展覧会「チェコの映画ポスター」の開催	東京国立近代美術館フィルムセンター
日本近代洋画の東西	国立美術館巡回展「西洋への憧れ 個のめざめ」の開催	川崎市立美術館 佐倉市立美術館
洋画家・浅井忠	国立美術館巡回展 第二部「浅井忠と京都の弟子たち」の開催	佐倉市立美術館

子どもを対象とした鑑賞教育	展覧会に関連したワークショップの開催	
ベルリン工芸博物館開館時の展示方法 —考—源泉としてのジオラマとグローブ ウス一族 (科研費 基盤C 研究代表者:池田祐 子, 平成25年～平成27年)	工芸(デザイン)コレクションが持つ意義と、その収 蔵活動ならびにコレクション・ギャラリーでの展示方 法の検証	
近代美術工芸における「図案」と「図案家 」をめぐる基礎的研究 (科研費 若手B 研究代表者:中尾優 衣, 平成25年～平成28年)	研究成果の一部を平成26年度に実施する展覧会「うる しの近代——京都、「工芸」前夜から」で発表予定。	

ウ 国立西洋美術館

調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
ラファエロ	展覧会及び講演会等の開催	フィレンツェ文化財・美術館特別 監督局
ミケランジェロ	展覧会及び講演会等の開催, 図録の刊行	カーサ・ブオナローティ, 福井県 立美術館
モネと 19 世紀フランス風景画	展覧会及び講演会等の開催, 図録の刊行	ポーラ美術館
ル・コルビュジエの絵画	展覧会及び講演会等の開催, 図録の刊行	ギャラリー・タイセイ
スペインのアンフォルメル芸術	展覧会の開催, ギャラリートーク等の開催, 図録の刊 行	国立ソフィア王妃芸術センター
旧松方コレクションを含む松方コレク ション全体	作品収集, 作品及び文研調査, 所蔵作品展・企画展, 刊行物, 講演発表, 解説等	
中世末期から 20 世紀初頭の西洋美術	同上	
所蔵版画作品	同上	
美術館教育	教育普及プログラムを実施。鑑賞教育教材制作, イン ターンシップ, ボランティア指導, 解説等	
ル・コルビュジエによる国立西洋美術 館本館の設計	教育普及プログラムの実施。文献及び図面調査。本館 保存に関する修理検討委員会開催及び保存活用計画 改訂。	
ジャック・カロ	展覧会及び講演会等の開催準備	
橋本コレクション	同上	
フェルディナント・ホドラー	同上	ベルン美術館, スイス芸術学研 究所, ジュネーヴ芸術・歴史博物館
グエルチーノ	同上	ボローニャ文化財・美術館特別監 督局

ボルドーの美術	同上	ボルドー美術館, アキテーヌ美術館, 装飾芸術美術館
国立西洋美術館所蔵作品データベース (科研費(研究成果公開促進費(データベース)), 研究代表者:川口雅子)	国立西洋美術館所蔵作品データベースの構築, 整備	
17世紀オランダ美術の東洋表象研究(科研費(基盤A), 研究代表者:幸福輝)	作品及び文献調査, データベースの構築	
共和主義におけるチャールズ・ウィルソン・ピールのミュージアムの教育的役割と視覚による教育の成立(科研費(基盤C), 研究代表者:横山佐紀)	教育普及活動に関する文献調査, 今後の活動に関する基礎資料。	
ジャン・パオロ・パニーニの風景画に描かれた古代建築と古代彫刻のデータベース構築(科研費(基盤C), 研究代表者:飯塚隆)	作品及び文献調査, 所蔵作品展・企画展, 刊行物, 解説等。	
エライザ法を用いた膠着材同定の実現のための検討(科研費(若手B), 研究代表者:高嶋美穂)	所蔵作品の保存のための基礎資料	
装飾とデザインのジャポニスム-西欧におけるその概念形成と実作の研究(科研費(基盤B), 研究代表者:馬淵明子)	作品及び文献調査, 刊行物等	
古代ローマ工芸美術の基礎的研究 ~テッラ・シギラタについて~ (科研費(基盤C), 研究代表者:向井朋生)	作品及び文献調査, 刊行物等	
前衛と古典主義:20世紀イタリア美術における美術館と複製媒体の諸機能に関する研究(科研費(若手B), 研究代表者:阿部真弓)	作品及び文献調査, 刊行物等	

エ 国立国際美術館

調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
国立国際美術館所蔵作品	コレクション展	
現代美術の動向	コレクション展	
フランス国立クリュニー中世美術館所蔵作品	「フランス国立クリュニー中世美術館所蔵 貴婦人と一角獣展」	フランス国立クリュニー中世美術館, 国立新美術館
工藤哲巳	「あなたの肖像 工藤哲巳回顧展」	東京国立近代美術館, 青森県立美術館
アンドレアス・グルスキー	アンドレアス・グルスキー展	国立新美術館
郭 徳俊	「郭徳俊 ニコッとシェー 1960年絵画を中心に」	
ジャン・フォートリエ	「ジャン・フォートリエ展(仮称)」	東京ステーションギャラリー, 豊田市美術館

フィオナ・タン	「フィオナ・タン展（仮称）」	東京都写真美術館
高松次郎	「高松次郎展（仮称）」	
アルベルト・ジャコメッティ	「ジャコメッティ展（仮称）」	
美術館教育	美術館，展覧会運営	
アジアの美術館並びに美術館運営	美術館，展覧会運営	国際交流基金
現代美術の保存収集	NMAO国際シンポジウム「現代美術をコレクションするとは？」	TATE, 東京都現代美術館, 東京都写真美術館, 兵庫県立美術館, プリティッシュ・カウンシル

オ 国立新美術館

調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
日本の現代美術の動向に関する調査研究	「アーティスト・ファイル2013—現代の作家たち」	
海外の現代美術の動向に関する調査研究	「アーティスト・ファイル2013—現代の作家たち」	
20世紀中葉のロサンゼルスにおけるデザイン潮流についての調査研究	「カリフォルニア・デザイン 1930-1965—モダン・リビングの起源—」	ロサンゼルス・カウンティ美術館
フランスの中世美術に関する調査研究	「フランス国立クリュニー中世美術館所蔵『貴婦人と一角獣』展」を開催	フランス国立クリュニー中世美術館，国立国際美術館
アメリカにおけるポップ・アートについての調査研究	「アメリカン・ポップ・アート展」を開催	
ヨーロッパにおける点描技法と分割主義の系譜と伝播に関する調査研究	「印象派を超えて—点描の画家たち ゴッホ，スーラからモンドリアンまで」展を開催	クレラー＝ミュラー美術館，広島県立美術館，愛知県美術館
中村一美の芸術とその展開についての調査研究	「中村一美展」を開催	
先史時代から現代にいたるまでの造形物の機能と役割に関する，受容美学的観点での調査研究	「イメージの力—国立民族学博物館コレクションにさぐる」展を開催	国立民族学博物館
日韓の現代美術作家に関する調査研究	展覧会開催に向けた調査	韓国国立現代美術館 国際交流基金
美術館の教育普及事業（ワークショップ，鑑賞ガイド等）に関する調査研究	教育普及事業	
日本の近・現代美術資料に関する調査研究	美術資料の収集・提供事業	
戦後の日本の美術館等における展覧会データの収集及び公開に関する調査研究	美術資料の収集・提供事業	
美術情報の収集・提供システムに関する調査研究	美術資料の収集・提供事業	
美術館におけるデジタル・アーカイブの構築に関する調査研究	美術資料の収集・提供事業	

② 展覧会カタログの執筆

ア 東京国立近代美術館 (本館)

タイトル	執筆者氏名（職名）	展覧会名
「泥とジェリー」	蔵屋 美香 (美術課長)	コレクションを中心とした小企画「泥とジェリー」
「そこにあるものから何を学ぶのか—観察とつくること」「夏の家」観察ノート」	柴原 聡子 (研究補佐員)	「夏の家」
「都市の無意識」	鈴木 勝雄 (主任研究員)	「都市の無意識」展ブローシャ
「試みる人、栖鳳」，章解説，作品解説，年譜，主要参考文献	中村 麗子 (主任研究員)	「近代日本画の巨匠 竹内栖鳳展」
「箱があなたに贈られるとき—工藤哲巳の展開を探る。1962年，パリ。」，仏文和訳	榊田 倫広 (研究員)	「あなたの肖像—工藤哲巳回顧展」
「クーデルカの世界」，「最善を尽くすこと，それをいつも頭においている：ジョセフ・クーデルカとの対話ノートより」（翻訳），章解説（執筆及び翻訳）	増田 玲 (主任研究員)	「ジョセフ・クーデルカ展」

(工芸館)

タイトル	執筆者氏名（職名）	展覧会名
セルフガイド「ボディ ³ 」	今井 陽子 (主任研究員)	「所蔵作品展 ボディ ³ 」
ボディ・ブック&ノート	今井 陽子 (主任研究員)	「所蔵作品展 ボディ ³ 」
「森口華弘と染めの美」	今井 陽子 (主任研究員)	『クローズアップ工芸』展
作家略歴，用語解説，作品目録	今井 陽子 (主任研究員)	『工芸から KŌGEI へ』展
「松田権六《蒔絵竹林文箱》に見る蒔絵表現」	北村 仁美 (主任研究員)	『クローズアップ工芸』展
Made in Japan を生む：現代日本のプロダクトデザインの力	諸山 正則 (主任研究員)	企画展「現代のプロダクトデザイン—Made in Japanを生む」
「小名木陽一が極めた織の造形」	唐澤 昌宏 (工芸課長)	『クローズアップ工芸』展
「工芸」から「KŌGEI」へ	唐澤 昌宏 (工芸課長)	『工芸からKŌGEIへ』展
作家略歴，用語解説，作品目録	唐澤 昌宏 (工芸課長)	『工芸から KŌGEI へ』展
富本憲吉の羊歯模様について：クローズアップ《色絵金銀彩羊歯文八角飾箱》	木田 拓也 (主任研究員)	『クローズアップ工芸』展

(フィルムセンター)

タイトル	執筆者氏名（職名）	展覧会名
映画作品解説	岡田秀則 (主任研究員)	チェコの映画ポスター テリー・ポスター・コレクションより

イ 京都国立近代美術館

タイトル	執筆者氏名（職名）	展覧会名
〈工芸〉表現の一断面から見たその諸相	山野 英嗣 (学芸課長 [当時])	開館 50 周年記念特別展 交差する表現 工芸／デザイン／総合芸術
〈芝川照吉コレクション〉について	山野 英嗣 (客員研究員 [当時])	芝川照吉コレクション展～青木繁・岸田劉生らを支えたコレクター
芝川照吉と工芸家たち—藤井達吉, バーナード・リーチ, 富本憲吉, 河合卯之助	松原龍一 (学芸課長)	芝川照吉コレクション展～青木繁・岸田劉生らを支えたコレクター
出品作家紹介	平井 啓修 (研究員)	芝川照吉コレクション展～青木繁・岸田劉生らを支えたコレクター
泥象 鈴木治の世界—「使う陶」から「観る陶」、そして「詠む陶」へ—	松原 龍一 (学芸課長)	泥象 鈴木治の世界 —「使う陶」から「観る陶」、そして「詠む陶」へ—
鈴木治が求めた「象」—「詠む陶」の視点から	中尾 優衣 (研究員)	泥象 鈴木治の世界 —「使う陶」から「観る陶」、そして「詠む陶」へ—
Column04 「泥像」から「泥象」へ	中尾 優衣 (研究員)	泥象 鈴木治の世界 —「使う陶」から「観る陶」、そして「詠む陶」へ—
映画を読む, 言葉を探す—マルセル・ブロータースから始めてみる	牧口 千夏 (研究員)	映画をめぐる美術—マルセル・ブロータースから始める
「皇室の名品—近代日本美術の粋—」展について	尾崎 正明 (前館長)	皇室の名品—近代日本美術の粋—
皇室と近代日本工芸	松原 龍一 (学芸課長)	皇室の名品—近代日本美術の粋—
作品解説	松原 龍一 (学芸課長) 小倉 実子 (主任研究員) 中尾 優衣 (研究員) 平井 啓修 (研究員)	皇室の名品—近代日本美術の粋—
ポスター作家略歴	池田 祐子 (主任研究員)	チェコの映画ポスター テリー・ポスター・コレクションより
西洋への憧れ 個のめざめ	山野英嗣 (前学芸課長)	国立美術館巡回展 西洋への憧れ 個のめざめ 日本近代洋画の東西

ウ 国立西洋美術館

タイトル	執筆者氏名（職名）	展覧会名
「芸術家としてのル・コルビュジエ」, 章解説, 作品解説	村上 博哉 (副館長)	ル・コルビュジエと 20 世紀美術

「壁は語る」, 章解説, 作品解説, 年譜	林 美佐 (客員研究員)	ル・コルビュジエと 20 世紀美術
「ル・コルビュジエの探求した「総合芸術」」, 作品解説	山名 善之 (客員研究員)	ル・コルビュジエと 20 世紀美術
「システイーナ礼拝堂小史—シクストゥス 4 世, ミケランジェロ, コンクラーヴェ」, 作品解説	川瀬 佑介 (研究員)	システイーナ礼拝堂 500 年祭記念 ミケラ ンジェロ展—天才の軌跡
「アントニオ・サウラ」, 「エステバン・ピセン テ」	川瀬 佑介 (研究員)	ソフィア王妃芸術センター所蔵 内と外—ス ペイン・アンフォルメル絵画の二つの『顔』
章解説, 解説(「サン＝シメオン農場の道」, 「『両 世界の芸術』とモネの挿絵」, 「古きフランスの ピトレスクでロマンティックな旅」, 「海辺の子 どもたち—ルノワールとゴーガン」, 「〈睡蓮〉 の大装飾画をめぐって—松方コレクションとモ ネ」)	陳岡 めぐみ (主任研究員)	国立西洋美術館×ポーラ美術館 モネ, 風景 をみる眼—19 世紀フランス風景画の革新
解説(「オシュデ邸の装飾」, 「最後の印象派展」, 「ジヴェルニーの庭」, 「モネ—ロダン」展), 作家解説, 関連年表	中田 明日佳 (研究員)	国立西洋美術館×ポーラ美術館 モネ, 風景 をみる眼—19 世紀フランス風景画の革新

エ 国立国際美術館

タイトル	執筆者氏名 (職名)	展覧会名
生きているコレクション	山梨 俊夫 (館長)	美の響演 関西コレクションズ
「関西コレクションズ」の開催にあたって, 作品 解説	島 敦彦 (副館長)	美の響演 関西コレクションズ
第 1~5 章の章解説, 作品解説	安来 正博 (主任研究員)	美の響演 関西コレクションズ
作品解説	中井 康之 (主任研究員)	美の響演 関西コレクションズ
作品解説	中西 博之 (主任研究員)	美の響演 関西コレクションズ
作品解説	植松 由佳 (主任研究員)	美の響演 関西コレクションズ
作品解説	橋本 梓 (研究員)	美の響演 関西コレクションズ
作品解説	竹内 万里子 (客員研究員)	美の響演 関西コレクションズ
工藤哲巳入門①~⑩	島 敦彦 (副館長)	あなたの肖像—工藤哲巳回顧展
工藤哲巳の宇宙論	中井 康之 (主任研究員)	あなたの肖像—工藤哲巳回顧展
工藤哲巳の政治性	福元 崇志 (研究補佐員)	あなたの肖像—工藤哲巳回顧展
アンドレアス・グルスキー: 大阪, 東京, 福山そ してカミオカンデ	植松 由佳 (主任研究員)	アンドレアス・グルスキー展

オ 国立新美術館

タイトル	執筆者氏名（職名）	展覧会名
「パシフィカ」と「ジャパニーズ・モダン」—1950年代カリフォルニアと日本における日本調のモダン・デザイン	本橋 弥生 (主任研究員)	「カリフォルニア・デザイン 1930-1965—モダン・リビングの起源—」
『貴婦人と一角獣展』について	南 雄介 (副館長)	「フランス国立クリュニー中世美術館所蔵『貴婦人と一角獣』展」
関連年表	宮島 綾子 (主任研究員)	「フランス国立クリュニー中世美術館所蔵『貴婦人と一角獣』展」
主要参考文献目録	米田 尚輝 (研究員)	「フランス国立クリュニー中世美術館所蔵『貴婦人と一角獣』展」
「アンドレアス・グルスキー：絵画的コンポジションとしての写真」	長屋 光枝 (主任研究員)	「アンドレアス・グルスキー展」
「アンドレアス・グルスキー、その革新の軌跡」/略歴/主要参考文献	山田 由佳子 (研究員)	「アンドレアス・グルスキー展」
章解説/作家略歴「1章 ロバート・ラウシェンバーグ」「2章 ジャスパー・ジョーンズ」「3章 ラリー・リヴァーズ/ジム・ダイン」「6章 アンディ・ウォーホル」/作品解説	西野 華子 (主任研究員)	「アメリカン・ポップ・アート展」
「芸術と日常をつなぐ—『ニュー・リアリズム』展における『アメリカン・ポップ・アート』の形成」/「クレス・オルデンバーグ」/「メル・ラムス/ジェームズ・ローゼンクイスト/トム・ウェッセルマン」(章解説)/作品解説	瀧上 華 (アソシエイトフェロー)	「アメリカン・ポップ・アート展」
「筆触と色彩—ポップ・アートと絵画」/「ロイ・リキテンスタイン」「友人としてのアーティストたち」(作家解説)/「パワーズ・コレクションと作家たち キミコ・パワーズへのインタビュー」(聞き手)/作品解説	南 雄介 (副館長)	「アメリカン・ポップ・アート展」
「分割主義—その理念と実践から」、章解説「I. 印象派の筆触」、作品解説	長屋 光枝 (主任研究員)	「印象派を超えて—点描の画家たち ゴッホ、スーラからモンドリアンまで」
「ジョルジュ・スーラと色彩の科学」/作品解説/主要文献目録	米田 尚輝 (研究員)	「印象派を超えて—点描の画家たち ゴッホ、スーラからモンドリアンまで」
「記憶の痕跡と武器アート：《いのちの輪だち》(2012年)をめぐって」	山田 由佳子 (研究員)	「イメージの力—国立民族学博物館コレクションにさぐる」
「芸術における非芸術—その文脈」	南 雄介 (副館長)	「イメージの力—国立民族学博物館コレクションにさぐる」
「イメージの力—美術館からの視点」	長屋 光枝 (主任研究員)	「イメージの力—国立民族学博物館コレクションにさぐる」
「可能性の形式—中村一美の絵画について」/章解説	南 雄介 (副館長)	「中村—美展」
略歴/文献目録	瀧上 華 (アソシエイトフェロー) 長谷川 珠緒 (研究補佐員)	「中村—美展」

③ 研究紀要の執筆

ア 東京国立近代美術館

(本館)

タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
「不在の類型学：日本における概念的な芸術の系譜 (1)」	鈴木 勝雄 (主任研究員)	『東京国立近代美術館研究紀要』第18号	26.3
共著「(資料紹介)メディア連携を企図する館史としての『東京国立近代美術館 60年史』—「美術館の歴史を一冊の参考図書とする」試み再々論 企画展出品作家総索引の編集・刊行・公開を中心に」	布施 環 (研究補佐員)	『東京国立近代美術館研究紀要』第18号	26.3
共著「アジアからの美術書誌情報の発信—東京国立近代美術館・国立西洋美術館 OPAC の artlibraries.net における公開の経緯とその意義」	水谷 長志 (主任研究員)	『東京国立近代美術館研究紀要』第18号	26.3
共著「(資料紹介)メディア連携を企図する館史としての『東京国立近代美術館 60年史』—「美術館の歴史を一冊の参考図書とする」試み再々論 企画展出品作家総索引の編集・刊行・公開を中心に」	水谷 長志 (主任研究員)	『東京国立近代美術館研究紀要』第18号	26.3
共著「(資料紹介)メディア連携を企図する館史としての『東京国立近代美術館 60年史』—「美術館の歴史を一冊の参考図書とする」試み再々論 企画展出品作家総索引の編集・刊行・公開を中心に」	渡邊 美喜 (研究補佐員)	『東京国立近代美術館研究紀要』第18号	26.3

(工芸館)

タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
松田権六「優品之調査」	北村 仁美 (主任研究員)	『東京国立近代美術館研究紀要』第17号	25.3.31
ミュージアム・オブ・アーツ・アンド・デザイン 1956-2008:工芸/CRAFTの行方	木田 拓也 (主任研究員)	『東京国立近代美術館研究紀要』第17号	25.3.31

(フィルムセンター)

タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
吉澤商店主・河浦謙一の足跡 (1) 吉澤商店の誕生	入江 良郎 (主任研究員)	『東京国立近代美術館研究紀要』第18号	26.3.31
荻野茂二寄贈フィルム目録	浅利 浩之 (客員研究員)	『東京国立近代美術館研究紀要』第18号	26.3.31

イ 京都国立近代美術館

タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
「日本画の近代」	尾崎 正明 (前館長)	京都国立近代美術館研究論集 CROSS SECTIONS —Vol.6	26.3.31
「近代日本工芸の流れ 1868-1945」	松原 龍一 (学芸課長)	京都国立近代美術館研究論集 CROSS SECTIONS —Vol.6	26.3.31

「討議と質疑応答」	小倉 実子 (主任研究員)	京都国立近代美術館研究論集 CROSS SECTIONS -Vol.6	26.3.31
「京都国立近代美術館で行われた二つの教員研修」	朴 鈴子 (研究補佐員)	京都国立近代美術館研究論集 CROSS SECTIONS -Vol.6	26.3.31

ウ 国立西洋美術館

タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
大屋美那・国立西洋美術館主任研究員 業績目録	川口 雅子 (主任研究員)	『国立西洋美術館研究紀要』 no. 18	26.3.31
Annibale Carracci's Hercules at the Crossroad and Marco Dente's print	渡辺 晋輔 (主任研究員)	『国立西洋美術館研究紀要』 no. 18	26.3.31
ラウル・デュフィのテキスタイル制作—その実践と絵画作品への影響—	矢野 ゆかり (研究補佐員)	『国立西洋美術館研究紀要』 no. 18	26.3.31
美術館の情報活動に関する一考察	川口 雅子 (主任研究員)	『国立西洋美術館研究紀要』 no. 18	26.3.31

④ 館ニュース等の執筆

ア 東京国立近代美術館

(本館)

タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
「ドイツの博物館教育レポート」	一條 彰子 (主任研究員)	『現代の眼』 601号	25.8
「米国の美術館教育レポート—学校教育へのアプローチ」	一條 彰子 (主任研究員)	『現代の眼』 602号	25.10
「「プレイバック・アーティスト・トーク」展を準備しながら考えたこと」	大谷 省吾 (主任研究員)	『現代の眼』 600号	25.6
「「プレイバック・アーティスト・トーク」展連続講演会報告」	大谷 省吾 (主任研究員)	『現代の眼』 602号	25.10
新しいコレクション ジョアン・ミロ《絵画詩(おお!あの人やっちゃったのね)》	蔵屋 美香 (美術課長)	『現代の眼』 600号	25.6
新しいコレクション 速水御舟《京の家・奈良の家》	鶴見 香織 (主任研究員)	『現代の眼』 602号	25.10
「抽象と待機 山田正亮《Work E-250》をめぐって」	中林 和雄 (企画課長)	『現代の眼』 603号	25.12
「新しいコレクション 奈良美智《Harmless Kitty》」	保坂 健二郎 (主任研究員)	『現代の眼』 604号	26.2
「新しいコレクション 中平卓馬《サーキュレーション—日付, 場所, 行為より》」	増田 玲 (主任研究員)	『現代の眼』 603号	25.12
美術館ニュースの今後—『現代の眼』六〇〇号発行を機に	松本 透 (副館長)	『現代の眼』 600号 (6-7月号)	25.6
作品研究 村岡三郎《熔断—1380°C×11000mm》	松本 透 (副館長)	『現代の眼』 602号 (10-11月号)	25.6

(工芸館)

タイトル	執筆者氏名（職名）	掲載誌名	発行年月日
石黒宗麿の〈黒釉葉文盃〉をめぐる	唐澤 昌宏 (工芸課長)	『現代の眼』599号	25.4.1
後記	唐澤 昌宏 (工芸課長)	『現代の眼』603号	25.12.1
新しいコレクション 桂盛仁《盒子 蟹》	諸山 正則 (主任研究員)	『現代の眼』600号	25.6.1
「ボディ×ボディ×ボディ(仮称)(展覧会予告)」	今井 陽子 (主任研究員)	『現代の眼』599号	25.4
[作品研究] 人形の原像と近代：夢二と柳女の作品から	今井 陽子 (主任研究員)	『現代の眼』600号	25.6
加守田章二《曲線彫文壺》	木田 拓也 (主任研究員)	『現代の眼』603号	25.12.1

(フィルムセンター)

タイトル	執筆者氏名（職名）	掲載誌名	発行年月日
永遠のフィルム／フィルムの永遠	岡島 尚志 (主幹)	NFC ニュースレター 第109号	25.6.1
『家族』『故郷』『同胞』—1970年代の映画 的挑戦	岡島 尚志 (主幹)	NFC ニュースレター 第112号	25.12.1
山田洋次監督インタビュー 山田映画と撮影所 の伝統	入江 良郎 (主任研究員)	NFC ニュースレター 第112号	25.12.1
映画よ、凍れ	岡田 秀則 (主任研究員)	NFC ニュースレター 第108号	25.4.1
「ポスターを作る人」になりたかった。	岡田 秀則 (主任研究員)	NFC ニュースレター 第110号	25.8.1
動く前に、止める—これからの小津安二郎論の ために	岡田 秀則 (主任研究員)	NFC ニュースレター 第112号	25.12.1
映画というのは自己完結するものではない (下) 崔洋一監督インタビュー	大澤 浄 (研究員)	NFC ニュースレター 第108号	25.4.1
清水宏の映画宇宙	大澤 浄 (研究員)	NFC ニュースレター 第109号	25.6.1
清水宏フィルムグラフィアー	大澤 浄 (研究員)	NFC ニュースレター 第109号	25.6.1
マルチバージョンとメタデータ標準規格	大澤 浄 (研究員)	NFC ニュースレター 第110号	25.8.1
「生誕110年 映画監督 清水宏」 宋桓昌氏（『ともだち』主演）インタビュー 清水監督は、私にとっては隣近所の気立てのい いおじさんのようでした。	大澤 浄 (研究員)	NFC ニュースレター 第111号	25.10.1
「Memory!第一回国際映画遺産フェスティバ ル」報告 映画遺産ゼロからの出発	大傍 正規 (研究員)	NFC ニュースレター 第110号	25.8.1

『くじら』『幽霊船』のデジタル復元—デジタル時代に向けた「ハイブリッド型」復元ワークフローの構築	大傍 正規 (研究員)	NFC ニュースレター 第 112 号	25.12.1
大森一樹監督インタビュー (上) 「8mm は世界を変えるかも？」と思ってましたね。	佐々木 淳 (客員研究員) 大澤 浄 (研究員)	NFC ニュースレター 第 113 号	26.2.1
ナショナル・フィルモグラフィ—へ向けて—日本映画作品目録の紹介と比較—	濱口 幸一 (客員研究員)	NFC ニュースレター 第 111 号	25.10.1
小津安二郎, 絵画とデザイン, その拡がりへ向けて (上)	佐崎 順昭 (客員研究員)	NFC ニュースレター 第 112 号	25.12.1
小津安二郎, 絵画とデザイン, その拡がりへ向けて (下)	佐崎 順昭 (客員研究員)	NFC ニュースレター 第 113 号	26.2.1

イ 国立西洋美術館

タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
報告: 2012 年度収蔵作品について	大屋 美那 (主任研究員)	ZEPHYROS 第 55 号	25.5.20
所蔵作品: カルロ・クリヴェッリ《聖アウグスティヌス》	高梨 光正 (主任研究員)	ZEPHYROS 第 55 号	25.5.20
活動紹介: 所蔵作品データベースが目指すもの	川口 雅子 (主任研究員)	ZEPHYROS 第 55 号	25.5.20
企画展「システィーナ礼拝堂 500 年祭記念 ミケランジェロ展—天才の軌跡」	川瀬 佑介 (研究員)	ZEPHYROS 第 56 号	25.8.20
特別展「ル・コルビュジエと 20 世紀美術」	村上 博哉 (学芸課長)	ZEPHYROS 第 56 号	25.8.20
企画展「国立西洋美術館×ポーラ美術館 モネ、風景をみる眼—19 世紀フランス風景画の革新」	陳岡 めぐみ (主任研究員)	ZEPHYROS 第 57 号	25.11.20
小企画展「生誕 150 周年記念 国立西洋美術館所蔵 エドヴァルド・ムンク版画展」	村上 博哉 (副館長)	ZEPHYROS 第 57 号	25.11.20
小企画展「ソフィア王妃芸術センター所蔵 内と外—スペイン・アンフォルメル絵画の二つの『顔』」	川瀬 佑介 (研究員)	ZEPHYROS 第 57 号	25.11.20
「ジャック・カロリアリズムと奇想の劇場」	中田 明日佳 (研究員)	ZEPHYROS 第 58 号	26.2.20
「非日常からの呼び声 平野啓一郎が選ぶ西洋美術の名品」	渡辺 晋輔 (主任研究員)	ZEPHYROS 第 58 号	26.2.20

ウ 国立国際美術館

タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
「美の響演 関西コレクションズ」開催にあたって	安來 正博 (主任研究員)	国立国際美術館ニュース第 195 号	25.4.1
館蔵品紹介	橋本 梓 (研究員)	国立国際美術館ニュース第 195 号	25.4.1
工藤哲巳入門 (11) 「放射能による養殖」, そして八年ぶりの帰国	島 敦彦 (副館長)	国立国際美術館ニュース第 195 号	25.4.1

館蔵品紹介	山梨 俊夫 (館長)	国立国際美術館ニュース第 196 号	25.6.1
工藤哲巳入門 (12) 《脱皮の記念碑》と最後の ハプニング	島 敦彦 (副館長)	国立国際美術館ニュース第 196 号	25.6.1
アンドレアス・グルスキーの理想郷	竹内 万里子 (客員研究員)	国立国際美術館ニュース第 197 号	25.8.1
館蔵品紹介	中西 博之 (主任研究員)	国立国際美術館ニュース第 197 号	25.8.1
工藤哲巳入門 (13) イヨネスコの肖像	島 敦彦 (副館長)	国立国際美術館ニュース第 197 号	25.8.1
なぜ今、工藤哲巳なのか？	島 敦彦 (副館長)	国立国際美術館ニュース第 198 号	25.10.1
館蔵品紹介	中井 康之 (主任研究員)	国立国際美術館ニュース第 199 号	25.12.1
エロディ・ロワイエ&ヨアン・グルメル『The Play/ザ・プレイ』 (一)	橋本 梓 (研究員)	国立国際美術館ニュース第 199 号	25.12.1
「アンドレアス・グルスキー展」に寄せて	植松 由佳 (主任研究員)	国立国際美術館ニュース第 200 号	26.2.1
在外調査報告 (一) 調査して思索	中西 博之 (主任研究員)	国立国際美術館ニュース第 200 号	26.2.1
郭徳俊の絵画について「郭徳俊 ニコッとシェ ー 1960 年代絵画を中心に」に寄せて	安来 正博 (主任研究員)	国立国際美術館ニュース第 200 号	26.2.1
エロディ・ロワイエ&ヨアン・グルメル『The Play/ザ・プレイ』 (二)	エロディ・ロワイエ& ヨアン・グルメル [翻訳:橋本 梓(研究 員)]	国立国際美術館ニュース第 200 号	26.2.1

エ 国立新美術館

タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
「カリフォルニアの椅子」	長谷川 珠緒 (研究補佐員)	『国立新美術館ニュース』No.26	25.5
山岸信郎氏旧蔵資料の公開について	長名 大地 (研究補佐員)	『国立新美術館ニュース』No.26	25.5
「アーティスト・ワークショップ 高校生が写 し出す、とむらいの時」	井上 絵美子 (研究補佐員)	『国立新美術館ニュース』No.26	25.5
「アーティスト・ワークショップ 木々に灯す、 ちいさな巣をつくろう～アートナイトでインス タレーションに挑戦」	吉澤 菜摘 (アソシエイトフェロー)	『国立新美術館ニュース』No.26	25.5
「アンドレアス・グルスキー展、その展示の多層性 について」	山田 由佳子 (研究員)	『国立新美術館ニュース』No.27	25.8
「研究員レポート オーストラリア出張報告」	本橋 弥生 (主任研究員)	『国立新美術館ニュース』No.27	25.8
「現代美術の博物館とコレクション国際委員会 (CIMAM)に参加して」	米田 尚輝 (研究員)	『国立新美術館ニュース』No.27	25.8
「アーティスト・ワークショップ 『写真』以 前/暗黒を作り出そう」	井上 絵美子 (研究補佐員)	『国立新美術館ニュース』No.27	25.8

「『アメリカン・ポップ・アート』展鑑賞ガイドを展示室で配布しています」	木内 祐子 (研究補佐員)	『国立新美術館ニュース』No.27	25.8
点描の画家たちの「影」	岩崎 美千子 (研究補佐員)	『国立新美術館ニュース』No.28	25.11
「「アート・アーチ・ひろしま 2013」を訪れて」	宮島 綾子 (主任研究員)	『国立新美術館ニュース』No.28	25.11
「黒川紀章メモリアル INTER-DESIGN FORUM TOKYO 2013『共生のアジアへ』」	西野 華子 (主任研究員)	『国立新美術館ニュース』No.28	25.11
「東スロバキアの古都コシツェの暗闇に現れるアートの祭典, ビエラ・ノッツでの出会い」	山田 由佳子 (研究員)	『国立新美術館ニュース』No.28	25.11
1970年代・展覧会と美術資料—展覧会カタログ・雑誌・写真	伊村 靖子 (研究補佐員)	『国立新美術館ニュース』No.28	25.11
「アーティスト・ワークショップ あなたのユーマアをイラストにしよう！」	木内 祐子 (研究補佐員)	『国立新美術館ニュース』No.28	25.11
「黒川紀章メモリアル INTER-DESIGN FORUM TOKYO 2013 関連イベント 黒川紀章メモリアルコンサート」	吉澤 菜摘 (アソシエイトフェロー)	『国立新美術館ニュース』No.28	25.11
「印象派を超えて—点描の画家たち ゴッホ, スーラからモンドリアンまで」ジュニアガイド	長屋 光枝 (主任研究員)	「印象派を超えて—点描の画家たち ゴッホ, スーラからモンドリアンまで」ジュニアガイド	25.10
『国立新美術館ガイドブック アートのとびら Vol.8』	吉澤 菜摘 (アソシエイトフェロー)	『国立新美術館ガイドブック アートのとびら Vol.8』	26.2

(6) 快適な観覧環境の提供

① 高齢者, 身体障害者, 外国人等への対応

平成 25 年度の新規実施事項

- ・アンケートで要望が多かった洋式トイレの増設（京都国立近代美術館）。
- ・授乳室の新設（京都国立近代美術館）。
- ・館内サインの一新（京都国立近代美術館）
- ・最寄駅方面への分かりやすい案内表示板を 2 枚設置（国立新美術館）

各館共通の継続実施事項

- ・多目的（身体障害者用）トイレ, エレベータ（エスカレーター）, スロープ（手摺り）の設置
- ・車椅子, ベビーカー（国立西洋美術館は除く）の貸出
- ・身体障害者用駐車スペース（国立国際美術館は除く）の提供
- ・自動体外式除細動器（AED）の設置
- ・盲導犬, 介助犬の同伴による観覧
- ・多言語による館案内表示
- ・多言語による館内リーフレット, ミュージウムカレンダー等の配布
- ・所蔵作品展（常設展）, 企画展（一部を除く）において作品リスト（日・英）の配布
- ・観覧者の休憩のための椅子を展示室に配置
- ・オストメイト（人工肛門, 人工膀胱保有者）用の設備を設置
- ・キャプションに英語表記を併記
- ・英語版ホームページの公開

各館ごとの継続実施事項

- ・東京都が実施する「ウェルカムカード」に参加し、外国人来館者の所蔵作品展観覧料を割引（東京国立近代美術館，国立西洋美術館）
- ・所蔵作品展「MOMATコレクション」英語版音声ガイドを導入（東京国立近代美術館本館）
- ・インフォメーションカウンターに筆談ボードを設置（京都国立近代美術館，国立西洋美術館，国立新美術館）
- ・貸出用拡大鏡16個を設置するとともに，授乳室及び安全仕様のキッズルームを地下1階に設置し，幼児向け絵本400冊を常設（国立国際美術館）
- ・授乳室（地下1階）の設置，点字ブロック（正門から正面入口，地下鉄口から西入口（インターホンを設置））及び点字表示（エレベータ内他）の設置，補聴器等への磁気誘導無線システムの講堂内への設置（専用受信機10台），ロビー等の館内ディスプレイでの展覧会や講演会等の情報表示，託児サービスの実施並びに文字を大きくし，見易くしたフロアガイド「大きな文字の利用案内」の館内配布（国立新美術館）

② 展示，解説の工夫と音声ガイドの導入

平成 25 年度の新規実施事項

- ・展示ケースの一部リニューアル（東京国立近代美術館工芸館）
- ・展示ケース内の照明を蛍光灯から LED に更新（東京国立近代美術館工芸館）
- ・ミュージアムカレンダーのリニューアル（京都国立近代美術館）

各館共通の継続実施事項

- ・共催展における音声ガイドの導入
- ・館内リーフレット，フロアプラン，ミュージアムカレンダー等の配布

各館ごとの継続実施事項

- ・館内サインの拡大・多言語化，所蔵作品展で「重要文化財」のキャプション表示やホームページに重要文化財作品の解説ページを引き続き設けるとともに，所蔵作品展のための英語版音声ガイドの貸出を行った（東京国立近代美術館本館）。
- ・キャプションサイズの拡大化，作品名のふりがな及び素材・技法の記載を行った（東京国立近代美術館工芸館）。
- ・常設展「NFC コレクションでみる 日本映画の歴史」において，児童・生徒向けの「ジュニア・セルフガイド」を配布した（東京国立近代美術館フィルムセンター）。
- ・企画展において，児童・生徒向けの「ジュニア・パスポート」を配布したほか，本館の建築探検マップ（日・英・仏・韓・中国語版）や館広報（館ニュース Zephyros の最新号及びバックナンバー）の配布及びホームページ掲載を行うとともに，常設展ガイドとして利用できる iPhone/iPod Touch・Android 携帯端末専用アプリ「Touch the Museum」の無料配信を行った。また，企画展の解説パネルを，見やすいように拡大文字の冊子に加工し，展示室内に配置したほか，版画展開催の際には，版画の技法を説明した小冊子を展示室内に配置した（国立西洋美術館）。
- ・作品紹介キャプションをより見やすくするよう努めた（国立国際美術館）。
- ・「イメージの力」展鑑賞ガイド『アートのとびら 国立新美術館ガイドブック vol.8』（日英併記），「貴婦人と一角獣」展ジュニアガイド，「アメリカン・ポップ・アート展」鑑賞ガイド，「印象派を超えて 点描の画家たち」ジュニアガイドの配布を行った（国立新美術館）。

③ 入場料金、開館時間等の弾力化

国際博物館の日（5月18日、東京国立近代美術館フィルムセンターの上映会を除く。）及び文化の日（11月3日、国立新美術館を除く）の所蔵作品展（常設展）の観覧料を無料にするるとともに、夜間開館の実施、年始やゴールデンウィーク等休館日の臨時開館を実施した。また、所蔵作品展及び自主企画展の高校生以下及び18歳未満の者の観覧料の無料化についての周知に努めた。

その他、平成25年度の各館の取組は以下のとおりである。

（ア）東京国立近代美術館

- ・東京メトロ、都営地下鉄ワンデーパスによる観覧料割引を実施（本館・工芸館）
- ・「東京マラソン2014」イベントガイド持参者についての、所蔵作品展の観覧料（個人一般）割引を実施（本館・工芸館）
- ・JAF会員券提示による観覧料（個人一般）割引を実施（本館・工芸館）
- ・年始は1月2日から開館（本館所蔵作品展は無料）し、図録やオリジナルグッズをプレゼント（本館・工芸館）
- ・共催展においてペア観覧券等による観覧料割引を実施（本館）
- ・桜花期における休館日について、臨時開館を実施（本館・工芸館：4月1日、4月7日、3月24日、3月31日）

（イ）京都国立近代美術館

- ・開館50周年を記念し、4月27日を開館記念日とし、無料観覧を実施
- ・企画展を開催しない土曜日について、所蔵作品展の無料観覧を実施
- ・「京都岡崎レッドカーペット2013」への協力の一環として特別夜間開館を実施（9月7日）
- ・「岡崎ときあかり～あかりとアートのプロムナード2013」への協力の一環として特別夜間開館を実施（10月26日）
- ・「関西文化の日」にちなみ、所蔵作品展の無料観覧を実施（11月16日、17日）
- ・京都国立博物館、京都市美術館、京都文化博物館と組織する「京都ミュージアムズ・フォー」において、各館の友の会と相互割引を実施
- ・近隣の京都市美術館、細見美術館と連携し、相互割引を実施

（ウ）国立西洋美術館

- ・クレジットカード及び電子マネー（Suica及びPASMO）による観覧券の窓口販売
- ・年間を通じて開館時間を30分延長し、午後5時30分まで開館
- ・「夏休み子供音楽会2013《上野の森文化探検》」（主催：東京文化会館（公益財団法人東京都歴史文化財団）ほか）に参加し、音楽会参加者について常設展の観覧料金無料化を実施（7月28日）
- ・教育普及プログラム「ファン・デー」の開催に伴い、常設展及び「ル・コルビュジエと20世紀美術」展の無料観覧を実施（8月10日、11日）
- ・「ラファエロ」展において、政府による美術品補償制度適用の還元策として高校生観覧料無料化を実施（4月1日～7日。平成24年度を含めると3月22日～4月7日）。
- ・「ラファエロ」展において、団体観覧による混雑を解消するため、開館日を1日追加し、団体特別鑑賞会を実施（4月15日）
- ・「ラファエロ」展について、会期末の混雑緩和のため、開館時間を午後8時まで延長（5月25日、28日～30日、6月1日）

- ・上野公園での明かりと稔りのフェスティバル「創エネ・あかりパーク 2013」に参加し、開館時間を午後 8 時まで延長（11 月 2 日，3 日）
- ・「国立西洋美術館×ポーラ美術館 モネ，風景を見る眼－19 世紀フランス風景画の革新」展において，団体観覧による混雑を解消するため，開館日を 1 日追加し，団体特別鑑賞会を実施（1 月 20 日）
- ・「国立西洋美術館×ポーラ美術館 モネ，風景を見る眼－19 世紀フランス風景画の革新」展について，会期末の混雑緩和のため，開館時間を午後 8 時まで延長（3 月 8 日，9 日）
- ・桜花期における休館日について，試行的に臨時開館を実施（3 月 31 日）

（エ）国立国際美術館

- ・毎月第一土曜日に，所蔵作品展の無料観覧を実施
- ・開館期間中の金曜日に，午後 7 時まで延長開館を実施
- ・文化の日に企画展を含む全館無料化を実施（11 月 3 日）
- ・関西文化の日に，所蔵作品展の無料観覧を実施（11 月 16 日，17 日）

（オ）国立新美術館

- ・クレジットカード及び電子マネー（Suica 及び PASMO）による観覧券の窓口販売
- ・「平成 25 年度（第 17 回）文化庁メディア芸術祭」の無料観覧
- ・六本木アート・トライアングル参加館との観覧料の相互割引及び共通マップの作成・配布
- ・公募団体展と企画展の観覧料の相互割引
- ・東京メトロ，都営地下鉄ワンデーパスによる観覧料割引
- ・共催展においてペア観覧券等による観覧料割引
- ・共催展において，高校生無料観覧日の設定を推進
- ・国際博物館の日（5 月 18 日）に「カリフォルニア・デザイン 1930-1965 ーモダン・リビングの起源ー」展の無料観覧を実施
- ・「印象派を超えてー点描の画家たちーゴッホ，スーラからモンドリアンまで」において，政府による美術品補償制度の還元策として，高校生の無料観覧を実施（10 月 5 日～11 月 24 日の土・日・祝日 [18 日間]）
- ・休館日に臨時開館を実施（4 月 30 日）
- ・「イメージの力ー国立民族学博物館コレクションにさぐる」及び「中村一美展」において，公募団体展と企画展の観覧料の相互割引に関し，65 歳以上の観覧料に大学生団体料金を試行的に適用し，高齢者の観覧料を低廉化
- ・隣接する政策研究大学院大学との連携を深めるため，同大学の学生の自主企画展の入場無料化を実施

④ キャンパスメンバーズ制度の実施

国立美術館全体の事業として平成 18 年 12 月から実施している，大学，短期大学，高等専門学校及び専修学校等を対象とした会員制度「国立美術館キャンパスメンバーズ」については，引き続き特設サイト（パソコン版，モバイル版）において各館の展覧会情報を提供するとともに，サイトを周知するためのポスター及びチラシを加入校に配布するなど利用促進に努めた。平成 25 年度の実績としては，メンバー校は 77 校，各館利用者数は 89,192 名となっている。

東京国立近代美術館フィルムセンターでは、国立美術館キャンパスメンバーズの加盟校（東京国立近代美術館利用校）が、フィルムセンターの所蔵映画フィルムと施設を利用して講義等を行うことができる「東京国立近代美術館フィルムセンター・大学等連携事業」及び大学等の学生がフィルムセンターで映画の上映会または展覧会を観覧したことを証明する「鑑賞証明カード」の配付がそれぞれ2年目を迎え、大学等連携事業については8回（5校）の講義が実施された。

⑤ ミュージアムショップ、レストラン等の充実

ミュージアムショップについては、所蔵作品の図版を使用したポストカードや図柄を活用したオリジナルグッズの開発に努め、ホームページにおいて展覧会図録やグッズの情報を紹介するなど広報宣伝を行った。また、レストランについては、企画展にちなんだ特別メニュー等を提供した。

その他、平成25年度の各館の取組は以下のとおりである。

（ア）東京国立近代美術館

<ミュージアムショップ>

- ・平成24年度に完売した「国立美術館アートカード」について、好評につき再販売を行った。
- ・平成24年度の60周年を機にシンボルマークを活用したグッズの開発を行った。
- ・ミュージアムショップのないフィルムセンターでは、上映会・展覧会の企画内容にあわせた書籍等の委託販売を行い、来館者サービスに努めた。

<レストラン>

- ・「竹内栖鳳展」及び「工藤哲己展」にちなんだ特別メニューを提供した。
- ・来館者が利用しやすいよう、より安価なメニューの提供に努めた。

（イ）京都国立近代美術館

<ミュージアムショップ>

- ・開館50周年記念展に合わせ、「上野リチ」オリジナルグッズを企画・作成し、オリジナルグッズの主力商品に据えた。
- ・展覧会ごとに内容に関連した書籍を充実させ、アートグッズも絶えず新商品を取り入れた。

<レストラン>

- ・春夏と秋冬でメニューを入れ替え、京都の旬の食材を使った手作りのメニューを提供するとともに、企画展に合わせたテーマランチやテーマデザートを提供を行った。
- ・ホームページを刷新し、情報を充実させた。

（ウ）国立西洋美術館

<ミュージアムショップ>

- ・販売品の充実のため、例年に引き続きオリジナルグッズの開発を行った。

<レストラン>

- ・各企画展に関連したメニューを開発し、提供した。

（エ）国立国際美術館

<ミュージアムショップ>

- ・所蔵作品の絵葉書，レターセットや，美術館のロゴ入りマグカップ，Tシャツ，キーホルダー等，オリジナルグッズの充実のほか，企画展に合わせて，出展作家に関連した書籍，DVD等の販売を行い，来館者のニーズに合わせた運営を行った。

(オ) 国立新美術館

<ミュージアムショップ>

- ・1階エントランスに可動式ミュージアムショップを新規にオープンした（平成26年2月）。それに伴って，包材を一新し，オリジナルグッズを製作し，種類を増やした。

<レストラン>

- ・展覧会にゆかりのある特別メニューを企画した。

2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承

(1) 美術作品の収集

館名		購入点数	購入金額	寄贈点数	年度末所蔵作品数	年度末寄託品数
東京国立近代美術館	本館	88	836,341,750	49	12,481	213
	工芸館	19	69,476,875	9	3,316	112
京都国立近代美術館		23	801,614,000	70	11,494	841
国立西洋美術館		8	114,825,276	0	5,529	122
国立国際美術館		70	1,217,970,049	37	7,123	134
計		208	3,040,227,950	165	39,943	1,422

館名		購入本数	購入金額	寄贈本数	年度末所蔵本数	年度末寄託品本数
東京国立近代美術館（フィルムセンター）		297	322,979,052	4,706	72,290	8,018

ア 平成25年度の収集方針

館名		平成25年度の収集方針
東京国立近代美術館	本館	<ul style="list-style-type: none"> ・1970年代以降の日本と海外の作品の収集 ・日本の美術に多大な影響を与えた海外作家の作品の収集 ・1900-1940年代の日本画作品の収集
	工芸館	<ul style="list-style-type: none"> ・日本工芸の近代化を示す作品の補充 ・戦後から現代にいたる伝統工芸や造形的な表現，クラフト等の重要作品の収集 ・近・現代の欧米の工芸及びデザイン作品の収集
京都国立近代美術館		<ul style="list-style-type: none"> ・美術・工芸作品について，近・現代日本美術史の骨格を形成する代表作及び作家の各時期において重要な位置を占める記念的作品，我が国の美術史に組み込まれていくことになる現代美術の秀作の積極的収集 ・優れた写真作品の収集 ・前衛的傾向を示す海外の美術作品の収集 ・京都を中心とする関西ないし西日本に重点を置き，地域性に立脚した所蔵作品の充実

国立西洋美術館	<ul style="list-style-type: none"> ・15～20世紀ヨーロッパ絵画の収集 ・ヨーロッパ版画の系統的収集 ・国内に残る旧松方コレクション作品の情報収集の継続
国立国際美術館	<ul style="list-style-type: none"> ・1945年以降の日本の現代美術作品の系統的収集の継続 ・国際的に注目される国内外の同時代の美術作品の収集の継続

館名	平成25年度の収集方針
東京国立近代美術館（フィルムセンター）	映画を芸術作品のみならず、文化遺産として、あるいは歴史資料として、網羅的に収集することを目標に、日本映画の収集を優先しながら、時代を問わず散逸や劣化、滅失の危険性が高い映画フィルムを収集するとともに、アニメーション映画作品、デジタル復元による成果物、上映事業や国際交流事業に必要な上映用素材、これまで受入れのなかった会社等からの寄贈映画フィルムの収集を行う

イ 平成25年度の特記事項

(ア) 東京国立近代美術館

(本館)

<購入>

1970年代以降の日本の作品として奈良美智《Harmless Kitty》を、日本の美術に多大な影響を与えた海外作家の作品として特別購入予算によりアレクサンダー・カルダー《モンスター》を、1900-1940年代の日本画作品として吉川霊華《離騷》を購入した。他に特別購入予算により山下菊二の代表作《あけぼの村物語》を購入した。また、東日本大震災に関する若手作家の作品のリサーチを行い、Chim↑Pom《気合い100連発》他を購入した。

<受贈>

継続して収集してきた旧「盛田良子コレクション」より、バーバラ・ヘップワース、ピエール・スーラージュ、堂本尚郎の3作品を受贈した。また、速水御舟《丘の並木》、川端龍子《新樹の曲》、山下菊二の各時期の代表作計5点などを受贈した。

(工芸館)

<購入>

特別購入予算により重要な陶磁作品である岡部嶺男《青織部縄文鼎》を購入した。また、平成24年度収蔵分（購入・受贈）の関連で、近代工芸の主要な作家と位置付けている石黒宗麿の寄託中の作品5点を購入した。さらに、近代の漆芸を代表する赤塚自得と二十代堆朱楊成、金工の北原千鹿の重要な作品を購入した。

<受贈>

近代漆芸で活躍した辻村松華の明治期の経箱と吉田源十郎の1926年日本美術協会展覧会出品の硯箱という貴重な作品を受贈した。

(フィルムセンター)

<購入>

上映企画に合わせ、『奈良には古き仏たち』（1953年）など清水宏監督作品13作品・34本（これに加え、複製化により7作品・8本を収集）、『二階の他人』（1961年）など山田洋次監督作品では26作品の上映用ポジ・フィルムを収集した。また、平成26年度以降の上

映企画を念頭に、東宝、KADOKAWA、国際放映各社より、初期カラー映画作品のフィルム購入を進めた。加えて、松竹株式会社との共同事業による小津安二郎監督カラー作品4作品のデジタル復元に伴い、各作品について三色分解白黒ネガ・フィルム、上映用ポジ・フィルム及び保存用デジタル素材等を収集した。

<受贈>

株式会社中国放送（新規の受入先）から、1960年代より80年代初頭にかけて製作されたテレビ番組の映画フィルムを中心に3,001本を受贈した。戦後の教育映画配給を牽引した株式会社教配からは、持永只仁監督による人形アニメーションの原版類など698本の映画フィルムを受贈した。また、龍村仁監督の長編ドキュメンタリー・シリーズ「地球交響曲」第一部～第六部（1992～2006年）の原版類について、龍村仁事務所、株式会社オンザロードから寄贈を受けた。個人製作による作品の寄贈受入については、日本における女性映像作家のパイオニア、出光真子が1972年より製作した全フィルム作品について、原版を中心に50本の映画フィルムを、作家より受贈した。

映画関連資料については、日活株式会社からスチル写真のガラス乾板など9,188点を受贈したほか、コレクターの井上英治氏から映画ポスター3,833点を受贈した。また、株式会社IMAGICAから同社開発の70mmマルチオブチカルプリンターなど大型技術資料7点の寄贈手続きがなされた。

(イ) 京都国立近代美術館

<購入>

マックス・エルンストの《人間の形をしたフィギュア》、フランシス・ピカビア《アストロラブ》など、長年に渡って収集してきたシュールレアリスムやダダイズムの作品を購入した。この収集により、まとまった形でのシュールレアリスム、ダダイズムの展示ができるようになった。また、陶芸でも、昨年に引き続き加守田章二の作品をまとめて購入したが、これにより現代陶芸の研究や展示にも大きな財産となった。また、近代京都画壇の重鎮であった竹内栖鳳の代表作の一つである《おぼろ月》を購入できたことは、コレクションの柱である近代京都画壇の充実に大きな成果であった。

<寄贈>

東の高橋由一と並んで、明治時代、西の近代洋画の草分け的存在である田村宗立の作品はこれまで継続的に収集してきたが、平成25年度は、田村家に保管されていた田村の任命書や受賞の賞状、さらには田村の収集していた当時の様々な資料を受贈した。この貴重な寄贈資料により、田村の画業や作品、明治時代の関西洋画壇の深い研究が可能となり、大きな成果であった。

(ウ) 国立西洋美術館

<購入>

日本に残る旧松方コレクション作品のなかで最も重要な作品のひとつである、フランス・ロマン主義を代表する画家ウジェーヌ・ドラクロワの絵画《馬を連れたシリアのアラブ人》を購入した。版画に関しては、イタリア16世紀の重要な版画家ジョルジョ・ギーゲの代表作《人生の寓意》、17世紀オランダの大画家レンブラントの肖像版画の代表作《ヤン・シックスの肖像》など7点を購入した。

(エ) 国立国際美術館

<購入>

戦前・戦後を通じ彫刻と絵画の両方においてパリで活躍した作家、アルベルト・ジャコメッティの絵画《男》をはじめ、ポール・マッカーシーや柴田敏雄の写真作品、ジャオ・チアエンの映像作品等を購入した。

<寄贈>

タイガー立石氏の版画作品を多数受贈し、既に所蔵している同氏の作品とあわせてまとまったコレクションが形成された。また、チョン・ソジョン氏の映像作品、柴田敏雄氏の写真作品等も受贈し、写真や映像分野におけるコレクションのより一層の充実を図った。

(2) 収蔵庫等保存施設の狭隘・老朽化への対応と適切な保存環境の整備等

① 収蔵庫等の狭隘・老朽化への対応

ア 東京国立近代美術館

本館では、現在、新・旧二つの収蔵庫はともに収蔵率約125%となっている。従来は、館外の倉庫3ヶ所に作品の一部を預けること、年間約200点の作品貸与と年間約800点の所蔵作品展展示により作品が庫外に出ていることで最低限のやりくりが成り立っていたが、これをもってしてもすでに収納は限界に達している（特に絵画スクリーン）。平成25年度は、作品同士の間隔が充分に取れないことから生ずる風通しの悪化と虫害の発生を防ぐため、こまめな清掃を実施した。今後も引き続き収納の効率化、虫害防止等の対策を行うが、将来的には外部に収蔵庫を設け、民間倉庫借り上げの費用的、業務的負担を軽減することが望ましい。

工芸館では、収蔵庫4室の狭隘化が急激に進行している状態であり、作品の一時保管及び図録の保管庫として活用している荷解き室も一杯の状態である。収蔵庫床面の大方はすでに埋まっているが、棚間の通路にも作品を2段重ねにするほどの困難な状態となりつつある。安全な保管を確保するために、外部倉庫の活用を検討する段階に達してきたように思われる。

フィルムセンターでは、平成25年度末、相模原分館の敷地内に可燃性映画フィルムの保管を専用とする映画保存棟Ⅲ（重要文化財映画フィルム保存庫）を竣工することができた。平成25年度はこれに加え、以下のような対応を行った。

- ・京橋に設置していたKEM35mm検査台に、画像取り込み装置を付設し、相模原分館に移設することによって、相模原分館でのより効率的な検査作業に資することが可能になった。
- ・中古の映画フィルム用ドライクリーナーを取得することにより、主に上映に使用されることが多い映画フィルムにおける軽微な汚れへの処置を行うことが可能になった。

映画関連資料については、現在ノンフィルム資料のうち紙素材の資料は4階図書室と地下3階収蔵庫に保管しているが、収蔵能力が限界に達しつつあるため、複本となった雑誌やプレスなどは相模原分館の新収蔵庫への部分的移転を始めている。また、映画人・映画会社の旧蔵品である未整理の新規寄贈資料も、同様に相模原分館への搬入を行っている。

今後は、映画保存棟Ⅲの運用を念頭に、民間倉庫で保管している可燃性映画フィルムの網羅的な状態確認を進めた上で、映画保存棟Ⅲへの移動を優先すべきフィルムの選別を行う。

イ 京都国立近代美術館

収蔵庫は収蔵率約200%となっている。収納できない作品については、民間業者の倉庫を借り、一時的に保管している。収蔵庫を新たに設立するための工事を調整中である。

ウ 国立西洋美術館

不具合により使用ができなくなっていた新館第一、第二収蔵庫の絵画ラックについて、調査と修繕を実施した。また、新館第一収蔵庫の中に、平成 24 年度に収集した宝飾品コレクション 805 点を収蔵するためのキャビネットを設置した。引き続き、収蔵庫内の日常的な整理整頓と、適正な温湿度管理、地震対策の徹底を実施していくことが必要である。収蔵庫内の適切な保存環境の維持のために、新館・企画館の収蔵庫について、耐用年数を考慮した空調機の更新の検討が望まれる。

エ 国立国際美術館

既に収納率が実質 100%以上となっているが、積み重ねることができる作品をまとめて収納する、ラックの隙間を可能な限り小さくする等、適切な保存環境を維持するよう努めた。引き続き、新たな収納ケースの整備、作品梱包の工夫、汚損した額縁の廃棄等を行い、適切な保存環境の整備について検討する。

② 保存環境の整備等と防災対策の推進・充実

ア 東京国立近代美術館

(本館)

火災発生を想定した通報訓練を実施した(4月26日)。また、火災発生及び延焼による避難誘導訓練を実施、ミュージアムショップ及びライブラリのスタッフも参加し、誘導方法についてレクチャーしながらの訓練を実施した。訓練後、屋外階段を利用したの車椅子搬送講習・実技及びAED訓練を実施した(7月25日)。

(工芸館)

茨城県沖にて地震発生、千代田区において震度6強を想定した避難誘導訓練を実施した(3月28日)。

(フィルムセンター)

地下3階収蔵庫での作業者のため、収蔵庫での作業を前提とした火災訓練を実施した(6月11日)

イ 京都国立近代美術館

消防署指導のもとで避難誘導訓練・消火訓練を実施した(3月24日)。

ウ 国立西洋美術館

常設展示室内での地震による衝撃の被害を軽減するために、すべての作品に衝撃吸収ゴムの取り付けと額装の改善を実施した。

エ 国立国際美術館

火災発生を想定した防災訓練、及び新しく着任した職員(監視を含む)を主な対象として避難経路の確認を実施した。また、災害対策を維持するための定期点検を実施した。

(3) 所蔵作品の修理・修復

① 東京国立近代美術館

絵画 15 件、工芸 8 件、資料・その他 3 件、映画フィルムデジタル復元 36 本、ノイズリダクション等 52 本、不燃化作業 57 本

(本館)

昨年に引き続き、平成 24 年に受贈した平福百穂《丹鶴青瀾》(六曲一双屏風)の大規模解体修理を実施し、終了した。特に水濡れによる顔料の流れの処置に取り組んだ。また、手薄だった紙資料の修復として、岸田劉生資料のうち日記類の補修を行った。

(工芸館)

平成 20 年度に収蔵した漆工 1 点、平成 23 年度に収蔵した人形 2 点の寄贈収蔵作品の修復を行い、展示の活用を図った。特に 23 年度に収蔵した野口光彦の人形作品は重度の修復を要し、平成 24 年度からの継続で完了した。また、染織作品で使用頻度の高い芹澤銈介の壁掛け・のれん 6 点につき実施し、丸洗いの後にカビやヤケによる変色等を修復した。目白漆芸研究所の文化財保存修復の専門家らと連携し、漆工作品とあわせて胡粉のヒビ等の困難さが想定される御所人形の修復を試みた。所蔵する御所人形については、他にも修復を要する作品があるため、今後の対策を検討したい。

(フィルムセンター)

- ・松竹株式会社との共同事業により、『彼岸花』(1958 年)を初めとする小津安二郎監督カラー作品 4 作品について、デジタル技術による画及び音の修復を行った。
- ・平成 14 年度から 15 年度にかけてデジタル復元を行った『斬人斬馬剣』(1929 年)について、現存メディアからの修復データの読み出しとともに、現時点におけるより適切なデータファイル及び保存メディアへの書き換えを行った。
- ・戦前ドイツ映画の所蔵 35 mm 可燃性フィルムの不燃化作業において、フィルムのジェネレーションと状態に即した適切な中間素材の作成を行った。
- ・記録映画作家中村麟子の旧蔵資料をはじめ、劣化・損傷の恐れがあるシナリオ等冊子に対して中性紙の保存ケースを制作して長期保存を図った。
- ・公開・貸出頻度の高いと思われる日本映画ポスターを中心に、和紙を用いた簡易修復を行った。
- ・小津安二郎監督カラー作品のデジタル復元に際しては、修復監修として複数の撮影監督や関係者の協力を仰ぐとともに、画の修復及び修復データからのネガ作成にあたった IMAGICA、音の修復にあたった松竹映像センター、光学合成によるプリント作成にあたった IMAGICA ウェストとの連携を行った。
- ・修復データの読み出し及び変換については、IMAGICA と連携するとともに、東京現像所等の技術者からの情報も参考にした。
- ・戦前ドイツ映画の不燃化作業については、IMAGICA ウェストと連携するとともに、現像技師 OB の協力を仰いだ。

② 京都国立近代美術館

絵画 3 件

引き続き企画競争を導入して絵画作品の修復を行った。保存・修復の担当者がいないことから、企画競争の導入は研究員がその状態・修理方法を学ぶ絶好の機会である。実際の修理に際しては、決定された外部の業者と常に修理の状況を確認しつつ、意見交換を行った。

③ 国立西洋美術館

絵画 26 件、彫刻 1 件

ポーラ美術館との共催による所蔵品を用いた「国立西洋美術館×ポーラ美術館 モネ、風景をみる眼—19 世紀フランス風景画の革新」展の準備のため、出品作品のうち額装状態の劣悪な作品に関して、改善作業を実施した。それ以外の収蔵作品についても、クリヴェッリ作品及びク

ールベ作品，ルノワール作品，ファンタン＝ラトゥール作品の作品調査，額装改善，画面処置を行った。また新収蔵のセリュジエ作品の額装改善を実施し，速やかに展示に供する準備をした。

④ 国立国際美術館

絵画 16 件，彫刻 11 件，資料・その他 15 件

郭仁植，吉仲太造等の絵画作品の洗浄や，森口宏一，湯原和夫等の彫刻作品の研磨，コーティング等を中心に修復を行った他，「あなたの肖像—工藤哲巳回顧展」の開催に向けて，工藤哲巳に関連する資料等のクリーニング，欠損部の補強等を重点的に行った。

(4) 美術作品の保管・修理等に関する調査研究

各館における調査研究の実施状況は，以下のとおりである。

ア 東京国立近代美術館

(本館)

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

所蔵作品展では，平成 24 年度のリニューアル以降，テーマ性の高い特集形式の展示を実施しており，各研究員の研究成果の展示への素早い反映を心がけている。平成 25 年度も所蔵作品の調査・研究に基づき，「日本画のプロセス—土田麦僊，東山魁夷，高山辰雄の場合」，「何かがおこってる：1907-1945 の軌跡」等の特集を企画した他，コレクションを中心とした小企画「都市の無意識」「泥とジェリー」を開催した。特に「何かがおこってる」は 4・3 階を使用した初の大型特集で，専門分野に応じて各研究員が知見を持ち寄り，映像，雑誌，ポスターなども駆使して，日露戦争後から太平洋戦争終結までの時代と美術の動向を描き出した。

(イ) 保管・修理に関する調査研究

昨年に引き続き，平成 24 年に受贈した平福百穂《丹鶴青瀾》（六曲一双屏風）の大規模解体修理を実施し，終了した。また，手薄だった紙資料の修復として，岸田劉生資料のうち日記類の補修を行った。

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

調査研究に基づき所蔵作品展において特集展示企画を行うとともに，「何かがおこってる：1907-1945 の軌跡」で 2 回，「都市の無意識」で 2 回，「泥とジェリー」で 3 回のトークをそれぞれ実施した。また「都市の無意識」「泥とジェリー」では解説小冊子を作成し，無償配布した。修復が完了した《丹鶴青瀾》は，平福百穂の代表作かつ《丹鶴青瀾》の関連作品である《荒磯》とともに，詳しい解説キャプションを付し，特別展示を行った。

(工芸館)

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

随時の専門的な調査研究とともに，所蔵作品展や企画展での展示，貸与及び熟覧等において専門家等と研究を行った。

(イ) 保管・修理に関する調査研究

目白漆芸研究所と浅井エージェンシーの専門家らと連携して文化財保存修復の調査・研究と修復を計画的に実施した。

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

現状保存修復を実施する作品は活用頻度の高いもの、あるいは緊急度の高いものから計画的に行った。完了した作品については展示や貸与等に有効に活用した。

(フィルムセンター)

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

所蔵作品に関する調査研究として、平成 25 年度は以下の通り取り組んだ。

- ・平成 24 年度に引き続き、1980 年以降に製作・公開された日本映画について、今後映画フィルム等の収集計画を立てるうえで役立つ、詳細なフィルモグラフィーを作成するための調査を継続した。
- ・小型映画によるホームムービーについて、荻野茂二監督による寄贈フィルム・コレクションの目録を完成させた。
- ・戦前日本ニュース映画のコレクションのうち、『朝日世界ニュース』について、朝日新聞社からの依頼を受け、作品内容に関する遡及調査に協力した。
- ・日本映画におけるスチル写真に関する調査研究
- ・小津安二郎作品における凶像に関する調査研究
- ・日本のフィルム・アーカイブの初期史を明らかにするフィルム・ライブラリー時代の資料のカタログ化を実施した。
- ・「NFC デジタル展示室」における第二次大戦前の日本の映画館写真の公開に伴い、東京を中心とする映画館の歴史について調査を行った。

(イ) 保管・修理に関する調査研究

映画フィルムの保管に関する調査研究として、平成 25 年度は以下の通り取り組んだ。

- ・映画フィルムのならし作業に伴う、映画保存棟のならし室等及び搬出時における適切な温湿度環境に関する調査研究
- ・可燃性映画フィルムの安全な保管に関する調査研究

映画フィルムの修理に関する調査研究として、平成 25 年度は以下の通り取り組んだ。

- ・カラーフィルムのデジタル修復に関する調査研究
- ・三色分解ネガでの保存に関する調査研究
- ・三色分解ネガからの光学合成に関する調査研究
- ・可燃性フィルムからの不燃化作業における、適切な中間素材の作成及び焼付方法に関する調査研究

また、ノンフィルム資料については、カタログの詳細化に努め、寄贈者別に配置されていたプレス資料の現物レベルでの統合作業を継続している。また、映画パンフレットなど過去に寄贈されながら未整理であった分野の資料のデータベース登録に引き続き取り組んでいる。

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

映画フィルムに関する調査研究成果は以下のとおり反映された。

- ・調査研究にあたった客員研究員により、荻野茂二監督による寄贈小型映画フィルムの目録を、研究紀要に発表した。
- ・朝日新聞社による調査研究への協力及び監修により、戦前日本ニュース映画を代表するシリーズ『朝日世界ニュース』を収録した DVD-BOX「朝日動画社 ニュース映画と朝日新聞」を刊行した。

映画フィルムの保管・修理に関する調査研究成果は以下のとおり反映された。

- ・アーカイブ事業等検討委員会による「相模原分館映画保存棟Ⅱならし室温湿度指針に関する提案」に反映した。
- ・映画保存棟Ⅲ（重要文化財映画フィルム保存庫）の設計に反映した。

- ・小津安二郎監督カラー作品4作品のデジタル復元事業に反映した。
 - ・戦前ドイツ映画の所蔵35mm可燃性フィルムの不燃化作業に反映した。
- 所蔵映画資料に関する調査研究成果は以下のとおり反映された。
- ・企画展「日本映画 スチル写真の美学」「小津安二郎の図像学」や、「NFC デジタル展示室」に反映した。
- 映画関連資料の修理に関する調査研究成果は以下のとおり反映された。
- ・一部のシナリオ等，劣化した文献資料の修復に反映した。

イ 京都国立近代美術館

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

コレクションと展覧会の連動の成果として、「芝川照吉コレクション展」のカタログを発行した。所蔵作品については、すべてカラー図版とし、作家・作品についても解説をつけた。また、開館以来の所蔵作品についても、データベース構築に向けての点検・整理、所蔵作品についての調査研究を行った。

(イ) 保管・修理に関する調査研究

毎年取り組んでいるが、とりわけ貸出の要請が高い日本画、洋画などの作品を中心に、その修理・保管について、信頼のおける修復工房などにもアドバイスを得ながら、企画競争制度を活用して、各研究員の修理・保管についての意識が高められるよう努力した。一昨年行われた収蔵庫の空気調和工事も完了し、現在は、空調設備の安定稼働について経過観察を行っている。今後は収蔵庫内の地震対策（棚からの作品落下防止処置など）も含めて、早急の対応を行うために、保管・修理についても調査研究を進めていく。

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

一括収蔵した芝川照吉コレクションについては、展覧会としても披露し、カタログも刊行した。また、特別購入予算で購入したマックス・エルンスト、フランシス・ピカヴィアの作品は、特集展示として、既存のシュール、ダダのコレクションと一緒にコレクション・ギャラリーに展示して公衆の鑑賞に資するものとした。

ウ 国立西洋美術館

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

所蔵作品に関する調査研究として、平成25年度は以下のとおり取り組んだ。

- ・旧松方コレクションを含む松方コレクション全体に関する調査研究
- ・中世末期から20世紀初頭の西洋美術に関する調査研究
- ・所蔵版画作品に関する調査研究
- ・ル・コルビュジエによる本館の設計に関する調査研究
- ・クロード・モネに関する調査研究
- ・オーギュスト・ロダンとエミール＝アントワーヌ・ブールデル作品に関する調査研究
- ・ジャック・カロに関する調査研究
- ・寄贈された橋本コレクションの指輪に関する研究
- ・「国立西洋美術館所蔵作品データベース」に関する研究

(イ) 保存・修復に関する調査研究

修復処置過程での紫外線、赤外線等の調査を実施し、絵画作品の状態及び制作過程を検証する調査を実施した。作品によっては周辺部の絵具層を分析し、その材質を明

らかにした。こうした過程で、15世紀から19世紀までのさまざまな作品の技法や保存状態を確認し、これまでの処置の歴史を再確認しながら貸出のための安全・保存処置を実施した。また、作品ごとに、なされてきた処置、貸出履歴や過去の貸出時の温湿度記録などがすぐに把握できるよう、データベース化を進めた。

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保存・修復に関する調査研究成果の美術館活動への反映

調査研究の過程で、15世紀から19世紀までのさまざまな作品の技法や保存状態を確認し、これまでの処置の歴史を再確認しながら、震災後の被害の状況の確認及び貸出のための安全・保存処置を実施した。様々な技法の処置・調査は、作品の安全な貸出を実現すると同時に、こうした調査結果は展覧会のカタログ等に随時反映されている。また、調査・処置後の作品は常設展示に随時反映され、国民へのよりよい鑑賞環境の提供及び安定した状態の作品展示へと還元されている。あわせて、館報や紀要による対外的な情報発信を積極的に進めている。

エ 国立国際美術館

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

平成25年度は、「あなたの肖像－工藤哲巳回顧展」の開催に向けて、長年にわたり継続していた工藤哲巳作品に関する調査研究の集大成の年度として調査研究を重点的に行う一方、その他の所蔵品についても引き続き調査研究を行った。

(イ) 保管・修理に関する調査研究

文化庁博物館・美術館相互交流事業の支援により、英国のテートから、保存・修復の専門家を招き、美術館コレクションにおける近・現代美術作品の受入・展示・保存・修復をテーマとした国際シンポジウム「NMAO 国際シンポジウム：現代美術をコレクションするとは？」を開催、また同シンポジウムに続いて関係者によるワークショップを開催し、日本の国内事情に照らし合わせて、保存・修復に関するより実地的な議論を行った。

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

平成25年度は、長年にわたり続けてきた工藤哲巳作品に関する調査研究の成果として、「あなたの肖像－工藤哲巳回顧展」を開催した。工藤哲巳とその作品に関する調査研究の成果は、昨年につき「国立国際美術館ニュース」において報告しており、また同展開催にあわせて、今後の工藤研究の基本資料となる640ページに及ぶ図録を完成させた。また、その他の所蔵品についても「国立国際美術館ニュース」紙上で、定期的に解説を行った。

3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

(1) 所蔵作品等に関する調査研究成果の発信

① 研究紀要、学術雑誌、展覧会刊行物、学会等での発信

ア 館の刊行物による研究成果の発信

各館において、展覧会図録（計28冊）、研究紀要（計3冊）、館ニュース（計7種、34冊発行）等の刊行物により、研究成果を発信した。

館名		展覧会図録	研究紀要	館ニュース	所蔵品目録	パンフレット・ガイド等	その他
東京国立近代美術館	本館	4	1	6	—	4	0
	工芸館	2		3	—	2	0
	フィルムセンター	1		6	—	—	0
京都国立近代美術館		9	1	6	1	—	—
国立西洋美術館		4	1	4	—	3	2
国立国際美術館		2	—	6	—	2	1
国立新美術館		6	—	3	—	5	1
計		28	3	34	1	16	4

【注1】 京都国立近代美術館の所蔵品目録には、「所蔵作品目録XI」として刊行した「芝川照吉コレクション展」の図録を含む。

【注2】 「パンフレット・ガイド等」には、小企画展の内容や所蔵作品の解説を掲載したパンフレット、子ども向けの鑑賞ガイド等が含まれる。

イ 館外の学術雑誌、学会等における調査研究成果の発信

(ア) 東京国立近代美術館

[学会等発表] (本館)

タイトル	学会等名	発表者氏名(職名)	日付	場所	聴講者数(人)
「米国の美術館における鑑賞教育の今」	日本美術教育連合	一條 彰子 (主任研究員)	25.10.20	東京家政大学	50
“Development of Art Appreciation Education Program Utilizing Works in Art Museum Collections	Learning Symposium 2014	一條 彰子 (主任研究員)	26.3.13	ニュー・サウス・ウェールズ美術館(シドニー, オーストラリア)	60
「実験工房 コラボレーションの磁場」	「実験工房展」(世田谷美術館)	大谷 省吾 (主任研究員)	25.11.30	世田谷美術館	30
「From Postwar to Postmodern, Art in Japan 1945-1989」 出版記念パネルディスカッション		蔵屋 美香 (美術課長)	25.4.26	国際交流基金	120
「愛されるミュージアム?—ミュージアムと観客のこれまでとこれから」	群馬県博物館連絡協議会 講演会	蔵屋 美香 (美術課長)	25.5.17	群馬県博物館連絡協議会	80
シンポジウム「アートで考える／アートを考える」	日本大学芸術学部美術学科	蔵屋 美香 (美術課長)	25.7.6	練馬区立美術館	60
「戦うからだ」		蔵屋 美香 (美術課長)	25.7.13	blanClass	7
第55回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展報告会		蔵屋 美香 (美術課長)	25.7.18	国際交流基金	120
クリティカル・アーカイヴ vol.1 「香月康男をめぐる」		蔵屋 美香 (美術課長)	25.7.20	ユミコチバアソシエイツ	45

「美術と美術館のために」	第 12 回カフェアオキ	蔵屋 美香 (美術課長)	25.7.21	国立新美術館	70
オープンリサーチプログラム 「田中功起+蔵屋美香 抽象的に話すことーヴェネチア・ビエンナーレに参加して」	京都国際現代芸術祭	蔵屋 美香 (美術課長)	25.7.27	同志社大学今出川キャンパス	250
「ヴェネチア・ビエンナーレに参加して:経験の世界に伝えるということ」	岩手芸術祭	蔵屋 美香 (美術課長)	25.9.7	岩手県民会館	25
「六本木クロッシング 2013 展:アウト・オブ・ダウト」展 パネルディスカッション「日本現代アートのいまを問う」	森美術館	蔵屋 美香 (美術課長)	25.9.22	アカデミーヒルズ タワーホール	200
「可能なる美術館 コレクションとアーカイヴ」	組立・転回	蔵屋美香 (美術課長)	25.10.5	東京都現代美術館	7
"A Brief history of Japanese contemporary art appreciated in global art context, and vice versa: from 1920s to 2010s"	韓国美術史学会“Asian Art in Global Context” Symposium	蔵屋 美香 (美術課長)	25.10.12	弘益大学 (ソウル)	90
「ヴェネチア・ビエンナーレに参加して:経験の世界に伝えるということ」	東京藝術大学大学院先端芸術表現専攻講演会	蔵屋 美香 (美術課長)	25.10.15	東京藝術大学	45
セオリー・ランドテーブル「歴史は繰り返す:1910年代から2010年代へ」		蔵屋美香 (美術課長)	25.10.23	近畿大学四谷アーツステュディオム	30
セオリー・ランドテーブル「たたかうからだ 2 からだでたどる日本の美術 1907-1945」		蔵屋 美香 (美術課長)	25.10.30	近畿大学四谷アーツステュディオム	30
「「アーカイブ」と「データベース」のあいだでー慶応アートセンターと東京国立近代美術館の試み」	上智大学国際教養学部ファカルティ・デヴェロップメント	蔵屋 美香 (美術課長)	25.11.29	上智大学	40
「アーティストは美術館とどうつき合うべきか(特に「近代」美術館と)?」	東京藝術大学 情報プロデュース概論 講演	蔵屋 美香 (美術課長)	25.12.2	東京藝術大学	40
「コレクションを活かす展示を作るための、ほんの少しのあたまの体操」	平成 25 年度博物館学芸員専門講座「ニーズを創出する博物館」	蔵屋 美香 (美術課長)	25.12.4	国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター	55

After the Quake—sharing uncertainty The Japan Pavilion at the 55th Venice Biennale	韓流芸術の世界化のための文化戦略グローバル現代アーティスト深化アカデミーII 韓日美術文化交流セッション	蔵屋 美香 (美術課長)	25.12.14	弘益大学東アジア芸術文化センター(ソウル)	45
トークイベント「つくる, つかう, つかまえる—いくつかの彫刻から 高柳恵里×蔵屋美香」		蔵屋 美香 (美術課長)	26.1.13	東京都現代美術館	50
ゲスト講評会		蔵屋 美香 (美術課長)	26.1.30	東京藝術大学	30
「今, 私たちを収蔵できますか?~アーティストとアーカイブ~」	シブハウスアートミーティングプロジェクト	蔵屋 美香 (美術課長)	26.2.1	シブハウス	40
公開講評会「キュレーターの眼2014」		蔵屋 美香 (美術課長)	26.3.15	女子美術大学	40
シンポジウム「抗うアジアの表現と情動 — オルタナティブな<記憶-歴史>を想像する」	カルチュラル・タイフーン 2013	鈴木 勝雄 (主任研究員)	25.7.14	東京経済大学	50
トークイベント「芸術は何を表し, 何を匿ってきたか レトロスペクティブ(=事後たとえば戦後)の芸術, プロスペクティブ(事前)の芸術」	武蔵野美術大学	鈴木 勝雄 (主任研究員)	25.8.10	武蔵野美術大学美術館	100
「昭和戦前期の沖縄を描いた絵画」	浦添市美術館	鈴木 勝雄 (主任研究員)	26.1.26	浦添市美術館	50
「具体美術協会」セミナー・ワークショップ:アメリカにおける戦後日本美術展 Vol.2	大阪大学	鈴木 勝雄 (主任研究員)	26.2.22	大阪大学	30
「きみはフランシス・ベーコンをしっているか?」	京都造形芸術大学	保坂 健二郎 (主任研究員)	25.4.10 25.4.20 25.5.15 25.5.29	京都造形芸術大学・外苑キャンパス	40
展覧会をつくる	本・現場・美術 番外編	保坂 健二郎 (主任研究員)	25.4.20	青山ブックセンター青山本店	90
「猫町倶楽部 読書会」	猫町倶楽部	保坂 健二郎 (主任研究員)	25.4.27	東京ミッドタウン内シスコシステムズ会議室	70
トークイベント「炭坑の視覚表現をめぐる」	坑夫・山本作兵衛の生きた時代~戦前・戦時の炭坑をめぐる視覚表現	保坂 健二郎 (主任研究員)	25.7.13	原爆の図丸木美術館	40
堀田哲明について	堀田哲明展「たくさんのひとつの家」	保坂 健二郎 (主任研究員)	25.7.20	みずのき美術館	30
「絵画は愛か幽霊か」	多摩美術大学オープンキャンパス	保坂 健二郎 (主任研究員)	25.7.21	多摩美術大学八王子キャンパス	80

「ベーコンがいつもフレッシュで美味しい理由を考える」	「フランシス・ベーコン展」	保坂 健二郎 (主任研究員)	25.8.3	豊田市美術館	70
「戦後の日本建築の変遷と現在の建築家について」	中韓印次世代キュレーター招聘	保坂 健二郎 (主任研究員)	25.9.12	国際交流基金	10
トークセッション	北山善夫「生きるための主題」展	保坂 健二郎 (主任研究員)	25.9.14	みずのき美術館	30
アート×建築-空間をつくるということ	鑑賞講座 建築を見るために	保坂 健二郎 (主任研究員)	25.9.21	川口市立アートギャラリー・アトリア	40
「はじまりの美術館プレトークイベント はじめる美術館」	はじまりの美術館(社会福祉法人安積愛育園)	保坂 健二郎 (主任研究員)	25.10.20	しおや蔵(猪苗代町)	60
「明日の美術館をつくろう。県民フォーラム」	滋賀県フォーラム	保坂 健二郎 (主任研究員)	25.11.3	コラボしが 21 大会議室	40
トークセッション	「Nerhol」展	保坂 健二郎 (主任研究員)	25.12.5	原宿 VACANT	70
「話すこと話せること話されること」	冬木遼太郎展	保坂 健二郎 (主任研究員)	25.12.7	京都 ART ZONE	30
「障害者の芸術活動の支援」	ミュージアム・マネジメント研修	保坂 健二郎 (主任研究員)	25.12.20	日比谷図書文化館	60
「講評会」	ポコラート全国公募展 vol.4	保坂 健二郎 (主任研究員)	25.12.23	アーツ千代田 3331	80
「アール・ブリュット 元年」	アメニティ・フォーラム 18	保坂 健二郎 (主任研究員)	26.2.7	大津プリンスホテル・コンヴェンションホール淡海	70
「トークセッション2:キュレーターの眼, アーティストの眼」	「未来の途中 美術・工芸・デザインの新鋭 12 人展」	保坂 健二郎 (主任研究員)	26.2.15	京都工芸繊維大学	30
「プロジェクトを解体する」	「平行する交差展」	保坂 健二郎 (主任研究員)	26.2.22	日本大学芸術学部	40
「アート界に象徴される刹那さとスピードの中で、いかに建築は立ち続けるべきか」	Aプロジェクト連続講座 第9回	保坂 健二郎 (主任研究員)	26.3.14	新宿 NS ビル・インテリアホール	90
「新しい美術館のかたち～アール・ブリュット作品を美術館があつかうこと～」	「アール・ブリュットアート 日本」展	保坂 健二郎 (主任研究員)	26.3.15	酒遊館(近江八幡)	50
「グルスキー作品を考えるー巨視的に, 微視的に」	「アンドレアス・グルスキー展」	増田 玲 (主任研究員)	25.7.14	国立新美術館	250
「石元作品に現れる“とき”をめぐって」	「高知県立美術館コレクション展 石元泰博・フォトギャラリー 刻-moment-」	増田 玲 (主任研究員)	26.2.11	高知県立美術館	50

リテラル・イメージの行方— マイケル・フリードによる『フ ランシス・ベーコン の達成』の読解を通じて	平成 24 年度美学会東部 会例会	榊田 倫広 (研究員)	25.12.7	早稲田大学	50
アーティスト・トーク 前谷康 太郎	ICC	榊田 倫広 (研究員)	26.1.18	ICC4 階特設会場	20
美術館の活用法—コレクショ ンを愉しむ		松本 透 (副館長)	25.10.26	世田谷美術館	50
美術放談(対談)	CCA 市民美術大学	松本 透 (副館長)	25.11.2	現代美術センター CCA 北九州	60
線を遊ぶ, 語る—縄文から現代 まで (トークセッション)	茅野市美術館アート×コ ミュニケーション+信州 大学	松本 透 (副館長)	25.11.23	茅野市民館	100
「『14 のタペ』の残りのもの, について」	現在のアート<2013>	三輪 健仁 (主任研究員)	25.12.21	森美術館	30
「アートの領域における個人 アーカイブズの深化と拡張— パウル・クレーの事例に学ぶ」	日本アーカイブズ学会	渡邊 美喜 (研究補佐員)	25.4.21	学習院大学	30

【雑誌等論文掲載】 (本館)

学術書籍, 研究報告書等の発行

タイトル	執筆者氏名 (職名)	発行者	発行年月日
『アール・ブリュット アート 日本』	保坂 健二郎 (主任研究員)	平凡社	25.8
フランシス・ベーコン作《三人の人物と肖像》に 関する一考察	榊田 倫広 (研究員)	『引込線 2013』(引込線実行 委員会)	25.11.20
『ドキュメント 14 のタペ パフォーマンス のあとさき, 残りのものたちは身振り続ける【... 後略...】』	三輪 健仁 (主任研究員)	青幻舎	25.12.2

【査読有り】学術誌論文掲載

タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
「米国の美術館における鑑賞教育—所蔵作品を活 かしたスクールプログラムの調査結果に基づく一 考察」	一條 彰子 (主任研究員)	日本美術教育研究論集 第 47 号	26.3
「薨光《眼のある風景》をめぐって (上)」	大谷 省吾 (主任研究員)	『美術研究』410 号 (東京文化 財研究所)	25.9
「薨光《眼のある風景》をめぐって (下)」	大谷 省吾 (主任研究員)	『美術研究』411 号 (東京文化 財研究所)	26.2
「シュルレアリスム絵画の日本における受容と展 開についての研究」	大谷 省吾 (主任研究員)	博士論文 (筑波大学)	26.3

「企業アーカイブズとしての高島屋史料館に関する一考察」	渡邊 美喜 (研究補佐員)	『GCAS Report』Vol.3 (学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻)	26.3
-----------------------------	------------------	---	------

【査読無し】学術誌論文掲載

タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
作品解説	蔵屋 美香 (美術課長)	『近代美術の名作 50』 (美術出版社)	26.4.30
Abstractly Speaking...:Koki Tanaka's Installation at the 55 th Venice Biennale	蔵屋 美香 (美術課長)	<i>Abstract speaking: sharing uncertainty and collective acts</i> (Nero Publishing)	25.6.1
「対談 田中功起×蔵屋美香 「大きな出来事」のあとで—文脈の読み替え/等価な経験/共有と継承」	蔵屋 美香 (美術課長)	田中功起『質問する』 (ART IT)	25.7.10
「私たちは誰に拍手したのか？」	蔵屋 美香 (美術課長)	『ドキュメント 14 のタペ』 (青幻舎)	25.11.28
「可能なる美術館 コレクションとアーカイヴ」	蔵屋 美香 (美術課長)	『組立・転回』 (組立)	26.3.3
「実験場 1950s」展の射程：冷戦期の文化研究の新視点 (同時代史の現場 美術館における「同時代史」展示の可能性)	鈴木 勝雄 (主任研究員)	『同時代史研究』6号	
「昭和戦前期の沖縄の表象：再考のための三つの手がかり」	鈴木 勝雄 (主任研究員)	浦添市美術館主催「南からの風 南への風：沖縄・台湾：近代沖縄の美術・工芸」展カタログ	
「Special issue: art documentation in Japan, in Art Libraries Journal, ARLIS/UK & Ireland, Vol.38, No.2, 2013 の刊行について」	水谷 長志 (主任研究員)	『アート・ドキュメンテーション通信』97号 (アート・ドキュメンテーション学会) 97号	25.4
「日本の美術文献の発信と伝達 — 国立美術館の artlibraries.net 参画の意味を思う」	水谷 長志 (主任研究員)	『全美フォーラム』4号 (全国美術館会議)	25.8
共著「東京国立近代美術館アートライブラリ所蔵 藤田嗣治旧蔵書について —その受入から公開まで—」	水谷 長志 (主任研究員)	『アート・ドキュメンテーション通信』99号 (アート・ドキュメンテーション学会)	25.10
「日本のアート・ドキュメンテーションの四半世紀を記録し創生したメディア 『アート・ドキュメンテーション通信』の100号を祝う」	水谷 長志 (主任研究員)	『アート・ドキュメンテーション通信』100号 (アート・ドキュメンテーション学会)	26.1
「MLA の差異と同質を踏まえて伝える文化"継承"—あるクラスの風景から—」	水谷 長志 (主任研究員)	『DHjp 新しい知の創造』1号 (勉誠出版)	26.2
「海外博物館だより フランスのミュージアムにおける作品管理及びコレクション活用の試みについて」	三輪 健仁 (主任研究員)	『博物館研究』vol.49 No.3 (公益財団法人 日本博物館協会)	26.2.25
「国際シンポジウム「地域・社会と関わる芸術文化活動のアーカイブに関するグローバル・ネットワーク・フォーラム」参加報告記」	渡邊 美喜 (研究補佐員)	『アート・ドキュメンテーション通信』97号 (アート・ドキュメンテーション学会)	25.4

学術誌以外（研究志向の薄い機関紙，美術雑誌，新聞等）における発表

タイトル	執筆者氏名（職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
「あいちトリエンナーレ評 多様な視野，獲得の場に」	蔵屋 美香 (美術課長)	『朝日新聞』愛知版（朝刊）	25.11.13
「リミニ・プロトコル」	蔵屋 美香 (美術課長)	『美術手帖』2月号	26.1.1
「近代美術の眼 北脇昇《空の訣別》」	蔵屋 美香 (美術課長)	『読売新聞』都内版	26.3.14
「コレクションを中心とした小企画 泥とジェリー」	蔵屋 美香 (美術課長)	『美術の窓』4月号	26.3.20
「近代美術の眼 関野準一郎《墓とニューヨーク》」	鈴木 勝雄 (主任研究員)	『読売新聞』都内版	25.7.12
「近代美術の眼 津田青楓《犠牲者》」	鈴木 勝雄 (主任研究員)	『読売新聞』都内版	25.11.8
「近代美術の眼 ロヴィス・コリント「死の舞踏」より《死と芸術家》」	都築 千重子 (主任研究員)	『読売新聞』都内版	25.4.12
『もっと知りたい菱田春草』（著書）	鶴見 香織 (主任研究員)	東京美術	25.6.10
「近代美術の眼 速水御舟《京の家・奈良の家》」	鶴見 香織 (主任研究員)	『読売新聞』都内版	25.9.13
「近代美術の眼 川合玉堂《彩雨》」	鶴見 香織 (主任研究員)	『読売新聞』都内版	25.10.25
作品解説 横山大観《或る日の太平洋》，徳岡神泉《富士山》，加藤東一《富士》	鶴見 香織 (主任研究員)	『富士山 日本の美 5』	25.10
「上村松園《焰》」	中村 麗子 (主任研究員)	『ARTcollectors'』51号	25.5
本文，作品解説	中村 麗子 (主任研究員)	『もっと知りたい竹内栖鳳 生涯と作品』（東京美術）	25.9
「栖鳳の眼力」，作品解説	中村 麗子 (主任研究員)	『竹内栖鳳』（別冊太陽）211号	25.9
「竹内栖鳳の写生帖」	中村 麗子 (主任研究員)	『美術の窓』359号	25.8
連載「美術」	保坂 健二郎 (主任研究員)	『すばる』（集英社）	25.4 25.5 25.6 25.8 25.10 25.12 26.2

連載「視線」	保坂 健二郎 (主任研究員)	『朝日新聞』 (朝日新聞社)	25.5.5 25.6.9 25.7.14 25.8.18 25.9.22 25.10.20 25.12.8 26.1.19 26.3.2
連載「月評」	保坂 健二郎 (主任研究員)	『新建築』 (新建築社)	25.5 25.7 25.9 25.11
「プロローグ いま、なぜペーコンか?」「ペーコンの絵はどこがどうすごいのか」「フランスへの手紙」	保坂 健二郎 (主任研究員)	『芸術新潮』 (新潮社)	25.4
「近代美術の眼 須田一政 静岡・松崎浄感寺『風姿花伝』より」	保坂 健二郎 (主任研究員)	『読売新聞』 都内版	25.5.10
「保坂健二郎さんとの往復書簡」	保坂 健二郎 (主任研究員)	田中功起『質問する』 (フィルムアート社)	25.7
「「はじめに色彩ありき」—菊地宏が色を使う理由」	保坂 健二郎 (主任研究員)	『10+1』website (LIXIL 出版)	25.9
「青の時代は続く—アートとブルーの多義性について」	保坂 健二郎 (主任研究員)	『Eyescream』 (スペースシャワーネットワーク)	25.9
「だんわしつ 「鑑賞・評価」から「共感・共有」へ」	保坂 健二郎 (主任研究員)	『指導と評価』 (図書文化)	25.9
「今年のヴェネツィアはアール・ブリュットが台風の目」	保坂 健二郎 (主任研究員)	『芸術新潮』 (新潮社)	25.9
「書評 西沢立衛 けんちくワークブック (くうねるところにすむところ)」	保坂 健二郎 (主任研究員)	『新建築』 (新建築社)	25.10
「展覧会を「開く」のは、風景を、未完にするため」	保坂 健二郎 (主任研究員)	『をちこち Magazine』 (国際交流基金)	25.10
「アール・ブリュットとはなにか」	保坂 健二郎 (主任研究員)	『教育美術』 (教育美術振興会)	25.11
「時評 今なぜ私たちにアール・ブリュットが必要なのか」	保坂 健二郎 (主任研究員)	『凶区』2号 (BOOK PEAK)	25.12
「雑感以上批評未満」	保坂 健二郎 (主任研究員)	『シェル美術賞展 2013』展カタログ (昭和シェル石油株式会社)	25.12
「写真と絵画の往還」	保坂 健二郎 (主任研究員)	『アサヒカメラ』 (朝日新聞出版)	25.12
「平面ならではの生成 ランナーとクローン」	保坂 健二郎 (主任研究員)	『美術手帖』 (美術出版社)	26.1
「書評 『匠たちの名旅館』」	保坂 健二郎 (主任研究員)	『住宅建築』 (建築資料研究社)	26.2

「近代美術の眼 奈良美智《Harmless Kitty》」	保坂 健二郎 (主任研究員)	『読売新聞』都内版	26.2.14
「片山真妃の絵画について」	保坂 健二郎 (主任研究員)	『VOCA 展 2014』(上野の森美術館)	25.3
「近代美術の眼 笠松紫浪《温泉の朝(信州野澤)》」	榊田 倫広 (研究員)	『読売新聞』都内版	25.1.24
やわらかくたっている—工藤哲巳の肯定性	榊田 倫広 (研究員)	『美術手帖』999号(美術出版社)	26.1.24
「展覧会レビュー O JUN—描く児」	榊田 倫広 (研究員)	『月刊美術』463号(サン・アート)	26.4月号
展評「「偶像」としてのキャパ像：「ロバート・キャパ/ゲルダ・タロー 二人の写真家」展」	増田 玲 (主任研究員)	『美術手帖』984号(美術出版社)	25.5月号
「旅するまなざしと根をおろすもの、そしてさまざまな声」	増田 玲 (主任研究員)	『1972～ Kozo Miyoshi』展覧会ブローシャ(Gallery 916)	25.8月
「「わが東京100」について」	増田 玲 (主任研究員)	須田一政写真集『わが東京100』(禅フォトギャラリー)	25.10
「近代美術の眼 中山岩太《「中山岩太ポートフォリオ 2010」より 10 蝶(一)》」	増田 玲 (主任研究員)	『讀賣新聞』都内版	25.6.14
「近代美術の眼 森山大道《にっぽん劇場》」	増田 玲 (主任研究員)	『讀賣新聞』都内版	25.12.13
ソウルで開かれた日本の現代美術展	松本 透 (副館長)	『美術の窓』No.356(5月号)	25.5.20
追悼 村岡三郎さんを偲んで	松本 透 (副館長)	『新美術新聞』1321号	25.9.1
審査講評	松本 透 (副館長)	「FACE 展 2014 損保ジャパン美術賞展」カタログ(損保ジャパン東郷青児美術館)	26.2
「関根正二と生田長江 《女の顔》(神奈川近美蔵)をめぐって—美術・演劇・文芸をつなぐ MLA」	水谷 長志 (主任研究員)	『ふおーらむ』10号(図書館サポートフォーラム)	25.9

[学会等発表] (工芸館)

タイトル	学会等名	発表者氏名(職名)	日付	場所	聴講者数(人)
イタリア・ファエンツァをめぐ る近年の現代陶芸事情—グエ ッリーノ・トラモンティ回顧展 と国際陶芸展ほか—	東洋陶磁学会	唐澤 昌宏 (工芸課長)	25.6.1	根津美術館	45
作家の言葉から日本の陶芸を 考える	窯業指導所特別講座	唐澤 昌宏 (工芸課長)	25.7.31	茨城県工業技術センタ ー窯業指導所	60
日本の工芸の現在(いま)を考 える	平成 25 年度工芸館 巡回展	唐澤 昌宏 (工芸課長)	25.9.14	田辺市立美術館	50
イタリア的な造形思考のす すめ	東洋陶磁学会	唐澤 昌宏 (工芸課長)	25.10.20	茨城県陶芸美術館	70

清瀬市立清瀬第八小学校+東京国立近代美術館工芸館の連携授業について	美術館・都図研研究局 連携研究報告会	今井 陽子 (主任研究員)	26.3.19	世田谷区立上北沢小学校	50
Japanese-ness/Asian-ness' in Crafts in the 1920s-30s: From the Works in Government Sponsored Competitive Exhibition, Teiten	2013 The International Design History Symposium	木田 拓也 (主任研究員)	25.6.27	国立雲林工科大学(台湾)	30
アメリカの美術館のコレクションにみる日本の近代工芸	国際シンポジウム: 白山谷喜太郎と日米文化交流	木田 拓也 (主任研究員)	25.11.24	金沢 21 世紀美術館	80
1964 Tokyo Olympic Games, A Design Project: "Japanese-ness" in Olympic Designs	5 th International Congress of International Association of Societies of Design Research	木田 拓也 (主任研究員)	25.8.27	芝浦工科大学	20
オリンピックのなかの<アート>と<デザイン>	公開コロキウム「社会システム<芸術>とその変容」	木田 拓也 (主任研究員)	26.2.2	東京芸術大学	40
東京オリンピック 1940/1964	公開コロキウム「社会システムのなかのオリンピックとデザイン」	木田 拓也 (主任研究員)	25.4.21	東京国立近代美術館	65
Crafts Crossing Borders in 1920s-40s	Inter-Asia Cultural Studies Society, Conference 2013	木田 拓也 (主任研究員)	25.7.5	シンガポール大学	50

〔雑誌等論文掲載〕 (工芸館)

学術書籍, 研究報告書等の発行

タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
「渡辺素舟と昭和初期の『工芸美術』」『叢書・近代日本のデザイン』第 52 巻	木田 拓也 (主任研究員)	ゆまに書房	25.10.25

【査読有り】学術誌論文掲載

タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
大河内正敏と奥田誠一 陶磁器研究会/彩壺会/東洋陶磁研究所 —大正期を中心に—	木田 拓也 (主任研究員)	『東洋陶磁』第 42 号 (東洋陶磁学会)	25.3.31
1964 Tokyo Olympic Games, A Design Project: "Japanese-ness" in Olympic Designs	木田 拓也 (主任研究員)	Consilience and Innovation in Design, Proceedings and Program vol. 2 (国際デザイン学会)	25.8.24

【査読無し】学術誌論文掲載

タイトル	執筆者氏名（職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
松下幸之助がみた伝統工芸とコレクションの意義	諸山 正則 （主任研究員）	「幸之助と伝統工芸」展図録 （美術出版社）	25.4.13
現代の日本工芸展について 作家作品解説	諸山 正則 （主任研究員）	「現代の日本工芸」展図録（外務省）	25.10.8
加藤委一素材への執着とアクションから生まれる造形	唐澤 昌宏 （工芸課長）	『陶説』727号（日本陶磁協会）	25.9.1
「日本伝統工芸展 60 回記念 工芸から KŌGEI へ」展に寄せて	唐澤 昌宏 （工芸課長）	『陶説』729号（日本陶磁協会）	25.12.1
展覧会図録章解説（陶磁・ガラス・漆工・竹工・染織・人形・金工）	北村 仁美 （任研究員）	『東京国立近代美術館工芸館所蔵名品展 近代工芸の巨匠たち』（田辺市立美術館）	25.7
日本統治時代の朝鮮美術展の工芸：もうひとつの日本近代工芸史	木田 拓也 （主任研究員）	『鹿島美術研究』年報第 30 号別冊（鹿島美術財団）	25.11.15
ミュージアム・オブ・アート&デザイン（MAD） —生まれ変わったアメリカン・クラフト・ミュージアム	木田 拓也 （主任研究員）	『博物館研究』第 48 巻第 10 号（日本博物館協会）	25.10
大陸に渡った工芸家：近代日本の工芸家にとっての『アジア的なもの』	木田 拓也 （主任研究員）	『デザイン史学』第 11 号（デザイン史学研究会）	25.8.9
‘Japanese-ness/Asian-ness’ in Crafts in the 1920s-30s: From the Works in Government Sponsored Competitive Exhibition, Teiten,’	木田 拓也 （主任研究員）	<i>Proceedings for Translating and Writing Modern Design Histories in East Asia for the Global World, Organizing Committee of 2013 Yunlin Symposium</i>	25.6.27

学術誌以外（研究志向の薄い機関紙，美術雑誌，新聞等）における発表

タイトル	執筆者氏名（職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
第 53 回東日本伝統工芸展鑑査・審査好評	諸山 正則 （主任研究員）	同展図録（日本工芸会東日本支部）	25.4.17
高島屋美術部と工芸	諸山 正則 （主任研究員）	『高島屋美術部百年史：1909-2010』（高島屋）	25.4
柳宗理のデザイン	諸山 正則 （主任研究員）	『別冊太陽 柳宗理』（平凡社）	25.7.25
内田鋼一が生み出すモノ	唐澤 昌宏 （工芸課長）	『内田鋼一展—うつわからの風景—』カタログ（paramita museum）	25.5
白磁の可能性を求めて—庄村久喜の「白妙磁」	唐澤 昌宏 （工芸課長）	『白妙磁の世界 庄村久喜展』カタログ（そごう横浜店）	25.7

岡部嶺男の「青瓷」	唐澤 昌宏 (工芸課長)	『土を宝石に変えた鬼才の陶芸家 岡部嶺男展』カタログ (阪急うめだ本店)	25.8
大和保男の陶芸的表現にみる作陶姿勢と思考	唐澤 昌宏 (工芸課長)	『大和保男の陶芸—魂の造形—』展カタログ (山口県立萩美術館・浦上記念館)	25.9
ハンス・コパーが生み出したもの	唐澤 昌宏 (工芸課長)	『HANS COPER』展カタログ (水戸忠交易)	25.10
想いの造形	唐澤 昌宏 (工芸課長)	『土の姿』展カタログ (益子陶芸美術館)	25.12
加藤重高氏を偲ぶ	唐澤 昌宏 (工芸課長)	『美術年鑑』 (美術年鑑社)	25.12
隠崎隆一：心の造形としての備前焼	唐澤 昌宏 (工芸課長)	『隠崎隆一 事に仕えて』展カタログ (菊池寛実記念 智美術館)	26.1
総評	唐澤 昌宏 (工芸課長)	『第 53 回日本クラフト展』カタログ (日本クラフトデザイン協会)	26.1
日本の美意識と技 「工芸から KŌGEI へ」展に寄せて	唐澤 昌宏 (工芸課長)	『聖教新聞』	26.1.30
「工芸」のイメージと、これからの「工芸 = KŌGEI」	唐澤 昌宏 (工芸課長)	『CLIMB』22 (金沢市卯辰山工芸工房)	26.3.31

[学会等発表] (フィルムセンター)

タイトル	学会等名	発表者氏名(職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
Film Archives After Film	国際フィルム・アーカイブ連盟 (FIAF)	岡島 尚志 (主幹)	25.4.24	フィルモテカ・デ・カタルーニャ (バルセロナ)	200
フィルム生産縮小時代の映画保存—“フジ・ショック”後のフィルム・アーカイブ	日本映像学会	岡島 尚志 (主幹)	25.6.1	東京造形大学	50
映画保存の今後—世界と日本のフィルム・アーカイブの立場から—	映画の復元と保存に関するワークショップ	岡島 尚志 (主幹)	25.8.24	京都文化博物館	100
映像遺産の保存と活用—相模原市関連の古い映像を見ながら	相模原市公開講座	岡島 尚志 (主幹)	25.9.27	フィルムセンター相模原分館	56
デジタル時代の映画保存—問題の整理—	映画産業団体連合会 (映画団連) セミナー	岡島 尚志 (主幹)	25.10.22	六本木ヒルズ・オーデイトリアム	100
『その夜の妻』—若き日の小津安二郎	ベルリン国際映画祭	岡島 尚志 (主幹)	26.2.8	シネマックス 8 (ベルリン)	100

世界のフィルム・アーカイブ／シネマテーク—その新たな動きと求められる人材	2013年度アート・マネージャー養成講座「シネマ・マネジメント・ワークショップ」	岡島 尚志 (主幹)	26.3.4	映画美学校	20
東京国立近代美術館フィルムセンターにおける映画フィルムの長期保管	日本新聞協会新聞マイクロ懇話会	栩木 章 (主任研究員)	25.6.27	日本新聞協会	80
記録映画の保存と活用を考える	第16回ゆふいん文化・記録映画祭	栩木 章 (主任研究員)	25.6.30	湯布院公民館	100
公共上映における映写機器等の現状と課題 優秀映画鑑賞推進事業を事例として	全国コミュニティシネマ会議 2013 in 浜松	栩木 章 (主任研究員)	25.9.7	クリエート浜松	30
デジタル時代の映画保存の在り方について 日本映画界の現状	映団連セミナー	栩木 章 (主任研究員)	25.10.22	六本木ヒルズ・オーデイトリアム	100
映画のいろ, 小津のいろ	JR 東日本 大人の休日倶楽部 趣味の会	栩木 章 (主任研究員)	25.11.13	ステーションコンファレンス万世橋	40
映像アート作品のアーカイブについて	日本映像学会 アナログメディア研究会	栩木 章 (主任研究員)	26.1.18	阿佐ヶ谷美術専門学校	30
データベースから見るフィルム・アーカイブの保存と上映	2013年度映像アート・マネージャー養成講座「シネマ・マネジメント・ワークショップ」	栩木 章 (主任研究員)	26.1.28	映画美学校	20
F シネマ・プロジェクト フィルム上映を考える	恵比寿映像祭	栩木 章 (主任研究員)	26.2.16	東京都写真美術館	100
蘇ったフィルムたち 東京国立近代美術館フィルムセンター復元作品集	川崎市市民ミュージアム	栩木 章 (主任研究員)	26.2.22	川崎市市民ミュージアム	60
吉澤商店主・河浦謙一の足跡をたどる	日本映像学会 映画文献資料研究会	入江 良郎 (主任研究員)	25.7.6	日本大学芸術学部	18
調査研究プロジェクト「演劇博物館所蔵映画フィルムの調査, 目録整備と保存活用」について	研究講演会「早稲田大学演劇博物館の映画コレクション」	入江 良郎 (主任研究員)	25.11.2	フィルムセンター・大ホール	203
日本映画社ジャカルタ製作所の活動について	研究講演会「早稲田大学演劇博物館の映画コレクション」	岡田 秀則 (主任研究員)	25.11.2	フィルムセンター・大ホール	
震災をめぐるドキュメンタリー映画のアーカイブ	山形国際ドキュメンタリー映画祭	岡田 秀則 (主任研究員)	25.10.13	山形美術館	約 50
Restoration of <i>Kujira</i> and <i>Yuureisen</i>	Memory!第一回国際映画遺産フェスティバル	大傍 正規 (研究員)	25.6.5	ポファナセンター(ブノンペン)	30
仏・露・日における無声映画の音—初期フランス映画の受容研究	博士論文公聴会	大傍 正規 (研究員)	25.6.20	京都大学人間・環境学研究科	20

政岡憲三『くもとちゅうりっぷ』大藤信郎『くじら』『幽霊船』レストア報告	東京国際映画祭「日本アニメーションの先駆者(パイオニア)たち～デジタル復元された名作」	大傍 正規 (研究員)	25.10.19	シネマト六本木	100
-------------------------------------	---	----------------	----------	---------	-----

〔雑誌等論文掲載〕 (フィルムセンター)

学術書籍, 研究報告書等の発行

タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
フィルム生産縮小時代の映画保存―“フジ・ショック”後のフィルム・アーカイブ	岡島 尚志 (主幹)	日本映像学会報 No.164	
A Love Letter to Film	岡島 尚志 (主幹)	Journal of Film Preservation, No.89 (FIAF)	25.11
『早稲田大学演劇映像学連携研究拠点テーマ研究「演劇博物館所蔵映画フィルムの調査, 目録整備と保存活用」(平成21年度～25年度) 成果報告』	入江 良郎 (主任研究員)	早稲田大学演劇映像学連携研究拠点テーマ研究	26.2.28
「仏・露・日における無声映画の音―初期フランス映画の受容研究」(博士論文)	大傍 正規 (研究員)	京都大学人間・環境学研究科	25.7.23 (学位授与日)
「越境するスターダム―帝政期ロシアと日本におけるマックス・ランデーの受容」堀潤之・菅原慶乃編『越境の映画史』	大傍 正規 (研究員)	関西大学出版部	26.3.31
東京国立近代美術館フィルムセンター監修『映画公社旧蔵 戦時統制下映画資料集』第1巻「映画公社関係資料」解題	佐崎 順昭 (客員研究員)	ゆまに書房	26.1.24
東京国立近代美術館フィルムセンター監修『映画公社旧蔵 戦時統制下映画資料集』第2巻「映画配給社資料」解題	佐崎 順昭 (客員研究員)	ゆまに書房	26.1.24
東京国立近代美術館フィルムセンター監修『映画公社旧蔵 戦時統制下映画資料集』第3巻「大日本活動写真協会調査月報Ⅰ」解題	佐崎 順昭 (客員研究員)	ゆまに書房	26.1.24
東京国立近代美術館フィルムセンター監修『映画公社旧蔵 戦時統制下映画資料集』第4巻「大日本活動写真協会調査月報Ⅱ」解題	佐崎 順昭 (客員研究員)	ゆまに書房	26.1.24

【査読無し】学術誌論文掲載

タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
Nitrate Film Production in Japan: a Historical Background of the Early Days	岡田 秀則 (主任研究員)	The Oxford Handbook of Japanese Cinema (Oxford University Press)	26.1.30
日本映画社ジャカルタ製作所の活動について	岡田 秀則 (主任研究員)	「演劇博物館所蔵映画フィルムの調査, 目録整備と保存活用」(早稲田大学演劇映像学連携研究拠点テーマ研究)	26.2.28

Archiving Disaster: Multiple Versions of Documentary Films about the Great Kanto Earthquake	大澤 淨 (研究員)	Journal of Film Preservation, No. 89 (FIAP)	25.11.1
寅次郎の「ディグニティ」——『男はつらいよ フーテンの寅』準備稿覚書	大澤 淨 (研究員)	森崎東党宣言！(インスクリプト)	25.11.25
映画フィルムのネガに付随する鑽孔テープの記録内容を解読する	宮澤 愛 (事務補佐員)	平成 25 年度アーカイブズ・カレッジ(史料管理学研修会)短期コース(主催:国文学研究資料館)	
東京国立近代美術館フィルムセンターにおける個人寄贈の小型映画フィルムの保存と活用について	郷田 真理子 (技能補佐員)	平成 25 年度アーカイブズ・カレッジ(史料管理学研修会)短期コース(主催:国文学研究資料館)	
東京国立近代美術館フィルムセンターにおける所蔵雑誌の保存と公開	笹沼 真理子 (事務補佐員)	平成 25 年度アーカイブズ・カレッジ(史料管理学研修会)短期コース(主催:国文学研究資料館)	
国立近代美術館フィルムセンターにおけるスチル資料の保管と今後の課題について	朴 美和 (事務補佐員)	平成 25 年度アーカイブズ・カレッジ(史料管理学研修会)短期コース(主催:国文学研究資料館)	

学術誌以外(研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞等)における発表

タイトル	執筆者氏名(職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
『東京物語』——家族のこころを描く日本映画の至宝	岡島 尚志 (主幹)	東京物語(松竹・南座)	25.7.13
復元を通して, 映画フィルムを知る	榎木 章 (主任研究員)	熱風(株式会社スタジオ・ジブリ)	25.4.10
映像とテキストでよみがえる『朝日世界ニュース』	榎木 章 (主任研究員)	朝日動画社 ニュース映画と朝日新聞(朝日新聞社)	25.7.10
映画祭の「いま」が映画保存の「あした」を支える	榎木 章 (主任研究員)	大分合同新聞(大分合同新聞社)	25.8.5
逆立ちする映画, 存在しない果実の汁	岡田 秀則 (主任研究員)	「視る」(京都国立近代美術館)	26.2.15
日本の映画ポスター文化と野口久光の芸術	岡田 秀則 (主任研究員)	Hisamitsu Noguchi The Graphic Works(開発社)	26.3.5

(イ) 京都国立近代美術館

[学会等発表]

タイトル	学会等名	発表者氏名(職名)	日付	場所	聴講者数(人)
「『Dekoraive Kunst』誌とユーゲントシュティール:マイアー=グレーフェとムテジウスを中心に」	日本独文学会秋季研究発表会『シンポジウムⅣ「世紀転換期ドイツ語圏の芸術誌の諸相—その多様性の根源にあるものは何か」』	池田 祐子 (主任研究員)	25.9.29	北海道大学	35
「ウィーン〜総合芸術の都市」	第 85 期一橋フォーラム 21『近代の都市と芸術』如水会主催	池田 祐子 (主任研究員)	26.3.5	如水会館	70
グッゲンハイム美術館での Gutai	大阪大学総合学術博物館	平井 章一 (主任研究員)	25.6.22	大阪大学総合学術博物館	50
「吉田初三郎の観光案内図—近代日本景の形成」	民族芸術学会 第 130 回 研究例会「近代における場の変容」	平田 剛志 (研究補佐員)	25.6.29	立命館大学国際平和ミュージアム会議室	30

[雑誌等論文掲載]

学術書籍, 研究報告書等の発行

タイトル	執筆者氏名(職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
「ドイツ世紀転換期の装飾とフォルムに見られる日本と自然に関する言説—ユーゲントシュティールの盛衰とその背景」『国際シンポジウム「装飾とデザインのジャポニスム」報告書』	池田 祐子 (主任研究員)	研究代表者:馬淵明子・国立西洋美術館館長	26.1

【査読無し】学術誌論文掲載

タイトル	執筆者氏名(職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
現代作家紹介 境界を超えて 井原康雄	平井 章一 (主任研究員)	美術フォーラム 21(醍醐書房) 28号	25.11

学術誌以外(研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞等)における発表

タイトル	執筆者氏名(職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
巻頭エッセイ『掛け軸のこと』	柳原 正樹 (館長)	『美術京都』(公益財団法人 中信美術奨励基金)	26.3
“GUTAI”と「具体」	平井 章一 (主任研究員)	月刊美術(実業之日本社) 455号	25.7
革新と伝統 白髪一雄のアクション・ペインティング	平井 章一 (主任研究員)	月刊ギャラリー(ギャラリーステーション) 345号	26.1
美術家, 教育者, 啓蒙者として—嶋本昭三氏のこと	平井 章一 (主任研究員)	美術年鑑(美術年鑑社)	26.1
創造の源泉, その再考 竹久夢二 「新しき夢二像」	山野 英嗣 (客員研究員)	花美術館(蒼海出版)	25.4.20
創造の源泉, その再考 竹久夢二 「私は洋画家になりたかった」	高見澤 こざえ (研究補佐員)	花美術館(蒼海出版)	25.4.20
京都国立近代美術館開館50周年記念特別展 交差する表現に寄せて	山野 英嗣 (客員研究員)	美術年鑑(美術年鑑社)	26.1

「隅田川の影と光—影からくり絵とキャンバス・プロジェクト」	平田 剛志 (研究補佐員)	『映像試論 100』第 2 号 (Port Gallery T)	25.10.10
「モノリス 内海聖史の絵画」	平田 剛志 (研究補佐員)	『内海聖史個展：星の話』（内海聖史）	25.10
「カオスモス・ペインティング」	平田 剛志 (研究補佐員)	『中島麦個展：星々の悲しみ・blue on blue』（Gallery OUT of PLACE）	26.3
「彫刻の不条理について」	平田 剛志 (研究補佐員)	『花岡伸宏 Nobuhiro Hanaoka』（MORI YU GALLERY）	26.3
「置物の日常」	平田 剛志 (研究補佐員)	友枝望著『CLUSTER 友枝望』（友枝望）	26.3.20

(ウ) 国立西洋美術館

[学会等発表]

タイトル	学会等名	発表者氏名(職名)	日付	場所	聴講者数(人)
「救援から支援へ:全国美術館会議の活動」	美術史学会美術館博物館委員会シンポジウム	村上 博哉 (学芸課長)	25.4.21	仙台市博物館ホール	100
「米国の美術館における鑑賞教育の今」	日本美術教育連合	寺島 洋子 (主任研究員)	25.10.20	東京家政大学	50
「美術館の情報資料室はどのような情報を扱っているか」	筑波大学知識情報特論講演会	川口 雅子 (主任研究員)	25.10.23	筑波大学	80
「アジアからの美術書誌情報の発信—東京国立近代美術館・国立西洋美術館 OPAC の artlibraries.net における公開の経緯とその意義」	アート・ドキュメンテーション学会	川口 雅子 (主任研究員)	25.11.17	跡見学園女子大学	80
「ポートレートによる国家の歴史:ナショナル・ポートレート・ギャラリーの諸問題」	表象文化論学会	横山 佐紀 (主任研究員)	25.6.30	関西大学	30
「ミュージアムの空間構成と教育プログラム—歴史展示の装置として—」	日本比較教育学会	横山 佐紀 (主任研究員)	25.7.7	上智大学	20
シンポジウム「博物館の可能性をさぐる」	博物館学芸員専門講座	横山 佐紀 (主任研究員)	25.12.6	国立教育政策研究所社会教育実践研究センター	50

[雑誌等論文掲載]

学術書籍, 研究報告書等の発行

タイトル	執筆者氏名(職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
『美を究め美に遊ぶ』	陳岡 めぐみ (主任研究員)	東信堂	25.7

『イタリアの世界文化遺産を歩く』	飯塚 隆 (研究員)	同成社	25.10
『ローマ-外国人芸術家たちの都』	渡辺 晋輔 (主任研究員)	竹林舎	25.10
『版画の写像学-デューラーからレンブラントへ』	渡辺 晋輔 (主任研究員)	ありな書房	25.12.15

【査読有り】 学術誌論文掲載

タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
「アジアからの美術書誌情報の発信-東京国立近代美術館・国立西洋美術館 OPAC の artlibraries.net における公開の経緯とその意義」	川口 雅子 (主任研究員)	東京国立近代美術館研究紀要	26.3
"La donation au Louvre, en 1873, du tableau de Constable La Baie de Weymouth, côté coulisses : Léon Gauchez, John W. Wilson et la bataille de l'école anglaise"	陳岡 めぐみ (主任研究員)	<i>Revue du Louvre : la revue des musées de France</i>	25.6
「米国の美術館における鑑賞教育-所蔵作品を活かしたスクールプログラムの調査結果に基づく考察」	寺島 洋子 (主任研究員)	日本美術教育連合第 47 号研究論文集	26.3.31

【査読無し】 学術誌論文掲載

タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
「美術史における画像の力とデジタル技術」	川口 雅子 (主任研究員)	DHjp (勉誠出版)	26.2
第 6 回(2013 年度)秋季研究発表会第 3 部参加報告記	黒澤 美子 (研究補佐員)	アート・ドキュメンテーション通信 (アート・ドキュメンテーション学会)	26.1.25

学術誌以外 (研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞等) における発表

タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
「国立西洋美術館: コレクションの価値を高めるデータベースへの挑戦」	川口 雅子 (主任研究員)	文化庁月報 (文化庁)	25.6
「国立西洋美術館 ル・コルビュジエと 20 世紀美術」	村上 博哉 (学芸課長)	文化庁月報 (文化庁)	25.8
「国立西洋美術館×ポーラ美術館 モネ, 風景をみる眼 19 世紀フランス風景画の革新」	陳岡 めぐみ (主任研究員)	うへの (上野のれん会)	25.12.1
「睡蓮」	陳岡 めぐみ (主任研究員)	読売新聞夕刊	25.12.10
「美術館における学校利用」	寺島 洋子 (主任研究員)	博物館研究 (日本博物館協会)	25.6
「私が学校教育に求めること」	寺島 洋子 (主任研究員)	学校教育 (広島大学付属小学校教育研究会)	25.9

「薄布の魅力」	寺島 洋子 (主任研究員)	造形ジャーナル (開隆堂)	25.11.1
「本当のラファエロ」「レオナルドとミケランジェロふたりの巨匠から学んだもの」	渡辺 晋輔 (主任研究員)	美術手帖 (美術出版)	25.5
「聖ゲオルギウスと竜」	渡辺 晋輔 (主任研究員)	読売新聞夕刊	25.4.2

(エ) 国立国際美術館

[学会等発表]

タイトル	学会等名	発表者氏名(職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
「The Day When Things Stopped Being Ordinary」	2013 Asian art biennial curator's forum	植松 由佳 (主任研究員)	25.10.6	台湾国立現代美術館 (台中)	200

[雑誌等論文掲載]

学術誌以外(研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞等)における発表

タイトル	執筆者氏名(職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
ARTIST INTERVIEW リュック・タイムンス	中西 博之 (主任研究員)	美術手帖(美術出版社)	25.7
「美の饗演 関西コレクションズ⑤ 『おじいさんと孫娘』	植松 由佳 (主任研究員)	朝日新聞(朝日新聞大阪本社)	25.5.23
「海外博物館だより イギリスのミュージアム事情 コレクションにおけるタイム・ベースド・メディア作品の受入保存修復について」	植松 由佳 (主任研究員)	『博物館研究平成 25 年 7 月号』(公益財団法人日本博物館協会)	25.6.25
「よりアクチュアルに展開するメディアアート」	植松 由佳 (主任研究員)	『第 17 回文化庁メディア芸術祭 受賞作品集』	26.2

(オ) 国立新美術館

[学会等発表]

タイトル	学会等名	発表者氏名(職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
区間 3 分割による階段関数系を用いた絵画画像の色彩変化の計量の試み	日本色彩学会画像色彩研究会 2013 年度研究発表会, 日本色彩学会画像色彩研究会	室屋 泰三 (主任研究員)	26.3.2	国立新美術館	
鈴木長吉作「十二の鷹」の形状計測とその CG 化に向けた検討	日本色彩学会画像色彩研究会 2013 年度研究発表会, 日本色彩学会画像色彩研究会	室屋 泰三 (主任研究員)	26.3.2	国立新美術館	

「Peinture et ornement : les intérieures intimes d'Edouard Vuillard dans les années 1890 (絵画と装飾: 1890年代におけるエドゥアール・ヴュイヤールの親密な室内空間)」	パリ第8大学・東京大学主催日仏研究発表会	横山 由季子 (アソシエイトフェロー)	26.3.20 26.3.21	パリ, サン＝ドニ歴史芸術博物館, パリ高等師範学校	
---	----------------------	------------------------	--------------------	----------------------------	--

[雑誌等論文掲載]

学術書籍, 研究報告書等の発行

タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
美術批評家著作選集 第15巻 今泉篤男 植村鷹千代	谷口 英理 (アソシエイトフェロー)	ゆまに書房	25.9

【査読有り】学術誌論文掲載

タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
「眼と手の記憶の交錯:ピエール・ボナールの「傘を持つ女」連作(1894-1898年)」	横山 由季子 (アソシエイトフェロー)	『Résonnances』(第8号)(東京大学教養学部, フランス語・イタリア語部会, 『Résonnances』編集委員会)	26.1

学術誌以外 (研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞等) における発表

タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
美術の日本近現代史	谷口 英理 (アソシエイトフェロー)	『美術の日本近現代史』(東京美術)	26.1
「スーラの点描と分割主義」	長屋 光枝 (主任研究員)	『暮らすめいと』(中日新聞東京本社)	25.9
『「イメージ」雑感—美術史学の立場から』	長屋 光枝 (主任研究員)	『月刊みんぱく』(国立民族学博物館)	26.2
『「イメージの力—国立民族学博物館コレクションにさぐる」展について』	長屋 光枝 (主任研究員)	『新美術新聞』1336号(美術年鑑社)	26.2
「ミュージアムへ行こう! 国立新美術館 人とアートが出会う場所」	西野 華子 (主任研究員)	『理大 科学フォーラム』(東京理科大学)	25.9
「加山又造《猫》」	西野 華子 (主任研究員)	『月刊美術』No.458(サン・アート)	25.11
“To See as Artists See: American Art from the Phillips Collection”	西野 華子 (主任研究員)	Phillips Collection Magazine (Phillips Collection)	26.2
特集「ポップ・アートをもう一度」(監修)	南 雄介 (副館長)	『サライ』誌 8月号	25.8
「作品でたどる軌跡」	南 雄介 (副館長)	『別冊太陽 横尾忠則 芸術にゴールはない』	25.9

「オルセー美術館展 印象派の誕生—描くことの自由—」	宮島 綾子 (主任研究員)	『美術の窓』第33巻第2号(通巻385号)(生活の友社)	26.2
「クローズアップ工芸」展における映像展示について	室屋 泰三 (主任研究員)	現代の眼 603号	25.12
「マティスやデ・キリコ、バクストラが手掛けたパレエ衣装たち」	本橋 弥生 (主任研究員)	『美術の窓』2月号(No.365)(生活の友社)	26.2
「グループワーク H 中学生の鑑賞～抽象的な作品を題材として～ サブファシリテーター感想」	吉澤 菜摘 (アソシエイトフェロー)	『平成25年度美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修 Web 報告』(独立行政法人国立美術館)	25.11
書評「ルーヴルの現在性、あるいは美術館の使命」 ジャック・ラング著/塩谷敬訳『ルーヴル美術館の戦い—グラン・ルーヴル誕生をめぐる攻防』	米田 尚輝 (研究員)	『未来』(562号)(未来社)	25.7
「モンドリアンとファン・ドゥースブルフのグラフィック・イメージ」	米田 尚輝 (研究員)	『引込線 2013』(引込線実行委員会)	25.11
「偶然の纏れ—今井龍満の絵画」	米田 尚輝 (研究員)	『今井龍満作品集—偶然を生きるものたち』(求龍堂)	26.3

ウ インターネットによる調査研究成果の発信

(ア) 東京国立近代美術館

「研究紀要」の収録論文をホームページ上に掲載した。

(イ) 国立西洋美術館

- ・国立西洋美術館ニュース ZEPHYROS をホームページ上に掲載した。
- ・科学研究費助成事業「海外における松方コレクション関連資料の収集と公開」の研究成果の一部として、松方コレクションに関する展覧会リストである「松方コレクションに関する展覧会：1922-1960年」をホームページ上で発信した。

(ウ) 国立新美術館

「国立新美術館活動報告」及び「国立新美術館ニュース」を、ホームページ上で公開した。

② 所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催

ア 東京国立近代美術館

(工芸館)

セミナー・シンポジウム名	萩の陶芸家たち展 記念座談会	開催日	平成25年4月5日
場所	山口県立萩美術館・浦上記念館	聴講者数	65人
講師・パネリスト等の	外館和子(美術評論家), 徳留大輔(山口県立萩美術館・浦上記念館 専門学芸員),		

氏名(職名)	唐澤昌宏(東京国立近代美術館工芸課長)
内容	萩陶芸家協会設立20周年を記念して開催した「萩の陶芸家たち展」に伴う関連行事。萩における陶芸制作と現代陶芸界との関わりを、協会の20年の歩みと照らし合わせながら検証し、将来の萩における陶芸制作について論議した。

セミナー・シンポジウム名	座談会「東京オリンピックの証言者」	開催日	平成25年5月12日
場所	東京国立近代美術館	聴講者数	71人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	勝井三雄(グラフィックデザイナー), 小西啓介(グラフィックデザイナー), 道吉剛(デザインディレクター)		
内容	東京オリンピックのデザインワークに関わった三者に、東京オリンピックのデザイン史的な意義や当時のエピソードなどを聞いた。「東京オリンピック1964デザインプロジェクト」展関連事業。		

セミナー・シンポジウム名	対談「山田和×唐澤昌宏」	開催日	平成25年9月8日
場所	福井県陶芸館	聴講者数	48人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	山田和(陶芸家), 唐澤昌宏(東京国立近代美術館工芸課長)		
内容	「山田和展～出会いと研鑽, 極めた技は未踏の新境地へ～」に伴う関連行事。陶芸家・山田和の作陶活動について、過去から現在, そして未来の展望までを聞いた。		

セミナー・シンポジウム名	Tradizione e attualita' della ceramic giapponese	開催日	平成25年10月15日
場所	ファエンツァ国際陶芸美術館(イタリア)	聴講者数	60人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	伊勢崎晃一郎(陶芸家), Jeff Shapiro(陶芸家), 唐澤昌宏(東京国立近代美術館工芸課長)		
内容	イタリア・ファエンツァで開催された第11回十月日本祭(OTTOBRE Giapponese)に伴う関連行事。備前で陶芸を学んだアメリカの陶芸家, ジェフ・シャピロと備前の陶芸家, 伊勢崎晃一郎は兄弟弟子であるとともに師弟関係にあることから, 日本の伝統的窯業地である備前を通して, 日本の陶芸における伝統と現在性について語った。		

セミナー・シンポジウム名	公開シンポジウム「伝統工芸の“今”, そして“未来”を考える」	開催日	平成26年1月12日
場所	東京国立近代美術館 講堂	聴講者数	121人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	田口義明(漆芸家), 藤沼昇(重要無形文化財「竹工芸」の保持者), 前田昭博(重要無形文化財「白磁」の保持者), 唐澤昌宏(東京国立近代美術館工芸課長)		

内容	個人作家的工芸制作と伝統工芸の関わりについて、各氏の制作思考をもとに伝統工芸の現状を把握するとともに、未来の伝統工芸の在り方を探った。日本伝統工芸展が 60 回目の節目を迎えたのを記念して開催した「工芸から KŌGEI へ」展関連事業。
----	--

セミナー・シポジウム名	鼎談	開催日	平成 26 年 2 月 22 日
場所	菊池寛実記念 智美術館	聴講者数	105 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	伊勢崎淳(重要無形文化財「備前焼」の保持者)、隠崎隆一(陶芸家)、唐澤昌宏(東京国立近代美術館工芸課長)		
内容	「隠崎隆一 事に仕えて」展に伴う関連行事。隠崎隆一の師である伊勢崎淳とともに、隠崎の作品や備前焼の現在と未来について聞いた。		

(フィルムセンター)

セミナー・シポジウム名	研究講演会「早稲田大学演劇博物館の映画コレクション」	開催日	平成 25 年 11 月 2 日
場所	フィルムセンター大ホール	聴講者数	203 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	司会：入江良郎(フィルムセンター事業推進室長(主任研究員)) 講演者：竹本幹夫(早稲田大学文学学術院教授)、入江良郎、上田学(日本学術振興会特別研究員 PD)、児玉竜一(早稲田大学文学学術院教授)、板倉史明(神戸大学大学院国際文化学研究科准教授)、岡田秀則(フィルムセンター情報資料室長(主任研究員))、金子健(文化庁文化財部伝統文化課芸能部門文部科学技官)		
内容	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館との共催で同博物館の貴重な映画コレクションを紹介する「ユネスコ『世界視聴覚遺産の日』記念特別イベント 伝説の映画コレクション 早稲田大学演劇博物館所蔵フィルム特別上映会」の会期中に、早稲田大学演劇映像学連携研究拠点との共催による研究講演会「早稲田大学演劇博物館の映画コレクション」を開催した。この講演会は、早稲田大学演劇映像学連携研究拠点でフィルムセンターの主任研究員が代表を務めた調査プロジェクト「演劇博物館所蔵映画フィルムの調査、目録整備と保存活用」(平成 21~25 年度)の研究結果発表を行うもので、演劇と映画の研究者が共同で、演劇博物館の映画収集の軌跡や主要なコレクションについて論じた。		

イ 京都国立近代美術館

セミナー・シポジウム名	講演会「洋画家たちの近代」	開催日	平成 26 年 2 月 2 日
場所	川越市立美術館	聴講者数	62 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	平井章一(主任研究員)		
内容	国立美術館巡回展開催に伴い、講演会を実施した。		

セミナー・シポジウム名	講演会「洋画家たちの近代」	開催日	平成 26 年 3 月 1 日
-------------	---------------	-----	-----------------

場所	佐倉市立美術館	聴講者数	40人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	平井章一(主任研究員)		
内容	国立美術館巡回展開催に伴い、講演会を実施した。		

エ 国立国際美術館

セミナー・シンポジウム名	あなたの肖像—工藤哲巳回顧展プレ・イベント	開催日	平成25年6月15日
場所	国立国際美術館	聴講者数	105人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	島敦彦(国立国際美術館学芸課長), 榊田倫広(東京国立近代美術館研究員), 中井康之(国立国際美術館主任研究員), 池田亨(青森県立美術館学芸主幹), 福元崇志(国立国際美術館研究補佐員)		
内容	「あなたの肖像—工藤哲巳回顧展」の開催に先立つプレ・イベントとして、工藤哲巳の作品、行為、言動をめぐる研究報告会を開催した。調査研究の発表に加え、工藤が1969年に鋸山(千葉県房総)で制作した岩壁モニュメントの記録映画「脱皮の記念碑 工藤哲巳の記録」(1970年)の上映も行った。		

(2) 国内外の美術館等との連携

① シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築

ア 東京国立近代美術館

(本館)

セミナー・シンポジウム名	あなたの肖像—工藤哲巳回顧展プレ・イベント	開催日	平成25年6月23日
場所	東京国立近代美術館講堂	聴講者数	128人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	島敦彦(国立国際美術館副館長), 榊田倫広(東京国立近代美術館研究員), 中井康之(国立国際美術館主任研究員), 飯田高誉(青森県立美術館美術統括監), 池田亨(青森県立美術館学芸主幹)		
内容	工藤哲巳に関する3館での共同調査研究の成果報告		

(工芸館)

セミナー・シンポジウム名	社会システムのなかのオリンピックとデザイン	開催日	平成25年4月21日
場所	東京国立近代美術館	聴講者数	65人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	ジリー・トラガヌ(パーソンズ美術大学), 長田謙一(名古屋芸術大学), 暮沢剛巳(東京工科大学), 吉本光宏(ニッセイ基礎研究所), 関雅広(東京都生活文化局), 佐藤道信(東京芸術大学), 木田拓也(東京国立近代美術館)		
内容	オリンピックにおけるデザイン/デザイナーの役割, オリンピックにおける文化プログラムについての研究発表と討議。「東京オリンピック1964デザインプロジェクト」展		

	関連事業，科研（基盤 A）「社会システム＜芸術＞とその変容」。
--	---------------------------------

（フィルムセンター）

セミナー・シホジウム名	研究講演会「早稲田大学演劇博物館の映画コレクション」【再掲】	開催日	平成 25 年 11 月 2 日
場所	フィルムセンター大ホール	聴講者数	203 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	司会：入江良郎（フィルムセンター事業推進室長（主任研究員）） 講演者：竹本幹夫（早稲田大学文学学術院教授），入江良郎，上田学（日本学術振興会特別研究員 PD），児玉竜一（早稲田大学文学学術院教授），板倉史明（神戸大学大学院国際文化学研究科准教授），岡田秀則（フィルムセンター情報資料室長（主任研究員）），金子健（文化庁文化財部伝統文化課芸能部門文部科学技官）		
内容	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館との共催で同博物館の貴重な映画コレクションを紹介する「ユネスコ『世界視聴覚遺産の日』記念特別イベント 伝説の映画コレクション 早稲田大学演劇博物館所蔵フィルム特別上映会」の会期中に，早稲田大学演劇映像学連携研究拠点との共催による研究講演会「早稲田大学演劇博物館の映画コレクション」を開催した。この講演会は，早稲田大学演劇映像学連携研究拠点でフィルムセンターの主任研究員が代表を務めた調査プロジェクト「演劇博物館所蔵映画フィルムの調査，目録整備と保存活用」（平成 21～25 年度）の研究成果発表を行うもので，演劇と映画の研究者が共同で，演劇博物館の映画収集の軌跡や主要なコレクションについて論じた。		

イ 京都国立近代美術館

セミナー・シホジウム名	「映画をめぐる美術—マルセル・ブロータースから始める」展 連続アーティスト・トーク	開催日	平成 25 年 9 月 27 日
場所	京都国立近代美術館 講堂	聴講者数	70 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	ドミニク・ゴンザレス=フォルステル（作家） 田中功起（作家） アナ・トーフ（作家）		
内容	展覧会「映画をめぐる美術—マルセル・ブロータースから始める」開催に際し，出品作家によるアーティスト・トークを実施した。		

セミナー・シホジウム名	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 オープンリサーチプログラム [レクチャー/パフォーマンス] ドミニク・ゴンザレス=フォルステル 「M.2062 (Scarlett)」	開催日	平成 25 年 9 月 6 日
場所	京都府京都文化博物館	聴講者数	142 人

講師・パネリスト等の氏名(職名)	ドミニク・ゴンザレス=フォルステル (作家)
内容	京都国際現代芸術祭組織委員会，一般社団法人京都経済同友会，京都府，京都市が主催する国際展「PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015」において，当館の平成 25 年度展覧会「映画をめぐる美術—マルセル・ブローターズから始める」の出品作家であるドミニク・ゴンザレス=フォルステルのオープンリサーチプログラムが当館協力，国際交流基金後援により実施された。

ウ 国立西洋美術館

セミナー・シンポジウム名	国際シンポジウム「ヨーロッパ絵画との出会い—近代ギリシャと日本の場合—」	開催日	平成 25 年 6 月 8 日
場所	国立西洋美術館講堂	聴講者数	約 100 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	主催：近代ギリシャ絵画研究会，共催：国立西洋美術館 [発表] 木戸雅子（共立女子大学教授），ファニ・マリア・チガク（ギリシャ，ベナキ美術館近代絵画・版画部門主任研究員），鈴木杜幾子（明治学院大学教授），大原まゆみ（明治学院大学教授），アンドニオス・コティディス（アリストテリス・テサロニキ大学教授），佐藤道信（東京藝術大学教授），児島薫（実践女子大学教授） [パネルディスカッション] 司会：木戸雅子，パネリスト：馬淵明子（日本女子大学教授（当時））		
内容	ギリシャ独立後，この国の画家たちがどのようにヨーロッパ各地の美術の影響を受け，またいかにしてアイデンティティを確立したのかが発表・議論された。同時に，比較例として日本の近代美術についての発表も行われた。		

エ 国立国際美術館

セミナー・シンポジウム名	あなたの肖像—工藤哲巳回顧展 国際シンポジウム「工藤哲巳をめぐって」	開催日	平成 25 年 11 月 23 日
場所	国立国際美術館	聴講者数	81 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	ドリュン・チョン(M+美術館チーフ・キュレーター)，富井玲子(美術史家)，ペドロ・エルバー(コーネル大学ロマンス語学科アシスタント・プロフェッサー)，島敦彦(国立国際美術館副館長)，中井康之(国立国際美術館主任研究員)，		
内容	国際交流基金との共催により，海外から専門家を招き，工藤哲巳の特異な世界について，幅広い見地から意見を交わし，理解を深めた。		

セミナー・シンポジウム名	NMAO 国際シンポジウム：現代美術をコレクションするとは？	開催日	平成 26 年 3 月 1 日
場所	国立国際美術館	聴講者数	89 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	パトリシア・スミッセン(テート保存プログラム担当首席)，デボラ・ポッター(テートコレクション保存首席，コレクション部門ディレクター代理)，加藤弘子(東京都現代美術		

	館企画係長), 丹羽晴美(東京都写真美術館事業企画係長), 相澤邦彦(兵庫県立美術館保存・修復グループ学芸員), 植松由佳(国立国際美術館主任学芸員)
内容	美術館コレクションにおける近・現代美術作品の受入・展示・保存・修復をテーマとした国際シンポジウム。

セミナー・シンポジウム名	NMAO ラウンドテーブル・ワークショップ	開催日	平成 26 年 3 月 2 日
場所	国立国際美術館	聴講者数	21 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	パトリシア・スミッセン(テート保存プログラム担当首席), デボラ・ポッター(テートコレクション保存主席, コレクション部門ディレクター代理), 植松由佳(国立国際美術館主任研究員), 他		
内容	前日に開催したシンポジウムの内容を引き継ぎ, 関係者のみの参加により日本の国内事情に照らし合わせた, より実地的な議論を展開した。		

セミナー・シンポジウム名	現代美術の保存修復ワークショップ	開催日	平成 26 年 3 月 25 日
場所	国立国際美術館	聴講者数	6 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	アントニオ・ラーヴェア(イタリア国際修復機関副会長/ヴェネチア国立修復研究所教授), 岡田温司(京都大学大学院人間・環境学研究科教授), 他		
内容	現代美術修復の世界的権威であるアントニオ・ラーヴェア教授を招いて, 講演, 及び質疑応答の場を設け, 既存の修復学や美術館における保存学では網羅しきれない数々の議題について議論を深めた。		

オ 国立新美術館

セミナー・シンポジウム名	「黒川紀章メモリアル INTER-DESIGN FORUM TOKYO 2013『共生のアジアへ』	開催日	平成 26 年 10 月 11 日～10 月 13 日
場所	国立新美術館	聴講者数	737 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	<p>10 月 11 日「アジアの世紀」: マリ・クリスティーヌ(異文化コミュニケーター), 水野誠一(ソーシャルプロデューサー), 中沢新一(人類学者), 長谷川祐子(東京都現代美術館チーフキュレーター), 黒川雅之(建築家), 遠藤秀平(建築家), 千住明(作曲家), 金光裕(建築家), 中島信也(CM 演出家), 藤巻幸大(ブランディング・プロデューサー), ペマ・ギャルポ(桐蔭横浜大学・大学院教授), 秋尾晃正(一般社団法人国際センター理事長), 波頭亮(経営コンサルタント), 青木保(館長)</p> <p>10 月 12 日「思想と建築」: 蜷川有紀(画家・女優), 八束はじめ(建築家), 三枝成彰(作曲家), 南後由和(社会学者), 手塚貴晴(手塚建築研究所代表), 鈴木エドワード(建築家), 豊川斎赫(建築史家), 楨文彦(建築家), 團紀彦(建築家), 宮本佳明(建築家), 竹山聖(建築家)</p> <p>10 月 13 日「アートと美術館」: アーロン・ベツキー(シンシナティ美術館館長), 日</p>		

	比野克彦（アーティスト）、宮島達男（現代美術家）、森司（東京アートポイント計画ディレクター）、土佐尚子（京都大学教授）、中津良平（シンガポール国立大学教授）、寺坂公雄（日本芸術院会員）、妹島和世（建築家）、浅田彰（京都造形芸術大学教授）、南雄介（副館長・学芸課長）、青木保（館長）
内容	主催：一般社団法人日本文化デザインフォーラム、国立新美術館 2013年は国立新美術館の設計を手がけた黒川紀章氏の七回忌にあたる。これを機に、黒川氏を中心に1980年に創設された日本文化デザイン会議（1990年より日本文化デザインフォーラム）と共催で、建築、美術、文化、デザインなど各方面で活躍する専門家を国内外から招いた、3日間にわたるフォーラムを開催した。3日間を通じたテーマとして、黒川氏が生涯を通じて提唱した「共生の思想」と、主だった活動の場とした「アジア」を掲げ、初日は「アジアの世紀」、2日目は「黒川紀章多面体」、そして最終日は「建築と美術館の未来」を主題に、多彩な出演者による講演や対談、ショート・トークを展開した。メタボリズム運動をはじめとする黒川氏の業績を振り返るとともに、アジアから発信する新たな建築や美術館像について活発な議論を交わし、これからのアジアにおける文化発展の在り方を探る機会となった。

セミナー・シンポジウム名	「新たなイメージ論に向けて」	開催日	平成26年2月22日
場所	国立新美術館講堂	聴講者数	45人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	水沢勉（神奈川県立近代美術館館長）、水野千依（京都造形芸術大学教授）、長屋光枝（主任研究員）、青木保（館長）		
内容	「イメージの力—国立民族学博物館コレクションにさぐる」展は、地域や時代によってイメージを分類するのではなく、共通した効果や機能に着目し、人間とイメージとのダイナミックな交流を検証している。同時にこれは、日本及び西洋の近現代美術を中心に展覧会を開催してきた国立新美術館の活動を相対化する試みでもある。本展覧会に合わせて企画したシンポジウム「新たなイメージ論に向けて」では、西洋の美術史学が長い時間をかけて形成してきたイメージと人間との関係を問い直すとともに、そこから生まれる新たな視座を通じて、イメージが持つ根源的な力を再考した。		

② 我が国の作家、美術作品による展覧会開催のための海外の美術館との連携・協力

ア 東京国立近代美術館

本館では、第55回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展において、蔵屋美香（美術課長）が「キュレーター」として参加した田中功起の日本館での個展「abstract speaking: sharing uncertainty and collective acts」が、特別表彰を受賞した。

工芸館では、モリカミ博物館・日本庭園「Contemporary KOGEI Styles in Japan（現代の日本工芸）展」（主催：文化庁、外務省、在マイアミ総領事館、モリカミ博物館・日本庭園、会期：2013年10月8日～2014年2月23日）に特別協力を行った。

フィルムセンターでは、フォンダツィオーネ・チネテカ・ディ・ボローニャ（FIAF加盟機関）との共催による第27回チネマ・リトロバート映画祭・特集企画「日本が声を上げる！ パート2：歌手とサムライ」において、P.C.L.映画製作所、J.O.トーキー、太秦発声映画等、日本におけるトーキー映画の発展に寄与した制作会社による初期トーキー映画9本を、すべて英語字幕付プリントで提供し、1930年代の日本映画における先駆的、

実験的な試みについて、映画祭に参加した世界各国の研究者やアーキビストたちの認識を高めることができた。ニューヨーク近代美術館、ドイツ・キネマテーク（共に FIAF 加盟機関）共催による映画の撮影・照明技法にスポットライトを当てた上映企画「影の美学」に対し、両会場併せて 14 本の映画フィルムを貸与するとともに、ベルリンでの上映に際してはフィルムセンター主幹がシンポジウム等に出席し、世界の映画史における日本映画の多大なプレゼンスについて、映画祭に参加した多くの観客の認識を促すことができた。

イ 京都国立近代美術館

国際交流基金との共催で、ローマ国立近代美術館において「近代日本画と工芸の流れ 1868-1945」展を開催し（2013 年 2 月 26 日～5 月 5 日）、尾崎正明（前館長）及び松原龍一（学芸課長）が、企画・作品選定を担当した。国内の美術館ほかが所蔵する我が国の日本画・工芸作品によって計 170 点で構成し、我が国の近代美術作品を海外で紹介する貴重な機会となった。

ウ 国立新美術館

平成 27 年度に開催を予定している、韓国国立現代美術館と共同で企画し、韓国と日本を巡回する展覧会「アーティスト・ファイル アジア・シリーズ（仮称）」展について、平成 25 年度から準備に着手した。平成 26 年度は担当者がそれぞれの国を行き来することにより、展覧会の実現に向けての打ち合わせ及び作家の調査を重ねる予定である。

③ その他海外の美術館との連携・協力

国立美術館本部では、第 23 回 ICOM 大会（ICOM Rio 2013）、アジア・ヨーロッパ博物館ネットワーク（Asia-Europe Museum Network, ASEMUS）、第 7 回アジア美術館長会議などの国際会議へ出席した。

日豪美術館学芸員交流では、本橋弥生（国立新美術館主任研究員）が渡豪し、オーストラリア現代美術館、オーストラリア国立美術館などを訪問した。オーストラリア国立美術館では、平成 26 年度に開催する「魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展」の打ち合わせ及び作品調査などを行った。

(3) 国内外の美術館及びフィルム・アーカイブ等との保存・修復に関する情報交換

ア 東京国立近代美術館

(フィルムセンター)

UCLA フィルム・アンド・テレビジョン・アーカイブ、ジョージ・イーストマン・ハウス、フィルムアルヒーフ・オーストリア、福岡市総合図書館（以上 FIAF 加盟機関）、神戸映画資料館、映画製作各社、現像所等より、映画フィルムに関する新たな所在情報を得た。

フォンダツィオーネ・チネテカ・ディ・ボローニャ（FIAF 加盟機関）、映画製作各社、現像所、映画フィルム製造会社、映画関連機器メーカー等との間で、映画フィルムの保存・修復に関する調査や情報交換を行った。また、研究者及び補佐員が、「Memory! 第 1 回国際映画遺産フェスティバル」（カンボジア・プノンペン）、「第 17 回東南アジア太平洋地域視聴覚アーカイブ連合会議」（タイ・バンコク）、「映画の復元と保存に関するワークショップ」、「恵比寿映像祭」、「映団連セミナー」等で行われたシンポジウムやワークショップに参加することで、参加者との情報交換に努めた。

映画資料館・図書館における映画資料の収集・保存・公開事業の展開について情報交換を行った（北九州市松永文庫，八丁座映画図書館）。

イ 国立国際美術館

NMAO ラウンドテーブル／ワークショップを開催した（平成 26 年 3 月 2 日）。前日に開催した「NMAO 国際シンポジウム：現代美術をコレクションするとは？」に続き，2 日目は，美術関係者を対象として，英国テートからの 2 名のゲストとともに，参加者によるディスカッションを行った。前日のシンポジウムを受け，日本の国内事情に照らし合わせて，保存・修復に関するより実際的な議論を行った。

(4) 所蔵作品の貸与等

① 作品の貸与

館名	貸出件数	貸出点数	特別観覧件数	特別観覧点数
東京国立近代美術館（本館）	71	252	225	701
東京国立近代美術館（工芸館）	27	257	47	147
京都国立近代美術館	64	346	83	222
国立西洋美術館	8	55	91	306
国立国際美術館	28	413	25	62
計	198	1,323	471	1,438

京都国立近代美術館では，神戸市立小磯記念美術館で開催された特別展「関西学院の美術家～知られざる神戸モダニズム～」に 41 点の作品を貸与した。愛知県陶磁美術館の開館 35 周年記念 企画展「モダニズムと民藝 北欧のやきもの：1950's-1970's デンマーク、スウェーデン、ノルウェー、フィンランド」に「協力」名義で 26 点の作品を貸与したほか，笠岡市竹喬美術館で開催された「霊と艶をもとめて 村上華岳」展に寄託作品を含めて 27 点の作品を貸与した。

国立西洋美術館では，昨年に比べ貸出件数が減少しているが，借用依頼の多い 19 世紀フランス風景画の多くがポーラ美術館との共同企画である「国立西洋美術館×ポーラ美術館 モネ，風景をみる眼—19 世紀フランス風景画の革新」展へ出品されたことが主な理由である。一方，同展のため，ポーラ美術館に対しては，モネの全所蔵作品をはじめとする多数の作品を貸与した。

② 映画フィルム等の貸与

種別	貸出		特別映写観覧		複製利用	
	件数	本数	件数	本数	件数	本数
映画フィルム	75	175	77	241	41	438

種別	貸出		特別観覧	
	件数	点数	件数	点数
映画関連資料	5	166	35	446

映画フィルムの貸与については，海外及び国内への貸与，あるいは共同主催事業における提供及び通常の貸与に分類できる。海外への協力のうち，共同主催事業では，平成 24 年度に引き続き，フォндаツィオーネ・チネテカ・ディ・ボローニャ（FIAF 加盟機関）との共

催による第 27 回チネマ・リトロバート映画祭・特集企画「日本が声を上げる！ パート 2：歌手とサムライ」において、日本の最初期トーキー映画 9 本の映画フィルムを提供した。ニューヨーク近代美術館、ドイツ・キネマテーク（共に FIAF 加盟機関）共催による映画の照明技法にスポットライトを当てた上映企画「影の美学」に対し、両会場併せて 14 本の映画フィルムを貸与した。日本の初期アニメーション映画については、チネテカ・ナツィオナーレ（イタリア・FIAF 機関）における生演奏付上映会に対し、6 本の映画フィルムを貸与した。また、英国映画協会サウスバンク（FIAF 機関）とエジンバラ国際映画祭が共催した、フランス人監督ジャン・グレミヨンの回顧展には、小宮登美二郎コレクションから不燃化したプリント『燈台守』（1929 年）を貸与し、フィルムセンターによる幅広い映画保存活動の成果を、世界中の研究者や愛好者に示すことができた。

国内での協力のうち、共同主催事業では、平成 24 年度に引き続き京都国立近代美術館との間で開催した「NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films」において、『銀輪』[デジタル復元版]（1956 年）等日本映画 11 本と『女だけの都』（1936 年）等外国映画 11 本を、国立国際美術館との間で開催した「第 7 回中之島映像劇場」においては、『くもとちゅうりっぷ』[デジタル復元版]（1943 年）等日本アニメーション映画 45 本を提供し、関西における所蔵フィルムの定期的な上映拠点として堅固な地盤を築くことができた。また、一般社団法人コミュニティシネマセンターとの間で開催した「蘇ったフィルムたち 東京国立近代美術館フィルムセンター復元作品特集」巡回事業では、近年の復元事業の成果となる日本映画 34 本を提供した。通常の貸与では、福岡市総合図書館（FIAF 機関）、神戸映画資料館、川喜多記念映画文化財団、仙台市市民文化事業団、山口市文化振興財団等が主催する上映会や、湯布院映画祭、カナザワ映画祭、高崎映画祭等の映画祭、並びに神保町シアター、新文芸坐、ラピュタ阿佐ヶ谷等の名画座における特集上映に対しては、番組において欠くことのできない作品について、所蔵プリントの貸与を行った。

特別映写観覧については、大学等教育研究機関、映画関連団体、映画及びテレビ番組製作会社、映画・映像に係る非営利法人等による調査、研究、研修等に、所蔵プリントの試写を通して寄与した。

複製利用については、著作権者等による運用、美術館・博物館等の収集作品や展示作品の充実、映像作品や番組における資料としての映像提供等に寄与したが、平成 24 年度テレビ朝日映像から申請を受けた、戦後日本ニュース映画を代表するシリーズ『東映ニュース』の原版フィルムへの複製利用が、本年度も引き続き行われ、3 回の申請に際し計 325 本のフィルムを提供した。

映画資料の貸出については、日本でも数少ない常設の映画関連展示施設である鎌倉市川喜多映画記念館へ貸出を行った。

（5）美術教育の一翼を担うナショナルセンターとしての活動

① 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修の実施

8 年目となる「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」は、より多くの方々と研修成果を共有するため、従来冊子として発行してきた研修記録を平成 23 年度からウェブサイトで公開しているが、平成 25 年度も引き続き公開した。また、本研修において「教員免許状更新講習」を実施した。

- ・参加人数：99 名（小中学校教諭 63 名、指導主事 8 名、学芸員 28 名）
- ・会 期：平成 25 年 7 月 29 日、30 日（2 日間）
- ・会 場：東京国立近代美術館（7 月 29 日）、国立新美術館（7 月 30 日）
- ・教員免許状更新講習：受講者 10 名（全員に履修証明書を授与）

東京国立近代美術館及び国立西洋美術館では、東京都図画工作研究会、東京都現代美術館、東京都美術館との共催で教員研修を実施した。

- ・平成 25 年 6 月 21 日 鑑賞授業（於：東京国立近代美術館）
- ・平成 25 年 6 月 28 日 公開授業（於：世田谷区立上北沢小学校）
- ・平成 25 年 7 月 1 日 公開授業・研修会（於：東京国立近代美術館）

学習指導要領及び学校の授業とつながる美術館利用についての研修の一環として、東京国立近代美術館と上北沢小学校では、美術館への複数回来館をともなう連携授業を行い、休館日を使って研修会を開催しその成果を発表した。

京都国立近代美術館では、京都市教育委員会、京都市図画工作教育研究会との共催で、小学校教員を対象に鑑賞教育の指導力向上に向けた講座を開催した。講演会、展覧会鑑賞、グループワーク等を実施し、76名の参加者があった。

② 先駆的・実験的な教材やプログラムの開発

ア 国立美術館全体としての取組

各館から学校へ、鑑賞教材「国立美術館アートカード」の貸出をするほか、教員の研修などの機会をとらえて紹介している。平成 25 年度には各館（国立新美術館を除く）のミュージアムショップと連携協力し、アートカードの増刷を行った。

イ 東京国立近代美術館

工芸館では所蔵作品展「ボディ³」開催に際して、中学生以下を対象としたセルフガイドを作成した。1つのリーフレットで異なる対象年齢の需要に応えるために、内容の難度に応じて文字の級数に差をつけるなどの工夫を試みた。

(6) 美術館活動を担う中核的人材の育成

館名		インターンシップ受入数	博物館実習受入数
東京国立近代美術館	本館	6	—
	工芸館	3	6
	フィルムセンター	1	15
京都国立近代美術館		4	—
国立西洋美術館		7	—
国立国際美術館		7	—
国立新美術館		9	—
計		37	21

(7) 全国的美術館等との連携・人的ネットワークの構築

① 企画展・上映会等の共同主催と共同研究

館名		共同主催件数	共同研究件数
東京国立近代美術館	本館	3	4
	工芸館	0	0
	フィルムセンター	7	1
京都国立近代美術館		5	5
国立西洋美術館		3	5
国立国際美術館		5	5

国立新美術館	4	4
計	27	24

特記事項（共同研究によって特に得られた成果等）

(ア) 東京国立近代美術館

(本館)

「あなたの肖像－工藤哲巳回顧展」では、展覧会に先駆けて主催3館担当研究員による研究発表会をプレ・イベントとして開催した。

(フィルムセンター)

- ・「NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films」では、京都国立近代美術館と協議しながら作品の選定、提供を行った。
- ・映画美術資料を調査及び整理するとともに、その画像をデジタル化し、若手美術監督等の育成及び映画美術の研究に活用することを目的とする「日本映画美術遺産プロジェクト」を協同組合日本映画・テレビ美術監督協会と共同で進めている。

(イ) 京都国立近代美術館

東京国立近代美術館フィルムセンターと共催で「チェコの映画ポスター」展を開催したほか、同館と共催の映画会「MoMAK Films」を5回（計10日）開催した。

(ウ) 国立西洋美術館

共同主催による企画展等（3件3機関）については、以下のとおり実施した（括弧内は共同主催機関）。

1. 「ラファエロ」（フィレンツェ文化財・美術館特別監督局）
2. 「ソフィア王妃芸術センター所蔵 内と外－スペイン・アンフォルメル絵画の二つの『顔』」（国立ソフィア王妃芸術センター）
3. 「国立西洋美術館×ポーラ美術館 モネ、風景をみる眼－19世紀フランス風景画の革新」（ポーラ美術館）

共同研究による企画展等（5件6機関）については、以下のとおり実施した（括弧内は共同研究機関）。

1. 「ラファエロ」（フィレンツェ文化財・美術館特別監督局）
2. 「システーナ礼拝堂 500年祭記念 ミケランジェロ展－天才の軌跡」（カーサ・ブオナローティ、福井県立美術館）
3. 「ル・コルビュジエと20世紀美術」（ギャラリー・タイセイ）
4. 「ソフィア王妃芸術センター所蔵 内と外－スペイン・アンフォルメル絵画の二つの『顔』」（国立ソフィア王妃芸術センター）
5. 「国立西洋美術館×ポーラ美術館 モネ、風景をみる眼－19世紀フランス風景画の革新」（ポーラ美術館）

(エ) 国立国際美術館

「美の響演 関西コレクションズ」では大阪市立近代美術館建設準備室、京都国立近代美術館、滋賀県立近代美術館、兵庫県立美術館、和歌山県立近代美術館の各館と、「フランス国立クリュニー中世美術館所蔵《貴婦人と一角獣》展」及び「アンドレアス・グルス

キー展」では国立新美術館と、「あなたの肖像—工藤哲巳回顧展」では東京国立近代美術館及び青森県立美術館と共同研究を行った。特に、「美の響演 関西コレクションズ」については、作品の貸出、展示、図録の制作等、関西圏の6美術館の連携と協力により展覧会が実現したことは特筆すべきである。

また、上映会については、東京国立近代美術館フィルムセンターとの共催により「第7回中之島映像劇場日本の漫画映画の誕生と発展 草創期～1946年」を開催した。

(オ) 国立新美術館

「カリフォルニア・デザイン 1930-1965—モダン・リビングの起源—」ではロサンゼルス・カウンティ美術館と、「フランス国立クリュニー中世美術館所蔵『貴婦人と一角獣』展」ではフランス国立クリュニー中世美術館、国立国際美術館と共同研究及び共同主催を行った。「印象派を超えて—点描の画家たち ゴッホ、スーラからモンドリアンまで」展ではクレラー＝ミュラー美術館、愛知県美術館と共同研究を、広島県立美術館と共同研究及び共同主催を行った。「イメージの力—国立民族学博物館コレクションにさぐる」展では国立民族学博物館と共同研究及び共同主催を行った。

② キュレーター研修

館名	受入人数
東京国立近代美術館（本館・工芸館）	2
京都国立近代美術館	1
国立西洋美術館	1
国立国際美術館	0
国立新美術館	0
計	4

(8) 我が国の映画文化振興の中核的機関としてのフィルムセンターの活動

① 国際フィルム・アーカイブ連盟 (FIAF) の正会員としての活動

スペイン・バルセロナで開催された第69回 FIAF 会議にフィルムセンター主幹及び研究員が出席した。開催時、運営委員・副会長であった主幹はイベント「第二世紀フォーラム」にパネリストとして出席するなど、連盟全体の運営、アジア地区グループ FAPA の会合開催以外でも主導的な役割を果たした。また、研究員の論文が FIAF 機関誌「映画保存ジャーナル」に掲載された。

② 日本映画情報システムの運営

文化庁が実施する「日本映画情報システム」については、文化庁主導で民間へ委託することで運営管理を行っている。フィルムセンターとしては、平成25年度も公開データベースへの接続に関する協力を行った。平成24年度に旧作の遡及登録はほぼ終了し、平成25年度からは新作情報のアップデートに移行した。

③ 所蔵映画フィルム検索システムの拡充

「所蔵映画フィルム検索システム」については、平成25年度中に日本劇映画のレコード337件を新たに公開し、公開件数は6,453件となった。

④ 映画関係団体等との連携

- ・国内団体との連携は、共催巡回事業を通じて、一般社団法人コミュニティシネマセンターとの連携及び実施会場となった広島市映像文化ライブラリー、川崎市市民ミュージアムへの協力を行った。映画フィルムの貸与を通じては、日本映像学会、川喜多記念映画文化財団、神戸映画資料館、記録映画保存センター、せたがや文化振興財団等への協力を行った。また、特別映写観覧を通じては、日本映画撮影監督協会、日本アニメーション協会、早稲田大学演劇博物館、首都大学東京、筑波大学、明治大学、立教大学、日本大学、桜美林大学、北九州市立大学等への協力を行った。
- ・海外団体との連携は、フォンダツィオーネ・チネテカ・ディ・ボローニャ（FIAF 加盟機関）との共催事業において、番組編成、カタログ執筆、プリント提供等を通じて、協力を行った。映画フィルムの貸与を通じては、韓国映像資料院、英国映画協会サウスバンク、ドイツ・キネマテーク、ミュンヘン映画博物館（ドイツ）、ベルギー王立シネマテーク、オーストリア映画博物館、ニューヨーク近代美術館、シネマテーク・ケベコワーズ（カナダ。以上 FIAF 加盟機関）、国際交流基金マニラ日本文化センター（フィリピン）等への協力を行った。また、特別映写観覧を通じては、ベルリン自由大学（ドイツ）、国立臺南藝術大學（台湾）等への協力を行った。
- ・日本映画・テレビ美術監督協会と連携して「日本映画美術遺産プロジェクト」を行い、映画美術資料のデジタル化と保存を進めている。また、シナリオ作家協会との協議により、同協会会員の旧蔵シナリオのフィルムセンターへの寄贈について検討が行われることとなった。

⑤ フィルムセンターの東京国立近代美術館からの独立の検討

平成 25 年度も館の内外で独立のための検討を行い、また、関連する資料作成や予算要求等を積極的に行ったが、必要な人員の確保が認められず、独立には至らなかった。

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務の効率化のための取り組み

(1) 各美術館の共通的な事務の一元化

引き続き、理事長の指示による事務局長のトップマネジメントの下、各館の事務組織が有機的に連携し、効果的・効率的な業務を遂行した。また、法人内で採用しているVPN（Virtual Private Network：暗号化された通信網）を用いたグループウェア及びテレビ会議システム、特にテレビ会議システムについては、定期的な会議等に積極的に活用している。

(2) 使用資源の削減

① 省エネルギー（5年計画中に5%の削減）

●使用量，使用料金の削減割合（対前年度比）

館名	使用量			使用料金		
	電気	ガス	合計	電気	ガス	合計
東京国立近代美術館本館	101.4%	98.2%	100.1%	102.1%	111.9%	105.6%
東京国立近代美術館工芸館	96.2%	—	96.2%	102.3%	—	102.3%
東京国立近代美術館フィルムセンター	82.1%	—	82.1%	91.7%	—	91.7%
東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館	98.4%	—	98.4%	125.2%	—	125.2%
京都国立近代美術館	95.8%	91.1%	94.9%	109.5%	102.1%	108.2%
国立西洋美術館	94.6%	94.9%	94.7%	106.2%	107.4%	106.7%
国立国際美術館	94.5%	—	94.5%	118.7%	—	118.7%
国立新美術館	98.0%	97.5%	97.8%	119.7%	110.9%	116.9%
計	96.4%	96.6%	96.4%	113.8%	109.7%	112.7%

※東京国立近代美術館工芸館・フィルムセンター・フィルムセンター相模原分館及び国立国際美術館は、ガス設備を設置していない。

※使用量の合計は、電気は一般電気事業者からの昼間買電を9.97GJ/千kWh、夜間買電を9.28GJ/千kWh、特定規模電気事業者からの買電を9.76GJ/千kWh、都市ガスを45GJ/千kWhに換算し得た熱量に0.0258kl/GJを乗じて得た原油換算量を、各施設の延床面積で除した値(原単位)を基礎とする(エネルギーの使用の合理化に関する法律施行規則に基づく)。

●特記事項（増減の理由等）

国立美術館全体においては、業務の特殊性から展覧会場や美術作品収蔵庫において一定の温湿度維持等が必要とされ削減が難しいものの、引き続き、美術作品のない区画における空調機の設定温度の適格化（夏季28℃、冬季19℃）、夏季における服装の軽装化、不使用設備機器類のこまめな停止及び職員等の意識の啓発によりエネルギーの削減に努めた。

また、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づき、エネルギー管理統括者の元で、省エネルギー計画策定等を行い、各館において可能な箇所から施設設備の改修を行い、省エ

エネルギー効果を高めた。特に、国立新美術館においては、引き続き、BEMS (Building and Energy Management System)により、詳細なエネルギーの使用量と室内環境の把握を行い、その情報を定例的に開催する省エネルギー推進会議へ報告し、省エネルギー対策に生かすなどの取り組みを行っている。

更に、平成 24 年度に引き続いて「2013 年度夏季の電力需給対策について (25 文科施第 47 号)」及び「2013 年度冬季の電力需給対策について (25 文科施第 318 号)」を踏まえた節電対策を実施した。具体的内容は以下のとおり。

(1) 設備・機器等の使用抑制

① 空調に係る節電

- ・部分的な運用，時間的な運用など柔軟に対応
- ・設定温度夏期 28℃，冬期 19℃を徹底（展示室及び収蔵庫等を除く）
- ・節電にも役立つ服装の励行
- ・ブラインドを調節し，夏期は直射日光を遮光，冬期は暖気を確保
- ・空調機のフィルター清掃

② 照明に係る節電

- ・執務室の照明は，最低基準の照度を確保しつつ大幅削減
- ・廊下，ロビー，階段等は，安全確保を優先し極力消灯
- ・昼休みの消灯を徹底
- ・白熱電球の原則使用禁止（代替品のない場合を除く）

③ エレベータ，エスカレータ

- ・必要最小限度の運転，階段利用の促進

④ 衛生設備に係る節電

- ・給湯室，洗面台，電気温水器等の利用時間，設定温度の変更
- ・自動販売機の消灯，設定温度の変更
- ・暖房便座，温水洗浄の停止
- ・便所温風器（手乾かし器）の停止

⑤ OA 機器等

- ・一定期間使用しない場合の電源の切断
- ・節電モードでの使用を徹底
- ・プリンタ，コピー機等の使用制限

⑥ その他

- ・ノー残業デーの推進
- ・冷蔵庫，電気ポット等，家電機器の使用制限
- ・冬期のハロゲンヒーター等の暖房機器の個人使用の禁止
- ・各テナントへの節電の協力要請
- ・サーバ室等個別空調機器の適切な温度設定

(2) 夏期休暇等の確実な取得

業務効率の維持等に留意しつつ，次の取組を推進

- ・夏期休暇の完全取得，夏期における年次休暇の計画的長期取得

(3) その他

- ・超過勤務の一層の縮減
- ・中長期の節電にも資する設備の設置等の検討及び着手
- ・夏季及び冬季における全館一斉休業日の実施

東京国立近代美術館本館の電気使用量は、平成 24 年度がリニューアル工事により、2 ヶ月半程度の期間休館をしていたため、電気使用量が少なかったことにより、前年度比で増加している。

東京国立近代美術館フィルムセンターの電気使用量の減少は、配管等改修工事により、8 月 8 日～10 月 30 日までの間、大ホール及び小ホールが休室していたためである。

なお、法人全体ではエネルギー使用量は 3.6%減少したが、使用料金は供給各社の値上げの影響により 12.7%の増加となっている。

② 廃棄物減量化

● 排出量，廃棄料金の削減割合（対前年度比）

館名	排出量			廃棄料金	
	一般廃棄物	産業廃棄物	合計	一般廃棄物	産業廃棄物
東京国立近代美術館本館	94.0%	70.3%	84.5%	94.0%	70.3%
東京国立近代美術館工芸館	79.9%	113.8%	84.7%	79.9%	113.8%
東京国立近代美術館フィルムセンター	111.8%	485.1%	330.3%	221.8%	278.8%
京都国立近代美術館	81.1%	93.3%	86.7%	—	60.7%
国立西洋美術館	134.6%	73.6%	111.2%	131.2%	72.4%
国立国際美術館	74.7%	27.7%	61.6%	79.8%	24.4%
国立新美術館	92.3%	160.4%	108.2%	88.1%	123.7%
計	100.1%	152.7%	116.4%	98.8%	127.0%

※京都国立近代美術館は、一般廃棄物の処理を清掃業者に一括して委託しているため、廃棄料金が算出できない。

※東京国立近代美術館フィルムセンターには、東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館を含む。

● 特記事項（増減の理由等）

国立美術館においては、開館日数や来館者数の増減による影響など、業務の性質上、廃棄物の計画的な削減が難しいものの、引き続き、事務・研究部門における電子メール、グループウェアの活用による通知文書の発信やサーバ保存文書の共同利用によるペーパーレス化、両面印刷の促進等による用紙の節減に努めるとともに、古紙の分別回収による再資源化を進めることにより、廃棄物の削減を図った。

廃棄物の排出量及び廃棄料金の増加は、来館者数の増加及び展覧会に使用した部材の廃棄に伴う増加といった一時的な要因によるものが主である。

東京国立近代美術館工芸館の産業廃棄物の排出量の増加は、虫害対策により 1 ヶ月半程度の長期休館を行い、その期間中に館内廃棄物の整理を行ったためである。

東京国立近代美術館フィルムセンター（相模原分館を含む）の一般廃棄物及び産業廃棄物の排出量の増加は、施設整備費補助金によって行われた配管等改修工事及び相模原分館収蔵庫増築等工事の影響により、一時的に廃棄物が増加したためである。

国立国際美術館の一般廃棄物の排出量の減少は、平成 25 年度より大阪市では資源化可能な紙類を一般廃棄物で排出することが禁止されたためである。産業廃棄物の排出量に比し廃棄料金が高価となっているのは、平成 25 年度より大阪市による一般廃棄物の回収が行われなくなったことにより、民間業者へ委託せざるを得なくなったためである。また、同館の産業廃棄物の排出量及び廃棄料金は、平成 24 年に台座の処分を行い、一時的に排出量が増加したため、前年度比で減少している。

国立新美術館の産業廃棄物の排出量及び廃棄料金の増加は、公募展展示室の蛍光灯が、メーカーの保守期間に達し、交換を実施したためである。

③ リサイクルの推進

平成24年度に引き続き、古紙含有率100%のコピー用紙の利用、廃棄物の分別、OA機器等トナーカートリッジのリサイクルによる再生使用を行い、リサイクルの推進に努めた。

(3) 美術館施設の利用推進

外部への施設の貸出

各館の貸出施設名	貸出日数 (平成25年度)	貸出日数 (平成24年度)
東京国立近代美術館本館（講堂）	19日	19日
東近美フィルムセンター（小ホール）	2日	4日
東近美フィルムセンター（会議室）	3日	3日
京都国立近代美術館（講堂）	2日	6日
京都国立近代美術館（会議室）	3日	9日
国立西洋美術館（講堂）	10日	15日
国立西洋美術館（会議室）	6日	10日
国立国際美術館（講堂）	31日	16日
国立国際美術館（会議室）	27日	61日
国立新美術館（講堂）	72日	80日
国立新美術館（研修室A）	95日	93日
国立新美術館（研修室B）	63日	63日
国立新美術館（研修室C）	45日	29日
計	378日	408日

●特記事項

当該施設については、展覧会事業にあわせた講演会やシンポジウム等に使用するものであるが、事業に差し支えない範囲で、外部への貸出を行った。

(4) 民間委託の推進

① 一般管理部門を含めた組織・業務の見直しと民間委託の推進

次のとおり民間委託を行い業務の効率化を図った。

(ア) 会場管理業務、(イ) 設備管理業務、(ウ) 清掃業務、(エ) 保安警備業務、(オ) 機械警備業務、(カ) 収入金等集配業務、(キ) レストラン運営業務、(ク) アートライブラリ運営業務、(ケ) ミュージアムショップ運営業務、(コ) 美術情報システム等運営支援業務、(サ) ホームページサーバ運用管理業務、(シ) 電話交換業務、(ス) 展覧会アンケート実施業務、(セ) 省エネルギー対策支援業務、(ソ) 展覧会情報収集業務

「競争の導入による公共サービスの改革に関する法律」に則り民間競争入札を行った東京国立近代美術館本館及び工芸館の管理運営業務（展示事業の企画等を除く。以下同じ。）並びに東京国立近代美術館フィルムセンターの管理運営業務、国立新

美術館の管理運営業務は、契約事務の軽減、統括管理業務導入による事務と委託業務の効率化、民間事業者の相互連携の推進による適確な業務の実施とともに、それぞれの業務の専門的知識を活かした適確な提案による施設設備維持管理と観覧環境の向上に寄与した。

② 広報・普及業務の民間委託の推進

次のとおり民間委託を行い業務の効率化を図った。

(ア) 情報案内業務、(イ) 広報物等発送業務、(ウ) 交通広告等掲載、(エ) ホームページ改訂・更新業務、(オ) インターネット検索サイト、(カ) ラジオCM等を利用した総合的な広報宣伝業務、(キ) 講堂音響設備オペレーティング業務

(5) 競争入札の推進

一般競争入札の実績

ア 契約件数及び契約金額（少額随契を除く） 138 件，9,955,480,873 円

イ 契約種別毎の年間契約数

① 競争性のある契約 65 件（47.1%），2,862,039,650 円（28.7%）

【内訳】

- ・一般競争入札 58 件，2,631,379,803 円
- ・企画競争，公募 6 件，228,499,847 円
- ・不落随契 1 件，2,160,000 円

② 競争性のない随意契約 73 件（52.9%），7,093,441,223 円（71.3%）

【内訳】

- ・同一所管公益法人等 2 件，4,780,118,135 円
- ・同一所管公益法人等以外の法人等 71 件，2,313,323,088 円

（うち美術作品の購入に関する随意契約 33 件，1,859,957,316 円）

ウ 公益調達の適正化（財計第 2017 号）等に即した実施状況
別紙 1 を参照

●特記事項

平成 25 年度において、競争性のない随意契約の占める割合は、件数では全体の 52.9%、金額では全体の 71.3%となっている。このうち、同一所管公益法人等の契約（2 件，4,780,118,135 円）は、国立新美術館の土地購入及び土地借料である。また、同一所管公益法人等以外の法人等の契約（71 件，2,313,323,088 円）の中には、国立美術館特有の業務である美術作品の購入に関する随意契約（33 件，1,859,957,316 円）が含まれている。これらの特殊な事由を除く比率で比較すると、競争性のない随意契約の割合は件数で全体の 36.9%、金額は全体の 13.7%となる。

少額随契又は真にやむを得ない場合を除き、一般競争入札や公募、企画競争等の実施により競争性の確保に努めている。

2 事業評価及び職員の研修等

① 外部有識者による事業評価

ア 本部

独立行政法人国立美術館運営委員会を2回（平成25年7月17日及び平成26年3月4日）開催し、平成24年度事業実績並びに、平成25年度事業の実施状況及び26年度事業計画（案）について説明聴取の上、意見交換を行った。

また、独立行政法人国立美術館外部評価委員会を3回（平成25年4月25日、5月23日及び6月6日）開催し、平成24年度事業実績について説明聴取の上、審議し評価報告書を取りまとめた。

イ 東京国立近代美術館

評議員会（美術・工芸部会）を2回（平成25年6月28日及び平成26年2月17日）、評議員会（映画部会）を2回（平成25年6月18日及び平成26年2月25日）開催し、平成24年度事業実績、平成25年度事業の実施状況及び平成26年度事業計画（案）について説明聴取の上、意見交換を行った。

ウ 京都国立近代美術館

評議員会を1回（平成25年9月18日）開催し、平成24年度事業実績、平成25年度年度計画及び事業実施状況について説明聴取の上、意見交換を行った。

エ 国立西洋美術館

評議員会を1回（平成25年11月21日）開催し、平成24年度事業報告及び平成25年度事業計画及び事業実施状況について説明聴取の上、意見交換を行った。

オ 国立国際美術館

評議員会を1回（平成26年3月25日）開催し、平成25年度事業報告及び平成26年度事業計画について説明聴取の上、意見交換を行った。

カ 国立新美術館

評議員会を2回（平成25年5月29日、11月5日）開催し、平成24年度事業報告について説明聴取の上、今後の運営について意見交換を行った。

顧問会を2回（平成25年5月15日、11月20日）開催し、広い見知から現代の美術及び美術館に関する意見をいただいた。

3 管理情報の安全性向上

個人情報保護については、引き続き、個人情報保護に関する説明会への参加や情報漏えいの事例等の通知を行うとともに、個人情報ファイルの保有状況調査の実施等にあわせ、重要書類は鍵のかかる保管庫に納めること、個人情報を取り扱う業務中に離席する際は、当該書類やパソコン画面を他の職員等から見られないような措置を講じること、廃棄する際はシュレッダーにかけることなど、厳格に書類管理を行った。また、あわせてウィルス対応ソフトウェアの導入の徹底や最新のプログラムへの更新を随時行うなど、電子メール等による外部からのウィルス進入を回避する安全策を講じた。

なお、独立行政法人国立美術館保有個人情報管理規則第50条に基づき、当法人の保有個人情報の管理状況について、平成24年10月25日に監事による監査を実施した。

4 人件費の抑制、給与体系の見直し

① 人件費決算

決算額 840,361千円（対平成24年度比較 103.8%）

- ・人件費は常勤職員を対象とし、退職金、福利厚生費を含まない。

② 給与体系の見直し

国家公務員の給与等を考慮して、平成18年4月から俸給表の水準を全体として平均4.8%引下げるとともに、級の構成の見直し、きめ細かい勤務実績の反映を行うため号俸の4分割を行ったほか、調整手当を廃止し、地域手当を新設するなど、国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを行った。

また、国立美術館の職員が行う職務は、国の行政職俸給表（一）又は研究職俸給表の適用を受けるものと同等の職務であるとみなし、給与についても一般職給与法に準拠した給与制度で支給してきていることを前提に、これらとの比較を行った（「独立行政法人の役職員の給与等の水準（平成24年度）」平成25年9月6日総務省公表資料を参照。）。

ア 一般職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

＜国との比較＞24年度実績

項目	国	国立美術館
平均年齢	42.8歳	42.0歳
学歴（大学卒の割合）	53.4%	64.8%
調整手当支給率 ※1	45.0%	100%

※1 1級地、2級地及び4級地の支給地の割合

＜他の独立行政法人との比較＞24年度年間給与額

項目	全独立行政法人	国立美術館
給与総額	6,460千円	5,936千円
平均年齢	43.6歳	42.0歳
ラスパイレス指数 ※2	106.5	95.0

※2 国の行政職俸給表（一）適用者の給与を100としたときの給与水準の指数

イ 研究職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

＜国との比較＞24年度実績

項目	国	国立美術館
平均年齢	45.1歳	45.7歳
学歴（大学卒の割合）	97.4%	100%
調整手当支給率 ※3	62.2%	100%

※3 1級地、2級地及び4級地の支給地の割合

＜他の独立行政法人との比較＞24年度年間給与額

項目	全独立行政法人	国立美術館
給与総額	8,218千円	7,792千円
平均年齢	46.3歳	45.7歳
ラスパイレス指数 ※4	100.3	95.6

※4 国の研究職俸給表適用者の給与を100としたときの給与水準の指数

ウ 常勤役員の年間報酬24年度実績

項目	全独立行政法人	国立美術館
法人の長	15,892千円	16,791千円
理事	16,322千円	15,163千円

③ 平成25年度の役職員の報酬・給与等について

別紙2「独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について」を参照。

Ⅲ 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画等

1 予算（単位：千円）

区 分	計画額	決算額	増△減額
収入			
運営費交付金	7,545,727	7,545,727	0
展示事業等収入（注1）	1,106,043	1,198,456	92,413
寄附金収入	—	9,000	9,000
施設整備費補助金（注2）	5,104,264	5,532,778	428,514
計	13,756,034	14,285,961	529,927
支出			
運営事業費	8,651,770	8,499,292	152,477
管理部門経費	1,340,835	1,376,083	△35,248
うち人件費（注3）	264,132	262,745	1,386
うち一般管理費（注4）	1,076,703	1,113,337	△36,634
事業部門経費	7,310,935	7,123,209	187,725
うち人件費（注5）	712,349	714,840	△2,491
うち展覧事業費（注6）	5,486,011	5,346,224	139,786
うち調査研究事業費（注7）	196,337	155,190	41,146
うち教育普及事業費（注7）	916,238	906,954	9,283
施設整備費補助金（注2）	5,104,264	5,532,778	△428,514
計	13,756,034	14,032,070	△276,036
収支差引	—	253,891	253,891

主な増減理由

- （注1）入場料収入等の増加による。
- （注2）前期補正予算の繰越の執行及び当期予算の次期繰越による。
- （注3）人員削減等の効率化による。
- （注4）設備等の修繕及び更新に係る経費の増加による。
- （注5）退職手当の支出による。
- （注6）業務運営の効率化及び未達成の運営費交付金の繰越による。
- （注7）業務運営の効率化による。

※金額は単位未満切り捨てのため、合計等が合致しない場合がある。

●特記事項

一般管理費、展覧事業費、調査研究事業費及び教育普及事業費を合わせた物件費は、美術作品購入費の運営費交付金債務の繰越等により、予算に比べ152,477千円の支出減となった。

展示事業等収入は、展覧会の入館者数が目標入館者数を上回ったことから、予算に比べ92,413千円の収入増となった。

施設整備費補助金は、平成24年度補正予算による工事が当期へ繰越になったことや当期当初予算及び補正予算が次期繰越になったことにより、計画額より428,514千円支出増となった。

寄附金については、12件、9,000千円を獲得した。うち3,691千円を平成25年度の収益とし、残りの5,309千円を平成26年度以降に繰り越して執行する予定である。

2 収支計画（単位：千円）

区 分	計画額	決算額	増△減額
費用の部			
経常費用	5,148,370	5,047,155	101,215
管理部門経費	1,303,041	1,515,371	△212,330
うち人件費 (注1)	264,132	354,000	△89,868
うち一般管理費 (注2)	1,038,909	1,161,371	△122,462
事業部門経費	3,680,549	3,380,179	300,370
うち人件費 (注3)	712,349	624,058	88,291
うち展示事業費 (注4)	1,887,162	1,690,445	196,717
うち調査研究事業費 (注4)	189,903	155,043	34,860
うち教育普及事業費 (注4)	891,135	910,630	△19,495
減価償却費	164,780	151,605	13,175
収益の部			
経常収益	5,148,370	5,116,608	△31,762
運営費交付金収益 (注5)	3,877,547	3,685,549	△191,998
展示事業等の収入 (注6)	1,106,043	1,198,456	92,413
資産見返運営費交付金戻入	149,375	137,964	△11,411
資産見返寄附金戻入	1,928	3,050	1,122
資産見返物品受贈額戻入	13,477	10,634	△2,843
寄附金収益	—	8,156	8,156
施設費収益 (注7)	—	72,796	72,796
経常利益		69,453	
臨時損失		1,655	
臨時利益		—	
当期純利益		67,797	
前中期目標期間繰越積立金取崩額		1,611	
当期総利益		69,408	

主な増減理由

(注1) 退職手当の支出による。

(注2) 緊急に行った設備等の修繕及び更新に係る経費の増加等による。

(注3) 人員の削減等の効率化による。

(注4) 支出経費の見直しを行ったことによる。

(注5) 運営費交付金による固定資産の取得が見込より多かったため、資産見返運営費交付金又は資本剰余金に計上されたことによる。

(注6) 入場料収入等の増加による。

(注7) 施設整備費補助金による工事の完了による。

※金額は単位未満切り捨てのため、合計等が合致しない場合がある。

3 資金計画（単位：千円）

区分	計画額	決算額	増△減額
資金支出	13,756,034	13,311,339	△444,695
業務活動による支出（注1）	8,546,193	8,266,933	△279,260
投資活動による支出（注2）	5,209,841	5,044,406	△165,435
財務活動による支出	—	—	—
資金収入	13,756,034	13,648,708	△107,326
業務活動による収入	8,651,770	8,743,835	92,065
運営費交付金による収入	7,545,727	7,545,727	0
展示事業等による収入（注3）	1,106,043	1,198,108	92,065
投資活動による収入	5,104,264	4,904,873	△199,391
施設整備補助金による収入（注4）	5,104,264	4,904,873	△199,391
資金増加額		337,370	
資金期首残高		1,617,168	
資金期末残高		1,954,539	

主な増減理由

（注1）美術品・収蔵品の購入に係る運営費交付金の平成26年度以降への繰越による。

（注2）当期に完了した工事代金が年度末時点で未払となっていることによる。

（注3）入場料収入等の増加による。

（注4）平成24年度施設整備費補助金の精算に伴い、一部が平成25年度の収入となったこと及び平成25年度施設整備費補助金の精算に伴い、一部が平成26年度の収入になることによる。

※金額は単位未満切り捨てのため、合計等が合致しない場合がある。

4 貸借対照表（単位：千円）

資産の部		負債及び純資産の部	
資産の部		負債の部	
I 流動資産	2,766,968	I 流動負債	2,580,789
II 固定資産		II 固定負債	1,008,796
1. 有形固定資産	171,181,596	負債合計	3,589,586
2. 無形固定資産	5,531		
固定資産合計	171,187,128	純資産の部	
		I 資本金	81,019,148
		II 資本剰余金	88,797,605
		III 利益剰余金	547,756
		純資産合計	170,364,511
資産の部合計	173,954,097	負債及び純資産の部合計	173,954,097

※金額は単位未満切り捨てのため、合計等が合致しない場合がある。

5 短期借入金

実績なし

6 重要な財産の処分等

実績なし

7 剰余金

(1) 当期末処分利益の処分計画

区分	金額（円）
I 当期末処分利益	69,408,939
当期総利益	69,408,939
II 利益処分量	
積立金	69,408,939

平成 25 年度未処分利益については、平成 26 年度に独立行政法人通則法（平成十一年七月十六日法律第百三十三号。以下「通則法」という。）第 44 条第 1 項に定める積立金として処分する計画である。

(2) 利益の生じた主な理由

予算額を上回った自己収入があったことによる。

●特記事項

国立西洋美術館で開催した「ラファエロ」が目標入館者数 220,000 人に対して入館者数 365,635 人であったこと及び「国立西洋美術館×ポーラ美術館 モネ、風景をみる眼－19 世紀フランス風景画の革新」が目標入館者数 206,000 人に対して入館者数 313,737 人であったこと、また、国立国際美術館及び国立新美術館で開催した「フランス国立クリュニー中性美術館所蔵 貴婦人と一角獣展」がそれぞれ目標入館者数 80,000 人に対して入館者数 116,173 人、目標入館者数 189,000 人に対して入館者数 213,512 人、並びに「アンドレアス・グルスキー展」がそれぞれ目標入館者数 15,000 人に対して 32,897 人、目標入館者数 54,000 人に対して 119,467 人であったことなどにより、予算額を上回る自己収入を得ることができた。

(3) 目的積立金の使用状況

今中期目標期間における目的積立金の承認がないため、実績はない。

(4) 積立金（通則法第 44 条第 1 項）の状況（単位：円）

使途の内訳	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
積立金	89,483,260	11,110,237	0	100,593,497
前中期目標期間 繰越積立金	379,366,049	0	1,611,792	377,754,257

平成 25 年度は、「独立行政法人の経営努力認定について（平成 18 年 7 月 21 日（平成 19 年 7 月 4 日改訂）総務省行政管理局）」の（3）「独立行政法人の経営努力認定の基準」、②「経営努力認定の対象案件の利益の実績が原則として前年度実績を上回ること。」の基準を満たしていないため、通則法第 44 条第 3 項に定める目的積立金の申請を行わなかった。また、前中期目標期間繰越積立金の当期減少額はファイナンスリースによる減価償却費相当額である。

8 人事に関する計画

職種別人員の増減状況（過去5年分）

（単位：人）

職種※	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
定年制研究系職員	61	57	57	54	50
定年制事務系職員	59	52	51	45	49
定年制技能・労務系職員	3	3	3	3	2
指定職相当職員	2	2	2	1	2

① 「公務員の給与改定に関する取扱について（平成18年10月17日閣議決定）」に基づき、公務員の例に準じて措置、対処している。

② 人事交流の推進

事務系職員については、文化庁、国立大学法人及び他の独立行政法人との間で定期的な人事交流を行い、組織の効率化と個々の職員の能力の発揮とその向上を考慮して人事配置を行った。

③ 職員の研修等

ア 東京国立近代美術館

- ・ 人事院主催「平成25年度関東地区新採用職員研修」（4名）
- ・ 国立美術館「平成25年度メンタルヘルス研修」（11名）
- ・ 国立美術館「平成25年度接遇・クレーム・仕事の進め方研修」（11名）
- ・ 東京大学主催「平成25年度東京大学係長級研修（初任者）」（1名）
- ・ 国立公文書館主催「平成25年度公文書管理研修Ⅰ（第1回）」（2名）
- ・ 国立公文書館主催「平成25年度公文書管理研修Ⅰ（第2回）」（1名）
- ・ 国立公文書館主催「平成25年度公文書管理研修Ⅰ（第3回）」（3名）
- ・ 国立公文書館主催「平成25年度公文書管理研修Ⅱ（第1回）」（1名）
- ・ 国立国会図書館主催「平成25年度資料保存研修」（1名）
- ・ 放送大学「科目履修生」（2名）
- ・ 通報訓練（本館：平成25年4月26日）、避難誘導訓練（本館：平成25年7月25日、工芸館：平成26年3月28日、）
- ・ フィルムセンター消防訓練（京橋：平成25年6月11日）

イ 京都国立近代美術館

- ・ 文化庁「国宝・重要文化財（美術工芸品）防災・防犯対策研修会」（1名）
- ・ 文化庁「平成25年度図書館等職員著作権実務講習会」（1名）
- ・ 財務省会計センター主催「第51回政府関係法人会計事務職員研修」（1名）
- ・ 人事院主催「第43回近畿地区係長研修」（1名）
- ・ 全国美術館会議「第28回学芸員研修会」（1名）
- ・ 大阪教育大学「平成25年度大阪教育大学係長研修」（1名）
- ・ 工業所有権情報・研修館「平成25年度第2回知的財産権研修（初級）」（1名）
- ・ 経済調査会「印刷費積算講習会」（1名）
- ・ 行政管理研究センター「公文書管理セミナー」（1名）
- ・ 国立美術館「平成25年度メンタルヘルス研修」（2名）
- ・ 国立美術館「平成25年度接遇・クレーム研修」（2名）
- ・ 避難誘導訓練・消火訓練（平成26年3月24日）

ウ 国立西洋美術館

- ・国立美術館「平成 25 年度接遇・クレーム研修」(2名)
- ・国立美術館「平成 25 年度メンタルヘルス研修」(3名)
- ・国立公文書館「平成 25 年度公文書管理研修Ⅰ(第2回)」(1名)
- ・国立大学法人「関東・甲信越地区国立大学法人等係長研修」(1名)
- ・人事院主催「第 46 回関東地区係長研修」(1名)
- ・人事院主催「第 5 回関東地区セクシュアル・ハラスメント防止研修指導者養成コース」(1名)
- ・人事院主催「第 4 回関東地区パーソネル・マネジメント・セミナー」(1名)
- ・全国美術館会議「第 28 回学芸員研修会」(1名)

エ 国立国際美術館

- ・国立公文書館「平成 25 年度公文書管理研修Ⅱ(第1回)」(1名)
- ・国立公文書館「平成 25 年度公文書管理研修Ⅰ(第2回)」(1名)
- ・大阪市「平成 25 年度廃棄物管理責任者講習会」(1名)
- ・日本博物館協会「平成 25 年度研究協議会「博物館とボランティアの新しい地平」」(2名)
- ・国立美術館「平成 25 年度美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」(1名)
- ・文部科学省「平成 25 年度公的研究費の管理・監査に関する研修会」(1名)
- ・全国ビルメンテナンス協会「平成 25 年度保全業務マネジメントセミナー」(1名)
- ・防災総合訓練(平成 25 年 7 月 8 日)

オ 国立新美術館

- ・総務省関東管区行政評価局主催「情報公開・個人情報保護制度の運用に関する研修会」(1名)
- ・公益財団法人文化財虫害研究所主催「第 35 回 文化財の虫菌害・保存対策研修会」(2名)
- ・自衛消防・防災訓練(平成 25 年 9 月 24 日、平成 26 年 2 月 25 日)
- ・国立美術館「平成 25 年度接遇・クレーム研修」(3名)
- ・国立美術館「平成 25 年度メンタルヘルス研修」(3名)
- ・第 39 回幼児造形教育研究会 夏の研修大会(1名)
- ・第 3 回ミュージアム・エデュケーター研修(1名)
- ・横浜市知的財産セミナー 著作権セミナー(1名)

9 施設整備に関する計画

東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館重要文化財映画フィルム収蔵庫増築等工事、東京国立近代美術館フィルムセンター本館冷温水配管等改修工事、国立新美術館エレベーター戸開走行保護装置設置工事について平成 25 年度に竣工した。また、平成 24 年度から 3 年計画の京都国立近代美術館電気設備等更新について 2 年目の工事を行い、平成 25 年度から 2 年計画の京都国立近代美術館昇降機設備等改修について 1 年目の工事を行った。さらに、平成 19 年度からの継続事業として国立新美術館の土地購入を行った。

10 関連公益法人

該当なし。

「公共調達適正化について」（財計第 2017 号）等に即した独立行政
 法人における実施状況調書
 （独立行政法人名 国立美術館）

1. 公共調達適正化の実施状況

(1) 再委託の適正化を図るための措置

措置済み ・一部未措置 () ・未措置 ()

(2) 契約に係る情報の公表

措置済み ・一部未措置 () ・未措置 ()

○各支店・支社等で公表を行っている場合に、法人のメインの公表
 ページへの直接リンクを行っているか

措置済み ・未措置 () ・支店等がない

(3) 公共調達に関する問合せの総合窓口の設置

措置済み ・未措置 ()

○措置済みと回答した場合

・連絡先等（本部事務局財務担当係）

・URL（<http://www.artmuseums.go.jp>）

(4) 内部監査の実施

(イ) 監査計画等に随意契約の重点的監査を記載

措置済み ・未措置 ()

(ロ) 監査マニュアル等の整備

措置済み ・未措置 ()

(ハ) 内部監査の実施状況をデータベース化している。

措置済み ・未措置 ()

(5) 決裁体制の強化

措置済み ・未措置 ()

・具体的な措置内容（複数の係による監査を行っている）

2. 随意契約の適正化の一層の推進の実施状況

(1) 随意契約見直し計画の厳正な実施の徹底

措置済み ・一部未措置 () ・未措置 ()

(2) 監事の入札・契約の適正な実施についての徹底的なチェック

措置済み ・未措置 ()

(3) 府省の独立行政法人評価委員会による、入札・契約事務の適正執行についての厳正な評価

措置済み ・ 未措置 ()

3. 平成 24 年度各独立行政法人が行う随意契約の見直し状況フォローアップについての公表状況

公表済み ・ 未措置 ()

公表済みと回答した場合

・ URL (<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>)

4. 平成 24 年度に締結した「競争性のない随意契約」に係る契約情報の公表状況

【第 1・四半期分】

公表済み ・ 未措置 ()

公表済みと回答した場合

・ URL (<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>)

【第 2・四半期分】

公表済み ・ 未措置 ()

公表済みと回答した場合

・ URL (<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>)

【第 3・四半期分】

公表済み ・ 未措置 ()

公表済みと回答した場合

・ URL (<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>)

【第 4・四半期分】

公表済み ・ 未措置 ()

公表済みと回答した場合

・ URL (<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>)

5. 平成 25 年度に締結した「競争性のない随意契約」に係る契約情報の公表状況

【第 1・四半期分】

公表済み ・ 未措置 ()

公表済みと回答した場合

・ URL (<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>)

【第 2・四半期分】

公表済み ・ 未措置 ()

- 公表済みと回答した場合
 - ・ URL (<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>)

【第3・四半期分】

- 公表済み ・ 未措置 ()
- 公表済みと回答した場合
 - ・ URL (<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>)

【第4・四半期分】

- 公表済み ・ 未措置 ()
- 公表済みと回答した場合
 - ・ URL (<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>)

6. 「1者応札・1者応募」に係る改善方策の公表状況

- 公表済み ・ 未措置 ()
- 公表済みと回答した場合
 - ・ URL (<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>)

【記載要領】

- ・ いずれかを○で囲むこと
- ・ 一部未措置又は未措置である場合は、実施予定時期を記載すること

独立行政法人国立美術館の役員報酬・給与等について

I 役員報酬等について

1 役員報酬についての基本方針に関する事項

① 平成25年度における役員報酬についての業績反映のさせ方

平成25年度においては、平成24年度の評価結果を基に検討の結果、業績に反映するほどの特に顕著な業績や失態がなかったと判断し、役員報酬の増減は行わなかった。

国立美術館は、美術館を設置して、美術(映画を含む。)に関する作品その他資料を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、これに関連する調査及び研究並びに教育及び普及の事業等を行うことにより、芸術その他の文化の振興を図ることを目的としている。そうした組織の中で、理事長は、法人全体の活動を総括する一方で、我が国における芸術文化の創造と発展、国民の美的感性の育成を使命とし、美術振興の中心拠点として、高いマネジメント能力やリーダーシップに加え、高度な専門性が求められる。

理事長の年間報酬額は、事務次官の年間給与額2,044万円と比べてもそれ以下となっている。また、文化分野の保存・活用を図ることを主要な業務とする他法人(国立文化財機構/日本芸術文化振興会)の長の報酬水準は、年間1,500万円を超えている。こうした職務内容の特性や他法人等との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

② 役員報酬基準の改定内容

法人の長	[改定なし]
理事	
監事(非常勤)	

2 役員の報酬等の支給状況

役名	平成25年度年間報酬等の総額				就任・退任の状況		前職
	千円	報酬(給与) 千円	賞与 千円	その他(内容) 千円	就任	退任	
A法人の 長	5,376	2,865	1,967	516 (地域手当) 27 (通勤手当)		7月7日	※
B法人の 長	9,719	7,103	1,307	1,279 (地域手当) 30 (通勤手当)	8月1日		
A理事	3,941	2,101	1,462	210 (地域手当) 46 (通勤手当) 123 (単身赴任手当)		6月30日	※
B理事	15,163	9,875	3,759	1,481 (地域手当) 48 (通勤手当)			
C理事	13,270	8,402	3,269	1,512 (地域手当) 86 (通勤手当)			◇
A監事 (非常勤)	960	960	0	0 ()			
B監事 (非常勤)	960	960	0	0 ()			

注1:「その他」欄には手当等が支給されている場合は、例えば通勤手当の総額を記入。

注2:「前職」欄には、役員の前職の種類別に以下の記号を付す。

退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「*※」、該当がない場合は空欄。

3 役員退職手当の支給状況(平成25年度中に退職手当を支給された退職者の状況)

区分	支給額(総額) 千円	法人での在職期間 年 月	退職年月日	業績勘案率	摘要	前職
法人の長	12,054	8 4	H25.7.7	—	役員退職手当規則に基づき業績勘案率を1.0として暫定退職手当額を支給した。独立行政法人評価委員会により業績勘案率が決定した日以後遅延なく決定支給額と当該暫定支給額の差額を精算する。	※
理事	4,563	4 0	H25.6.30	—	役員退職手当規則に基づき業績勘案率を1.0として暫定退職手当額を支給した。独立行政法人評価委員会により業績勘案率が決定した日以後遅延なく決定支給額と当該暫定支給額の差額を精算する。	※
監事 (非常勤)					該当者なし	

注1:「摘要」欄には、独立行政法人評価委員会による業績の評価等、退職手当支給額の決定に至った事由を記入。

注2:「前職」欄には、退職者の役員時の前職の種類別に以下の記号を付す。

退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「*※」、該当がない場合は空欄。

II 職員給与について

1 職員給与についての基本方針に関する事項

① 人件費管理の基本方針

〔 人員数及び効率化等を勘案した人件費を算出し、その範囲内で執行した。 〕

② 職員給与決定の基本方針

ア 給与水準の決定に際しての考慮事項とその考え方

〔 学歴、試験、経験及び職務の責任の度合いを基に給与決定を行っている。 〕

イ 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方

〔 勤務評定等の結果を踏まえた勤務成績を考慮し、昇格、昇給の実施及び勤勉手当の成績率の決定を行っている。 〕

〔能率、勤務成績が反映される給与の内容〕

給与種目	制度の内容
俸給月額 (昇格)	従事する職務に応じ、かつ、総合的な能力の評価により1級上位の級に昇格させることができる。
俸給月額 (昇給)	昇給期間における勤務成績等に応じて、上位の号俸に昇給させることができる。
賞与:勤勉手当 (査定分)	基準日以前6箇月以内の期間における、勤務成績に応じて決定される支給割合(成績率)に基づき支給される。

ウ 平成25年度における給与制度の主な改正点

国家公務員の給与を考慮して、次の改正を行った。

・特例法に基づく国家公務員の給与の見直しに関連して、以下の措置を講じた。

(職員)

実施期間:平成24年4月1日から平成26年3月31日

俸給表関係の措置の内容: ▲9.77%(一般職7級以上、研究職5級以上)

▲7.77%(一般職3級～6級、技能・労務職4級以上、研究職3級・4級)

▲4.77%(一般職2級以下、技能・労務職3級以下、研究職2級以下)

諸手当関係の措置の内容:管理職手当▲10%

地域手当▲俸給関係の措置の内容と同様

期末勤勉手当▲9.77%

(役員)

実施期間:平成24年4月1日から平成26年3月31日

俸給表関係の措置の内容: ▲9.77%

諸手当関係の措置の内容:地域手当▲9.77%

期末勤勉手当▲9.77%

・退職手当の支給水準を経過措置を設け段階的に引き下げ

(平成24年度:調整率104/100→98/100)

(平成25年度:調整率98/100→92/100)

2 職員給与の支給状況

区分	人員	平均年齢	平成25年度の年間給与額(平均)			
			総額	うち所定内		うち賞与
				うち通勤手当		
常勤職員	人 81	歳 44.8	千円 7,119	千円 5,438	千円 163	千円 1,681
事務・技術	人 32	歳 41.5	千円 5,805	千円 4,427	千円 168	千円 1,378
研究職種	人 47	歳 46.7	千円 8,089	千円 6,181	千円 155	千円 1,908
技能・労務職種	人 2	歳 -	千円 -	千円 -	千円 -	千円 -
任期付職員	人 1	歳 -	千円 -	千円 -	千円 -	千円 -
指定職種	人 1	歳 -	千円 -	千円 -	千円 -	千円 -
非常勤職員	人 1	歳 -	千円 -	千円 -	千円 -	千円 -
事務・技術	人 1	歳 -	千円 -	千円 -	千円 -	千円 -

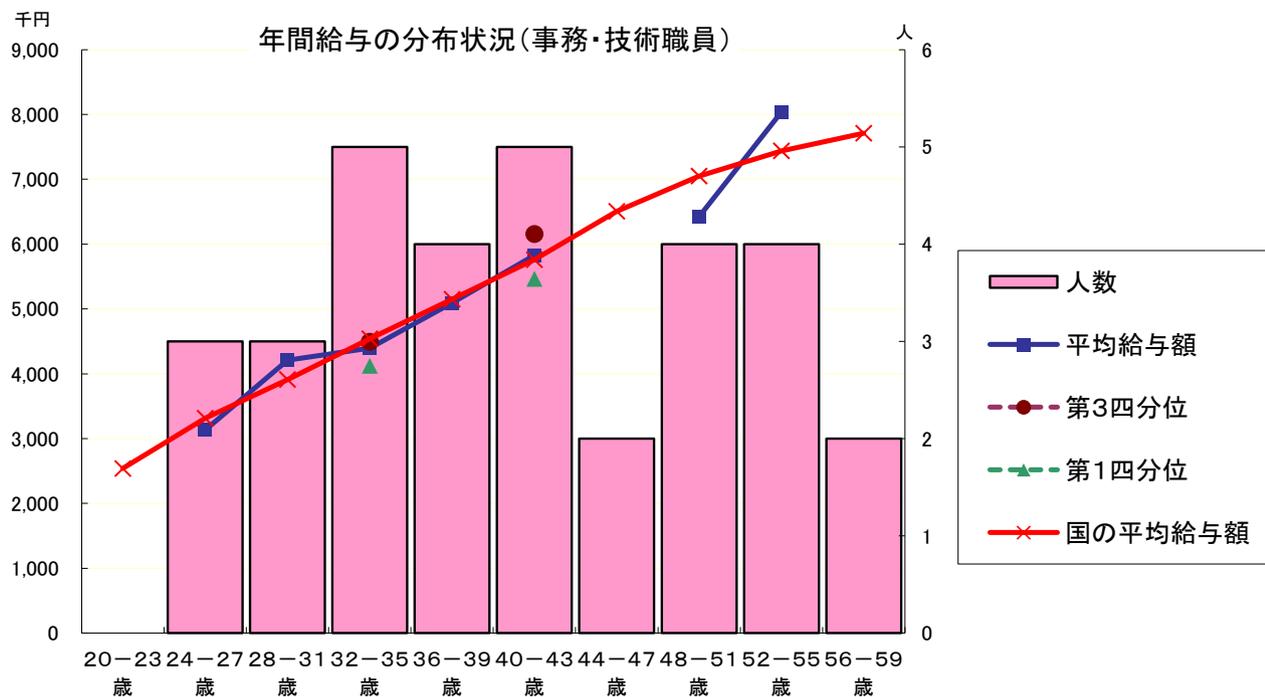
注1: 常勤職員については、在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。

注2: 技能・労務職種とは、守衛の業務、又は映写技術に関する業務に従事する職種をいう。

注3: 技能・労務職種、指定職種、非常勤職員の該当者は2人以下の為、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、平均年齢以下の項目を記載していない。

注4: 常勤職員、任期付職員、非常勤職員のうち医療職種(病院医師)、医療職種(病院看護師)及び教育職種(高等専門学校教員)、在外職員並びに再任用職員については、該当する者がいないため欄を省略した。

② 年間給与の分布状況(事務・技術職員／研究職員)〔在外職員，任期付職員及び再任用職員を除く。以下，⑤まで同じ。〕



注1: ①の年間給与額から通勤手当を除いた状況である。以下，⑤まで同じ。

注2: 年齢24-27歳，28-31歳，36歳-39歳，48歳-51歳及び52歳-55歳の該当者については4人以下のため，当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから，第1・第3分位を表示していない。

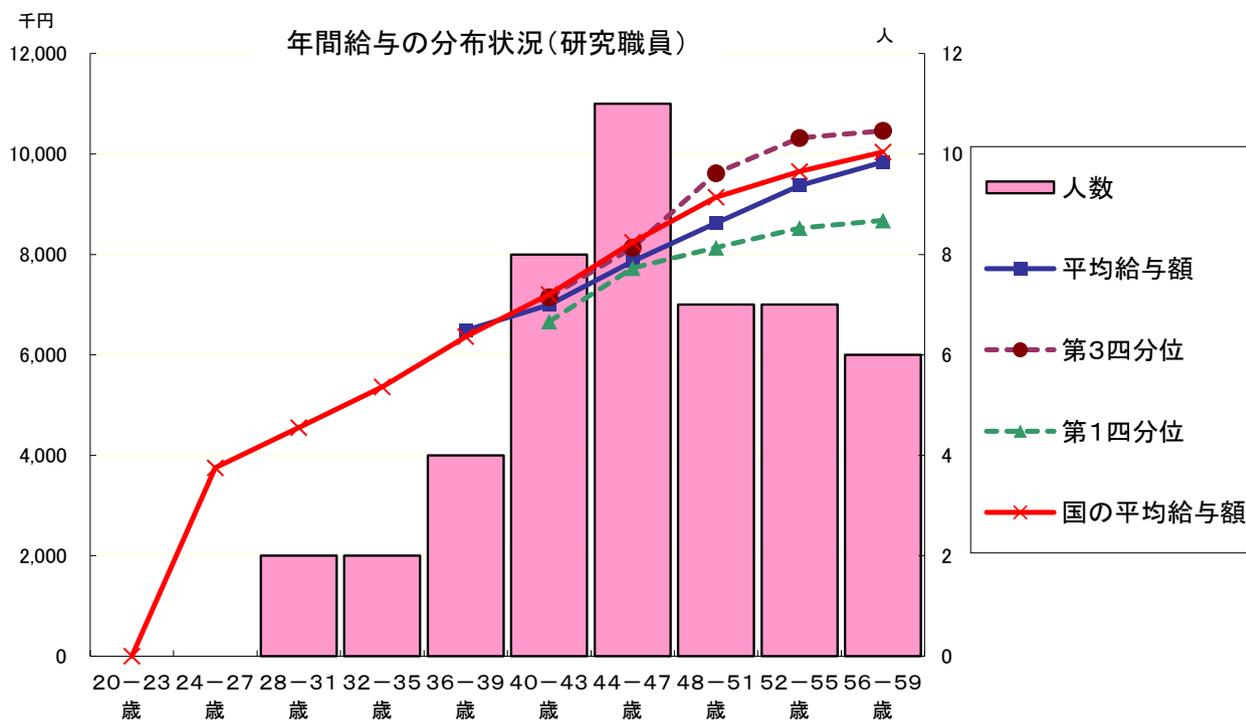
注3: 年齢44-47歳及び56歳-59歳の該当者については2人以下のため，当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから，第1・第3分位及び平均給与額を表示していない。

(事務・技術職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	四分位		平均	四分位	
			第1分位	第3分位		第1分位	第3分位
	人	歳	千円	千円	千円	千円	千円
代表的職位							
本部部長	1	-	-	-	-	-	-
本部課長	1	-	-	-	-	-	-
本部室長	1	-	-	-	-	-	-
本部係長	3	40.8	-	-	5,751	-	-
本部係員	3	27.8	-	-	3,567	-	-
地方課長	3	53.8	-	-	8,418	-	-
地方室長	3	52.5	-	-	6,968	-	-
地方係長	8	41.8	5,169	-	5,539	5,938	-
地方主任	3	40.5	-	-	4,451	-	-
地方係員	6	30.5	3,997	-	3,990	4,249	-

注1: 本部係長，本部係員，地方課長，地方室長，地方主任の該当者は4人以下のため，当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから，第1・第3分位を記載していない。

注2: 本部部長，本部課長，本部室長の該当者は2人以下のため，当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから，平均年齢以下の項目を記載していない。



注1: 年齢36-39歳の該当者については4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、第1・第3分位を表示していない。

注2: 年齢28-31歳及び32-35歳の該当者については2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、第1・第3分位及び平均給与額を表示していない。

(研究職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	四分位		平均	四分位
			第1分位	第3分位		
	人	歳	千円	千円	千円	千円
代表的職位						
副館長	4	56.0	-	10,789	-	-
課長	5	52.7	9,616	9,831	10,258	
本部主任研究員	1	-	-	-	-	-
主任研究員	32	46.4	7,147	7,734	8,199	
研究員	5	33.5	4,558	4,883	5,052	

注1: 副館長の該当者は4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、第1・第3分位を記載していない。

注2: 本部主任研究員の該当者は2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、平均年齢以下の項目を記載していない。

③ 職級別在職状況等(平成26年4月1日現在)(事務・技術職員／研究職員)

(事務・技術職員)

区分	計	10級	9級	8級	7級	6級	5級	4級	3級	2級	1級
標準的な職位		施設の長	局長 副館長	局長 次長 副館長	次長 部長	部長 課長	課長 室長	室長 係長	係長 係主任	係主任 一般職員	一般職員
人員 (割合)	人 32	人 0 (0.0%)	人 0 (0.0%)	人 0 (0.0%)	人 1 (3.1%)	人 3 (9.4%)	人 1 (3.1%)	人 4 (12.5%)	人 14 (43.8%)	人 7 (21.9%)	人 2 (6.3%)
年齢(最高～最低)		歳	歳	歳	歳	歳 57～53	歳	歳 55～50	歳 48～35	歳 32～27	歳
所定内給与 年額(最高～最低)		千円	千円	千円	千円	千円 6,610～ 6,413	千円	千円 5,377～ 4,929	千円 4,747～ 3,022	千円 3,527～ 2,458	千円
年間給与額 (最高～最低)		千円	千円	千円	千円	千円 8,720～ 8,315	千円	千円 7,229～ 6,667	千円 6,198～ 4,056	千円 4,494～ 3,259	千円

注:7級, 5級及び1級については該当者が2人以下であるため, 当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから, 「年齢(最高～最低)」以下の事項について記載していない。

(研究職員)

区分	計	6級	5級	4級	3級	2級	1級
標準的な職位		施設の長	副館長 課長	課長 主任研究員	主任研究員	研究員	研究員
人員 (割合)	人 47	人 0 (0.0%)	人 9 (19.1%)	人 24 (51.1%)	人 9 (19.1%)	人 5 (10.6%)	人 0 (0.0%)
年齢(最高～最低)		歳	歳 58～48	歳 57～43	歳 43～38	歳 36～31	歳
所定内給与 年額(最高～最低)		千円	千円 8,599～ 6,696	千円 7,325～ 5,248	千円 5,581～ 5,035	千円 4,090～ 3,413	千円
年間給与額 (最高～最低)		千円	千円 11,822～ 8,781	千円 9,553～ 6,936	千円 7,243～ 6,653	千円 5,330～ 4,519	千円

④ 賞与(平成25年度)における査定部分の比率(事務・技術職員／研究職員)

(事務・技術職員)

区分		夏季(6月)	冬季(12月)	計
管理職員	一律支給分(期末相当)	% -	% -	% -
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	% -	% -	% -
	最高～最低	% -	% -	% -
一般職員	一律支給分(期末相当)	% 64.4	% 67.2	% 65.8
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	% 35.6	% 32.8	% 34.2
	最高～最低	% 40.7～32.0	% 37.9～30.2	% 37.9～32.1

注:事務・技術職員の管理職員は2人以下のため、記載していない。

(研究職員)

区分		夏季(6月)	冬季(12月)	計
管理職員	一律支給分(期末相当)	% 59.0	% 56.1	% 57.4
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	% 41.0	% 43.9	% 42.6
	最高～最低	% 48.5～33.6	% 44.5～41.7	% 45.1～39.9
一般職員	一律支給分(期末相当)	% 64.1	% 66.7	% 65.4
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	% 35.9	% 33.3	% 34.6
	最高～最低	% 40.7～33.1	% 37.9～30.7	% 37.1～32.8

⑤ 職員と国家公務員及び他の独立行政法人との給与水準(年額)の比較指標(事務・技術職員／研究職員)

対国家公務員(行政職(一))	100.1
対国家公務員(研究職)	96.8
対他法人(事務・技術職員)	96.0
対他法人(研究職員)	97.8

注：当法人の年齢別人員構成をウェイトに用い、当法人の給与を国の給与水準(「対他法人」においては、すべての独立行政法人を一つの法人とみなした場合の給与水準)に置き換えた場合の給与水準を100として、法人が現に支給している給与費から算出される指数をいい、人事院において算出

給与水準の比較指標について参考となる事項

○事務・技術職員

項目	内容
指数の状況	対国家公務員 100.1
	参考 地域勘案 90.7 学歴勘案 99.2 地域・学歴勘案 90.7
国に比べて給与水準が高くなっている定量的な理由	事務職員の給与水準については、年齢のみを勘案した対国家公務員指数は100.1と国家公務員を上回っているが、地域勘案の指数は90.7となり国家公務員を下回る。本部事務局及び5館の美術館のうちの3館が東京都特別区内に所在し、1級地に勤務する事務・技術職員の割合が国を大きく上回る(国立美術館:73.5%, 国:30.0%)ため、年齢のみを勘案した指数においては国家公務員を上回ったものと考えられる。 ※国の勤務地の比率については、「平成25年国家公務員給与等実態調査」を用いて算出
給与水準の適切性の検証	【国からの財政支出について】 支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 92.0% (国からの財政支出額 12,650百万円, 支出予算の総額 13,756百万円:平成25年度予算) 支出総額に占める給与・報酬等支給額の割合 6.0% (支出総額(平成25年度決算ベース) 14,032,071千円, 給与・報酬等支出総額 840,361千円) 管理職の割合 2.9% 大卒以上の割合 67.6%
	【検証結果】 俸給表、諸手当等の給与体系は国家公務員に準拠しており、地域勘案の対国家公務員指数は90.7となっていることから、国からの財政支出の割合は大きいものの、平成25年度の事務職員の給与水準は適切なものであると認識している。 【累積欠損額について】 累積欠損額 0円(平成24年度決算) 【検証結果】 非該当
講ずる措置	引き続き適正な給与水準を維持する

○研究職員

項目	内容							
指数の状況	対国家公務員 96.8							
	参考	<table border="1"> <tr> <td>地域勘案</td> <td>94.3</td> </tr> <tr> <td>学歴勘案</td> <td>96.2</td> </tr> <tr> <td>地域・学歴勘案</td> <td>93.9</td> </tr> </table>	地域勘案	94.3	学歴勘案	96.2	地域・学歴勘案	93.9
	地域勘案	94.3						
学歴勘案	96.2							
地域・学歴勘案	93.9							
国に比べて給与水準が高くなっている定量的な理由								
給与水準の適切性の検証	<p>【国からの財政支出について】</p> <p>支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 92.0% (国からの財政支出額 12,650百万円, 支出予算の総額 13,756百万円:平成25年度予算)</p> <p>支出総額に占める給与・報酬等支給額の割合 6.0% (支出総額(平成25年度決算ベース) 14,032,071千円, 給与・報酬等支出総額 840,361千円)</p> <p>管理職の割合 8.5% 大卒以上の割合 100%</p> <p>【検証結果】</p> <p>国からの財政支出の割合が大きいですが,平成25年度の研究職員の給与水準は,対国家公務員の指数を下回っており,適切なものであると認識している。</p>							
	<p>【累積欠損額について】</p> <p>累積欠損額 0円(平成24年度決算)</p>							
	<p>【検証結果】</p> <p>非該当</p>							
講ずる措置	引き続き適正な給与水準を維持する							

Ⅲ 総人件費について

区 分	当年度 (平成25年度)	前年度 (平成24年度)	比較増△減	中期目標期間開始時(平成 23年度)からの増△減
給与, 報酬等支給総額 (A)	千円 840,361	千円 809,789	千円 (%) 30,572 (3.8)	千円 (%) △ 71,786 (△ 7.9)
退職手当支給額 (B)	千円 28,349	千円 80,676	千円 (%) △ 52,327 (△ 64.9)	千円 (%) △ 28,353 (△ 50.0)
非常勤役職員等給与 (C)	千円 286,251	千円 324,790	千円 (%) △ 38,539 (△ 11.9)	千円 (%) △ 16,279 (△ 5.4)
福利厚生費 (D)	千円 149,801	千円 148,191	千円 (%) 1,610 (1.1)	千円 (%) △ 2,571 (△ 1.7)
最広義人件費 (A+B+C+D)	千円 1,304,762	千円 1,363,446	千円 (%) △ 58,684 (△ 4.3)	千円 (%) △ 118,989 (△ 8.4)

総人件費について参考となる事項

「国家公務員の退職手当の支給水準引下げ等について」(平成24年8月7日閣議決定)に基づき、以下の措置を講ずることとした。

・役職員の退職手当について、経過措置を設け段階的に支給水準の引き下げを実施した。

役員に関する講じた措置の概要: 在職期間1月あたりの支給割合を引き下げた

平成25年1月1日から(12.5/100→12.25/100)

平成25年10月1日から(12.25/100→11.5/100)

職員に関する講じた措置の概要: すべての退職者に対し調整率を引き下げた

平成25年1月1日から(104/100→98/100)

平成25年10月1日から(98/100→92/100)

Ⅳ 法人が必要と認める事項

特になし